

山都町有機農業推進計画

「資料編」

山都町

アンケート調査票

有機農業に関するアンケート

山都町役場 農林振興課

山都町では、町内の有機農業の現況等を把握し、有機農業に関する施策を検討するため、有機農業に取り組まれている皆様を対象にアンケート調査を実施いたします。

アンケート結果は個人の特定できない形で取りまとめ、有機農業推進計画策定のための資料として活用しますので、御協力をお願いします。

令和3年8月27日（金）までに返信用封筒にてご返送いただくか、山都町役場農林振興課 農政係（担当：仁田水）まで提出していただきますようお願いいたします。（山都町役場農林振興課 TEL 72-1136）

★本アンケートにおいて「有機農業」とは・・・

「科学的に合成された肥料及び農薬を使用せず、遺伝子組み換え技術を利用しない農業生産の方法」とします。有機JASの認定を受けていない場合も含みます。

※ 各項目に記入または該当する番号に○をつけてください。

氏名 _____ 性別 ① 男性 ② 女性 年齢 _____ 歳代

I. 有機農業の経営の現状について

1. 農業経営に係る人数を教えてください。

経営主 _____ 人 家族従業員 _____ 人 従業員 _____ 人 常時パート _____ 人 臨時パート _____ 人

2. 有機農業の取り組み年数を教えてください。 約 _____ 年

3. 後継者はいますか。

① いる（年齢 _____ 歳代） ② いない ③ 後継は望んでいない ④ まだ考えていない

4. 経営形態について教えてください。

① 法人化している ② 法人化していないが、いずれ法人化を考えている ③ 家族経営を続ける
④ その他（ _____ ）

5. 農業経営面積を教えてください。 ※該当する経営面積をご記入ください。

	水稲	野菜	果樹	茶	その他
全体経営面積 （普通栽培含む）	a	a	a	a	a
うち有機取組面積	a	a	a	a	a
うち JAS 認証面積	a	a	a	a	a

6. 有機農業による主な生産品目を3つまでご記入ください。例：（米）（ピーマン）（玉ねぎ）等 （ _____ ）（ _____ ）（ _____ ）

7. 令和2年分の農業経営売上金額を教えてください。

	水稲	野菜	果樹	茶	その他
全体経営売上金額 （普通栽培含む）	万円	万円	万円	万円	万円
うち有機売上金額	万円	万円	万円	万円	万円
うち JAS 売上金額	万円	万円	万円	万円	万円

8. 農林業以外の仕事をしていますか。

- ① 農林業以外の仕事はしていない
② 定期的に農林業以外の仕事をしている
⇒ 平均で週何時間働いていますか 週 _____ 時間
③ 季節的（農閑期）に農林業以外の仕事をしている
⇒ 仕事をしている期間と週何時間働いているか教えてください _____ 月から _____ 月まで 週 _____ 時間

9. 有機農産物の出荷先について、販売金額の多い順から【 】に1～3の番号をご記入ください。 ※出荷先が2か所以下の場合は、2か所以下の選択でかまいません。その他の場合は具体的にご記入ください。

【 】 J A 【 】 個人宅配 【 】 生協 【 】 直売所 【 】 町内の販売業者
【 】 量販店（スーパー） 【 】 卸売市場 【 】 飲食店 【 】 ネット販売
【 】 自然食品店 【 】 その他（ _____ ）

II. 今後の有機農業の取り組み意向について

1. 今後、有機農業の取り組み面積の規模をどのようにお考えですか。

- ① 増やしたい ⇒ どのくらい増やしたいですか？（面積 _____ a ⇒ _____ a） ⇒ 問2へ
② 条件が整えば増やしたい ⇒ 問2へ
③ 維持したい } 問3へ
④ 減らしたい }

2. 1で①・②を回答された方にお聞きします。有機農業の取り組みを増やすのに必要な条件は何ですか。（3つまで選択可）

- ① 雇用や研修生などの労働力の確保
② 新たな農地の確保
③ 新たな販売先の確保
④ 生産技術の確立・向上
⑤ 機械化及びICT技術の導入
⑥ その他（具体的に _____ ）

アンケート調査票

3. 1で③・④を回答された方にお聞きます。その理由は何ですか。有機農業の取り組みを維持するために特に必要な条件は何ですか。(3つまで選択可)

- ① 後継者の確保
- ② 雇用や研修生などの労働力の確保
- ③ 新たな販売先の確保
- ④ 生産技術の確立・向上
- ⑤ 機械化及びICT技術の導入
- ⑥ その他

具体的に

4. 現在の販路について、需要と供給のバランスはどうですか。

- ① バランスが取れている(生産可能な量と出荷先が引き受け可能な量が同程度である)
- ② 需要が多く、生産が追い付いていない
- ③ 生産に余力があるが、販路がない

5. 有機JASの認証を受けている方にお聞きます。今後も継続して有機JASの認証を受けられますか。

- ① 継続して受ける(面積を拡大したい)
- ② 継続して受ける(面積を維持したい)
- ③ 継続して受けるが面積の縮小を考えている
- ④ 今後、認証を受けないことを検討している

問9へ

問6へ

6. 有機JASの認証面積の縮小または認証を受けないことを検討している理由は何ですか。(3つまで選択可)

- ① 後継者・労働力が不足
- ② 生産行程管理等に手間がかかる
- ③ 申請手続きに手間がかかる
- ④ 認証に係る費用が高い
- ⑤ メリットが少ない

具体的に

- ⑥ その他

具体的に

7. 有機JASの認証を受けていない方にお聞きます。認証を受けることについてどうお考えですか。

- ① 今後、認証を受ける予定 ⇒ 問9へ
- ② 条件が整えば受けたいが、今は難しい
- ③ 認証を受けるつもりはない

問8へ

8. 認証を受けることが困難な理由は何ですか。(3つまで選択可)

- ① 営農方法、農地等が要件を満たさない
- ② 生産行程管理等に手間がかかる
- ③ 申請手続きに手間がかかる
- ④ 認証に係る費用が高い
- ⑤ 有機JAS制度の内容を理解するのが難しい
- ⑥ メリットが少ない

具体的に

- ⑦ その他

具体的に

9. 有機農業の推進に向けてどのような方策が必要だとお考えですか。(3つまで選択可)

- ① 誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及
- ② 有機農産物の販路拡大に向けた取り組み
- ③ 流通コスト削減に向けた取り組み
- ④ 機械化及びICT技術の導入支援等、省力・効率化に向けた取り組み
- ⑤ 有機農業での就農希望者、新規就農者の確保
- ⑥ 有機JAS認証取得・申請に関する支援
- ⑦ 消費者に有機農業(農産物)を理解させる取り組み
- ⑧ 有機農業者のネットワーク化の推進(情報交換できる関係構築)
- ⑨ その他

具体的に

10. 有機農業に取り組む上での課題、要望等についてご自由に記載ください。

※ ご回答いただきありがとうございました。

アンケート調査の回答状況

配布数：123

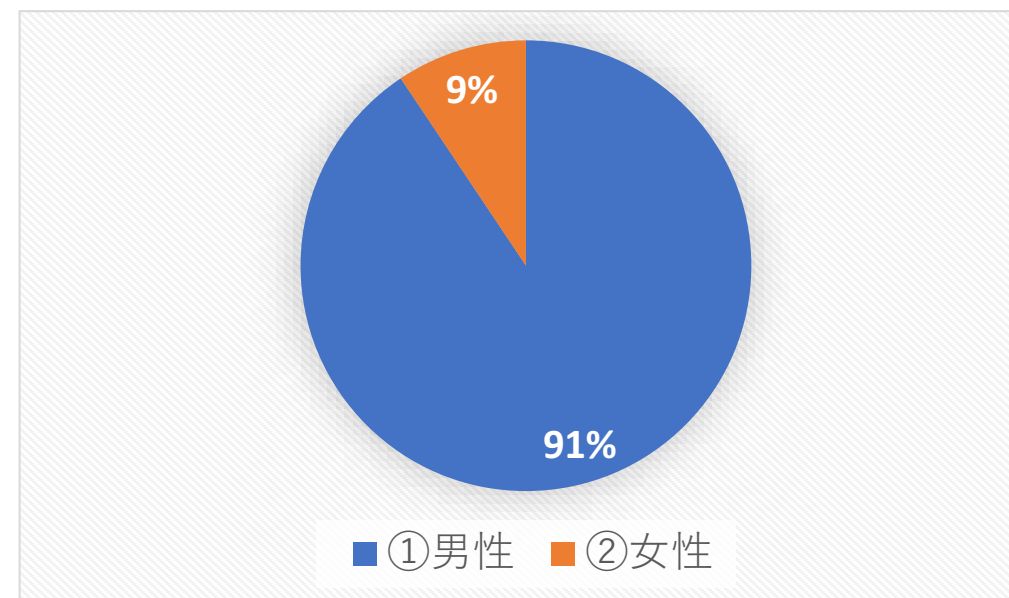
回答数：64

回答率：52%

アンケート調査期間：2021年8月～9月

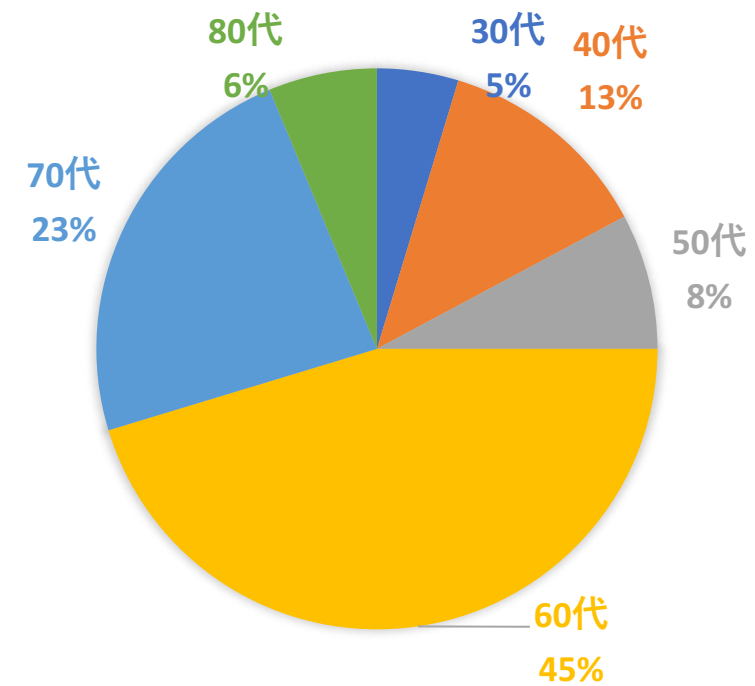
アンケート回答者の属性

性別	人数
①男性	58
②女性	6
合計	64



Point : 91%男性が回答している

年代	人数
20代	0
30代	3
40代	8
50代	5
60代	29
70代	15
80代	4
90代	0
合計	64

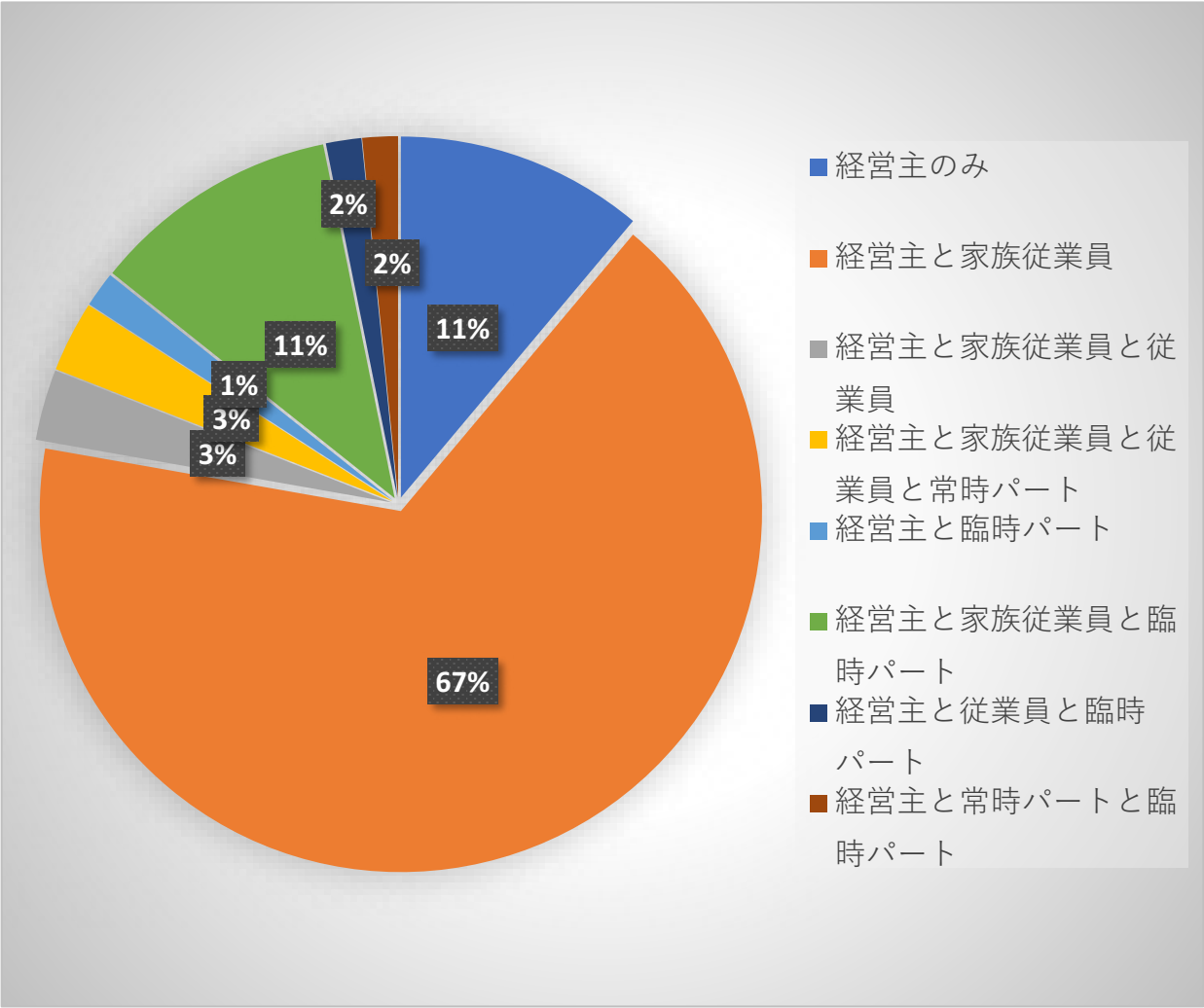


Point : 68%が60代以上が回答している

I. 有機農業経営の現状について

1. 経営に係る人数について

経営主のみ	7
経営主と家族従業員	42
経営主と家族従業員と従業員	2
経営主と家族従業員と従業員と常時パート	2
経営主と臨時パート	1
経営主と家族従業員と臨時パート	7
経営主と従業員と臨時パート	1
経営主と常時パートと臨時パート	1
組合	1
合計	64

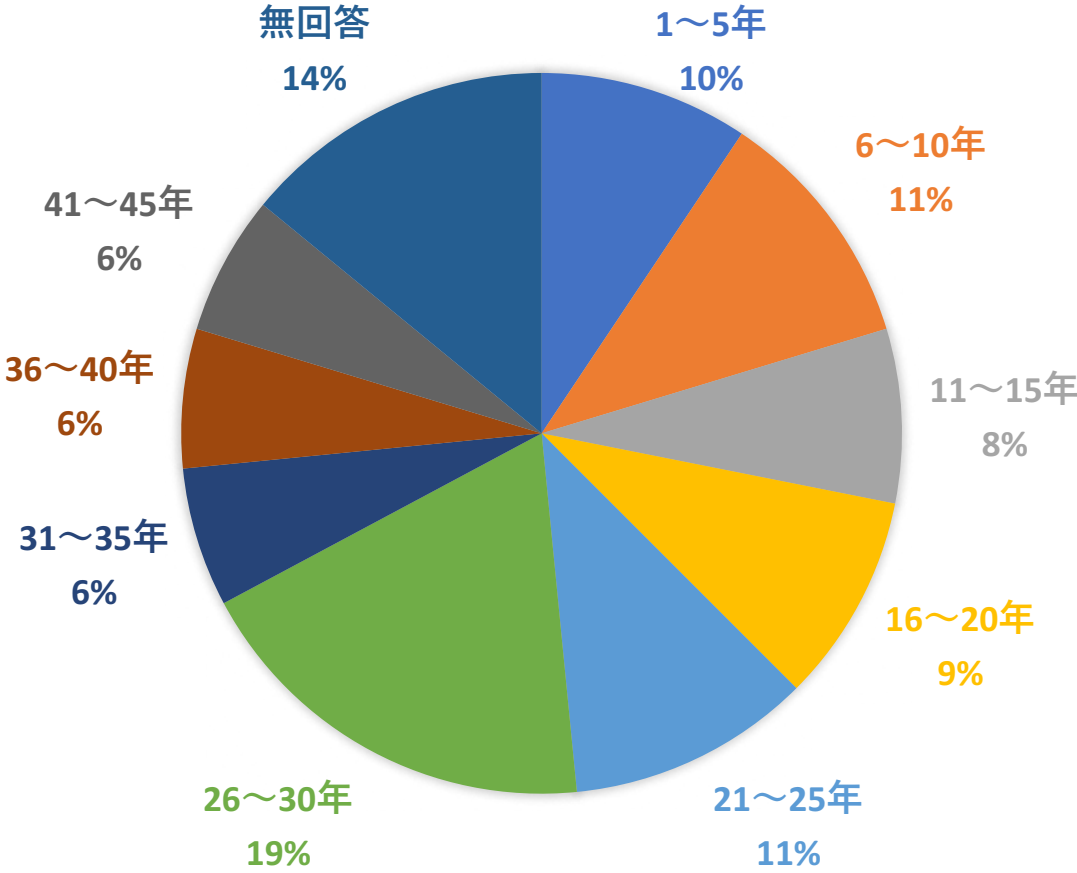


Point : 67%が経営主と家族従業員の家族経営
11%が経営者のみ
11%が経営主と家族従業員と臨時パート

1. 有機農業経営の現状について

2. 取組年数について

1～5年	6
6～10年	7
11～15年	5
16～20年	6
21～25年	7
26～30年	12
31～35年	4
36～40年	4
41～45年	4
46～50年	0
無回答	9
合計	64



Point：26～30年が一番多い(19%)

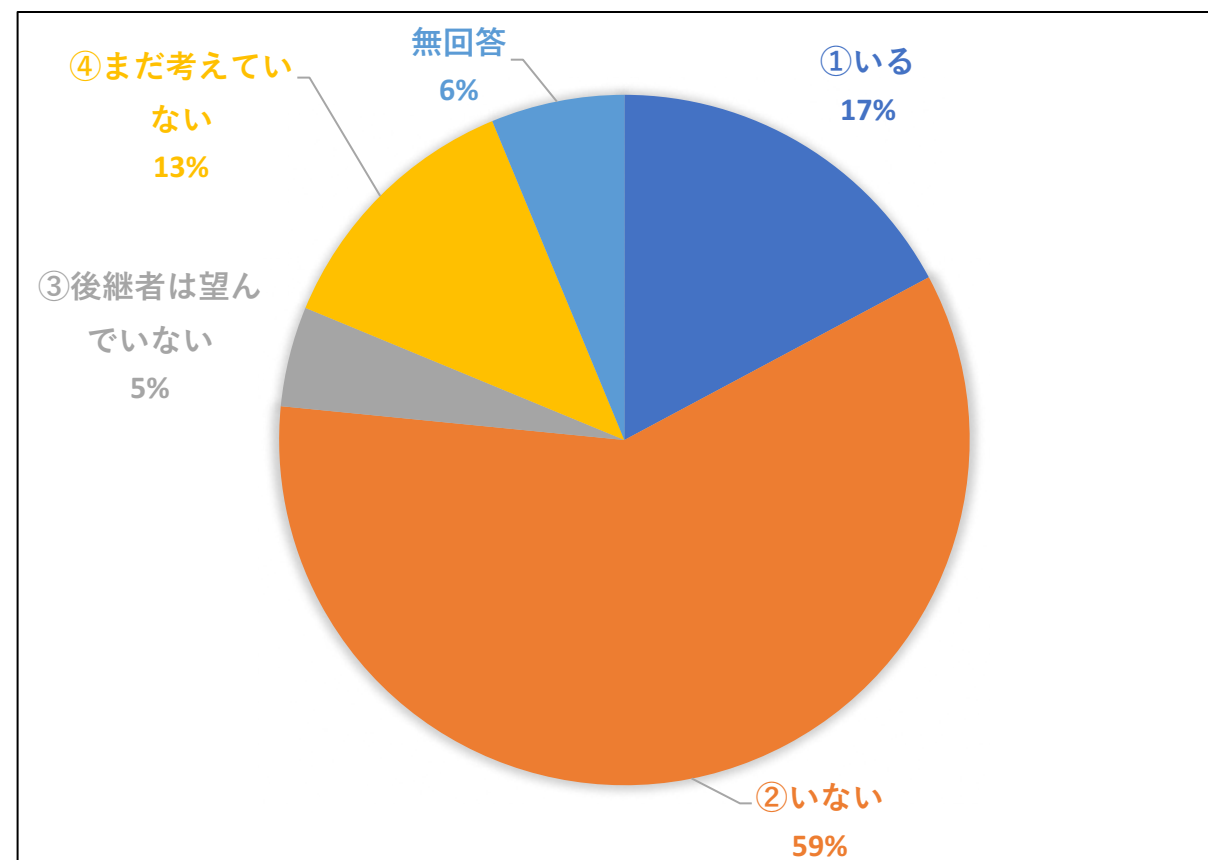
1. 有機農業経営の現状について

3. 後継者について

①いる	11
②いない	38
③後継者は望んでいない	3
④まだ考えていない	8
無回答	4
合計	64

「①いる」と答えた後継者の年代

20代	2
30代	5
40代	4
合計	11

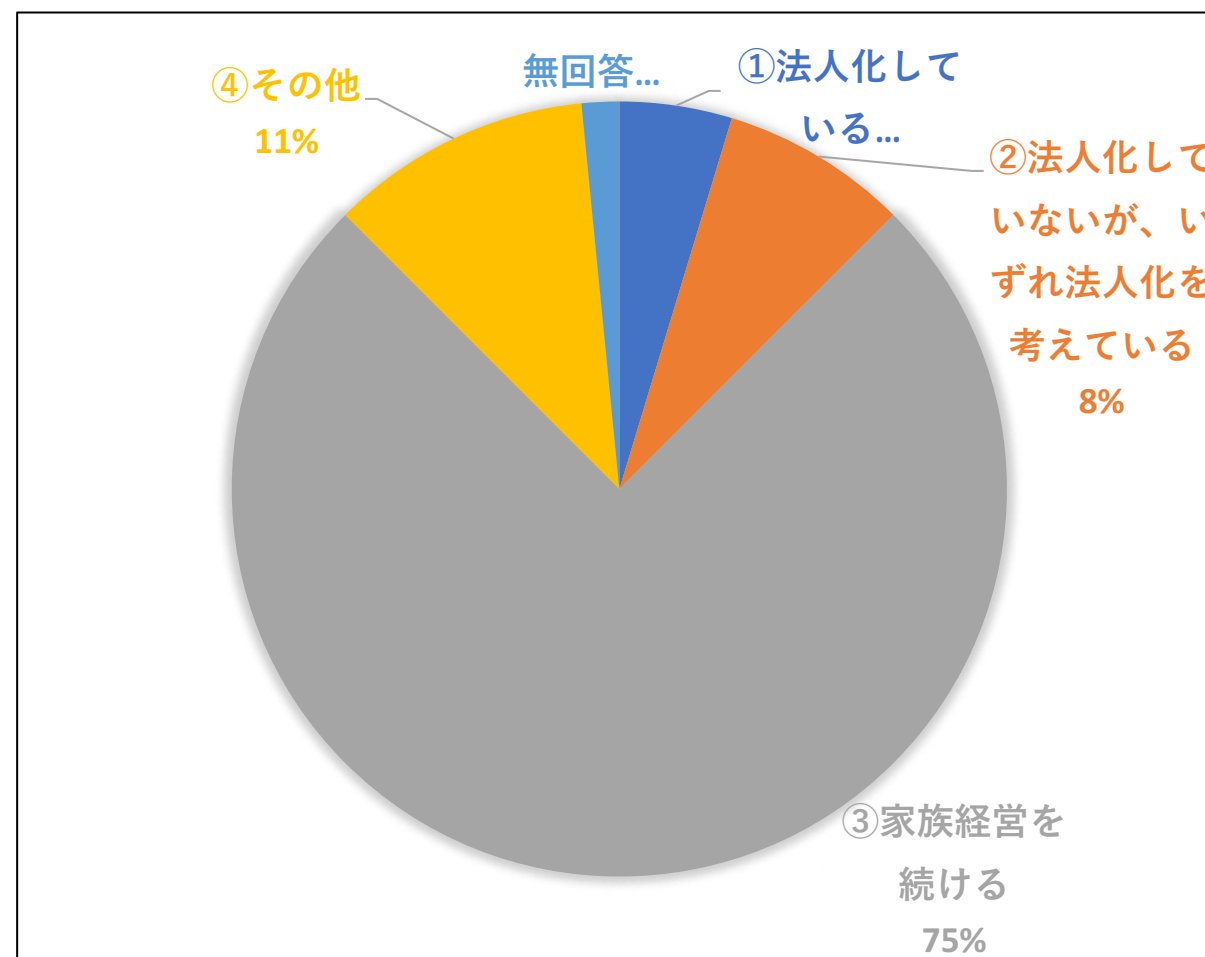


Point：後継者は②いないが59%

Ⅰ. 有機農業経営の現状について

4. 経営体形態

①法人化している	3
②法人化していないが、いずれ法人化を考えている	5
③家族経営を続ける	48
④その他	7
無回答	1
合計	64



Point：「家族経営を続ける」が75%

Ⅰ．有機農業経営の現状について

5．全体経営面積 単位：a

	全体経営面積	うち有機取組	
			うち有機JAS
水稻	5,831.6	3,443.7	1,947.8
野菜	4,516.6	3,989.6	3,521.6
果樹	410.0	290.0	10.0
茶	815.0	805.0	150.0
その他	630.0	120.0	100.0
合計	12,203.2	8,648.3	5,729.4

1. 有機農業経営の現状について

5. 水稻経営面積 単位：a

全体経営面積

水稻なし	16
30a未満	4
30～50a未満	6
50～100a未満	12
100～150a未満	10
150～200a未満	8
200～250a未満	4
250～300a未満	0
300～350a未満	2
350～400a未満	1
400～450a未満	1
合計	64

合計面積	5,831.6
------	---------

うち有機取組み面積

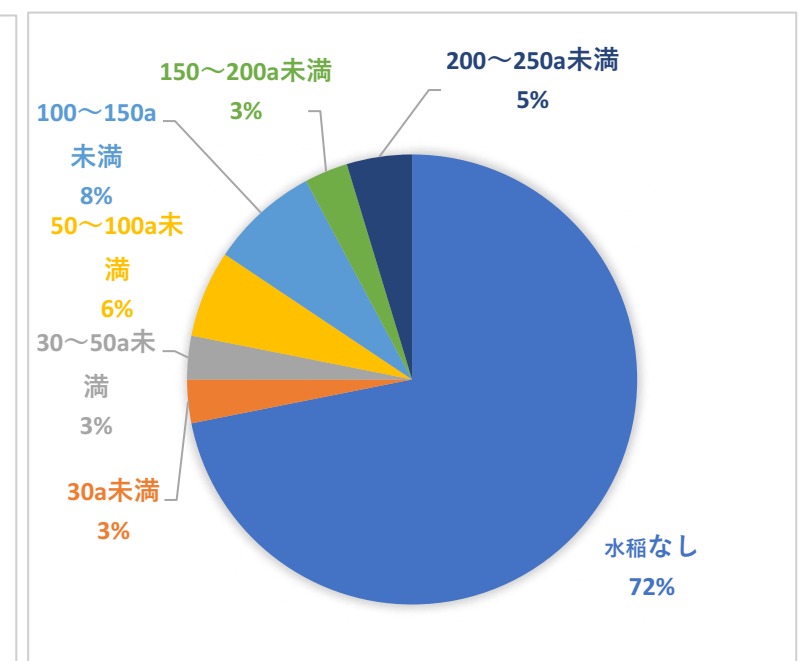
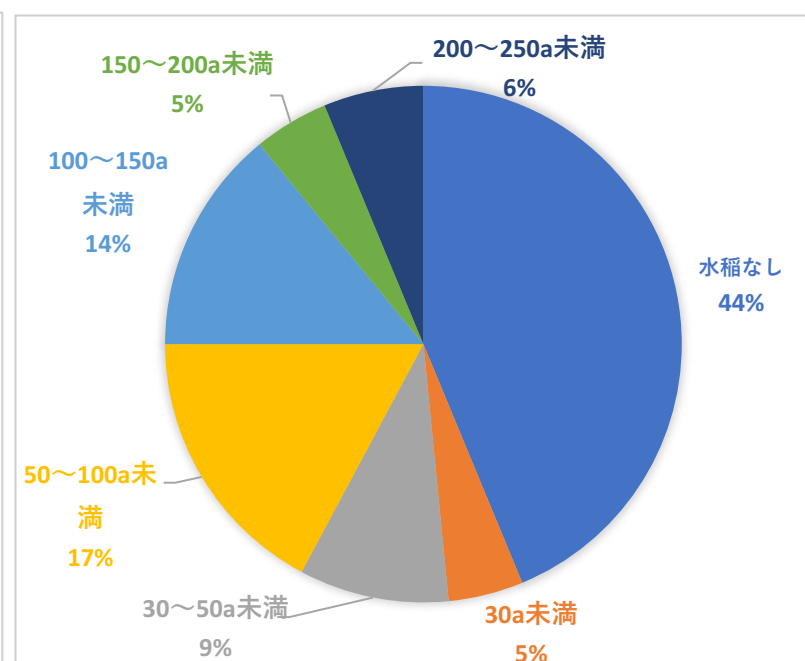
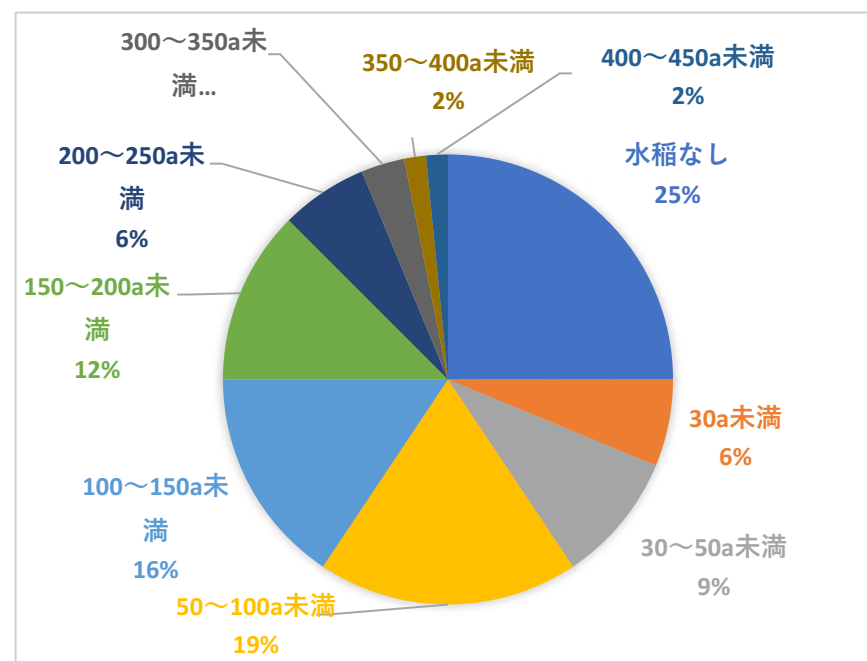
水稻なし	28
30a未満	3
30～50a未満	6
50～100a未満	11
100～150a未満	9
150～200a未満	3
200～250a未満	4
250～300a未満	0
300～350a未満	0
350～400a未満	0
400～450a未満	0
合計	64

合計面積	3,443.7
------	---------

うち有機JAS取組み面積

水稻なし	46
30a未満	2
30～50a未満	2
50～100a未満	4
100～150a未満	5
150～200a未満	2
200～250a未満	3
250～300a未満	0
300～350a未満	0
350～400a未満	0
400～450a未満	0
合計	64

合計面積	1,947.8
------	---------



Point：全体経営面積→うち有機取組み面積→うち有機JAS取組み面積への減少率が高い
各面積規模からの縮小が見られる

1. 有機農業経営の現状について

5. 野菜経営面積 単位：a

全体経営面積

野菜なし	26
30a未満	5
30～50a未満	3
50～100a未満	13
100～150a未満	6
150～200a未満	4
200～250a未満	3
250～300a未満	0
300～350a未満	1
350～400a未満	2
400～450a未満	1
合計	64

合計面積	4,516.6
------	---------

うち有機取組み面積

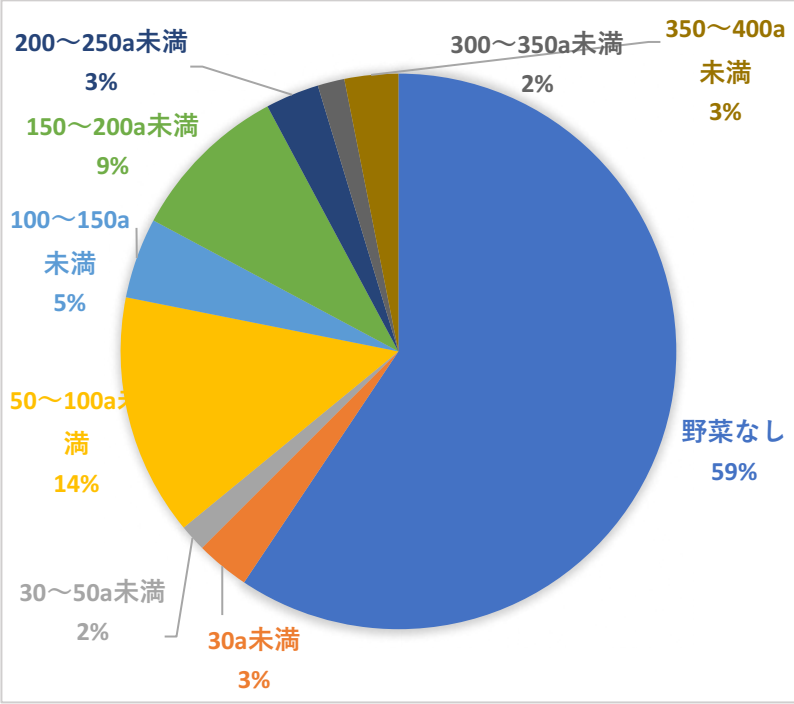
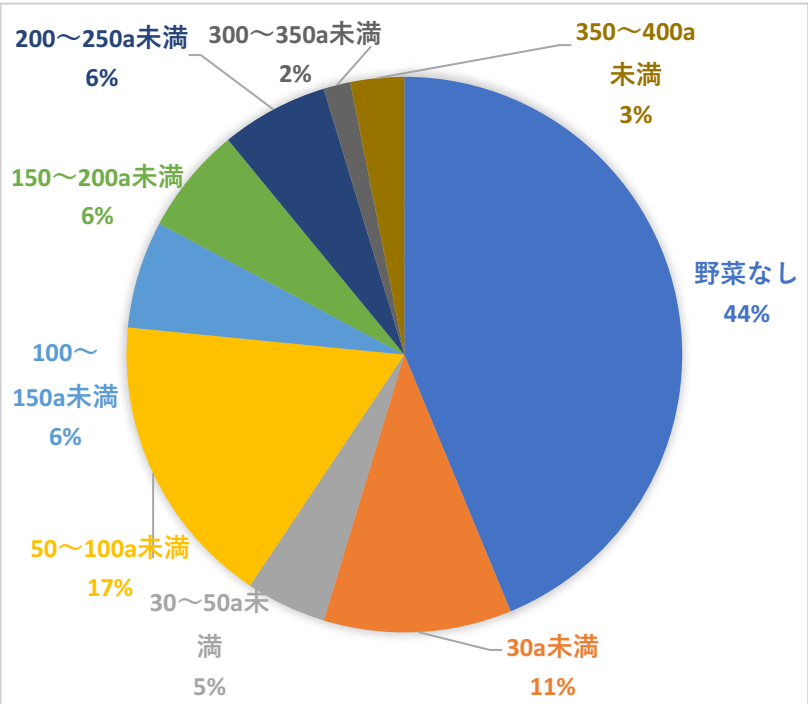
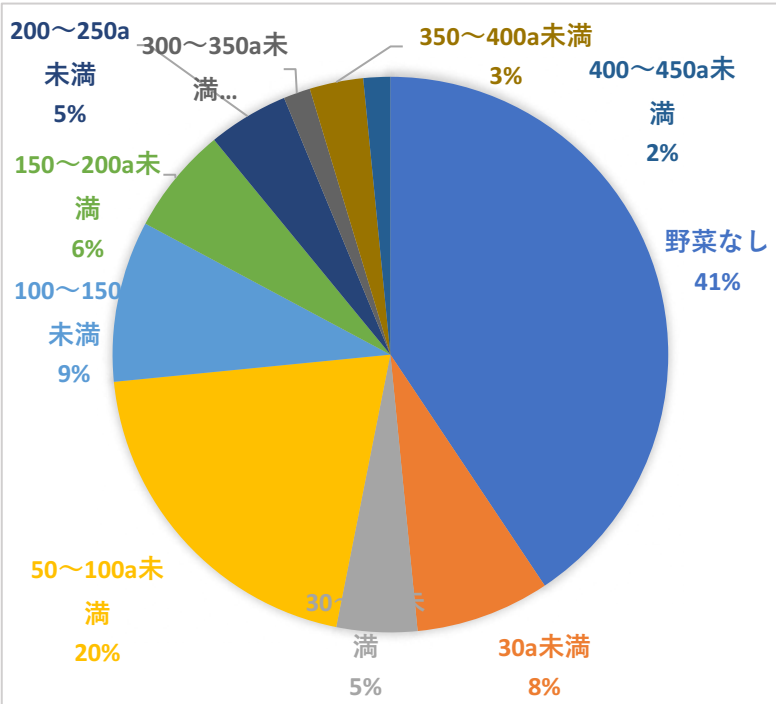
野菜なし	28
30a未満	7
30～50a未満	3
50～100a未満	11
100～150a未満	4
150～200a未満	4
200～250a未満	4
250～300a未満	0
300～350a未満	1
350～400a未満	2
400～450a未満	0
合計	64

合計面積	3,989.6
------	---------

うち有機JAS取組み面積

野菜なし	38
30a未満	2
30～50a未満	1
50～100a未満	9
100～150a未満	3
150～200a未満	6
200～250a未満	2
250～300a未満	0
300～350a未満	1
350～400a未満	2
400～450a未満	0
合計	64

合計面積	3,521.6
------	---------



Point：全体経営面積→うち有機取組み面積→うち有機JAS取組み面積への減少率が水稻に比べ小さい
うち有機取組み面積→うち有機JAS取組み「面積なし」が増加している

1. 有機農業経営の現状について

5. 果樹経営面積 単位：a

全体経営面積

果樹なし	54
30a未満	7
30～50a未満	0
50～100a未満	2
100～150a未満	0
150～200a未満	0
200～250a未満	1
合計	64

合計面積	410.0
------	-------

うち有機取組み面積

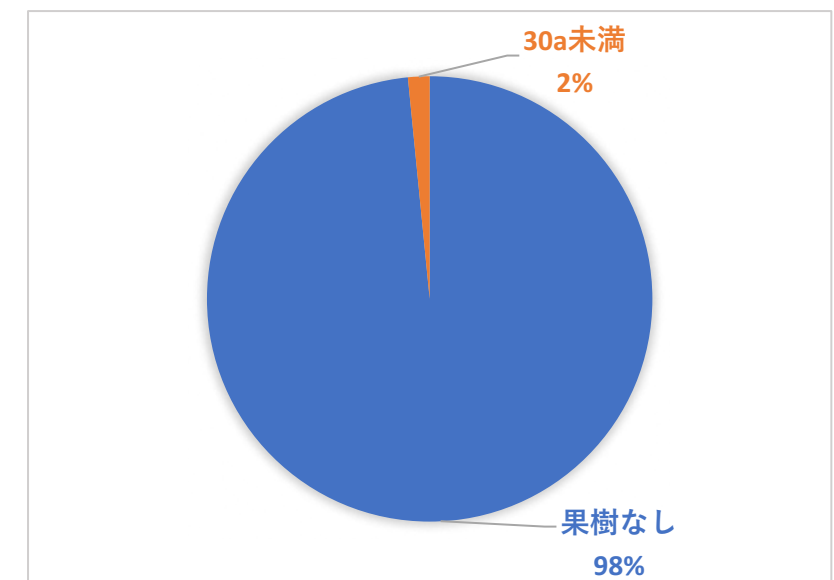
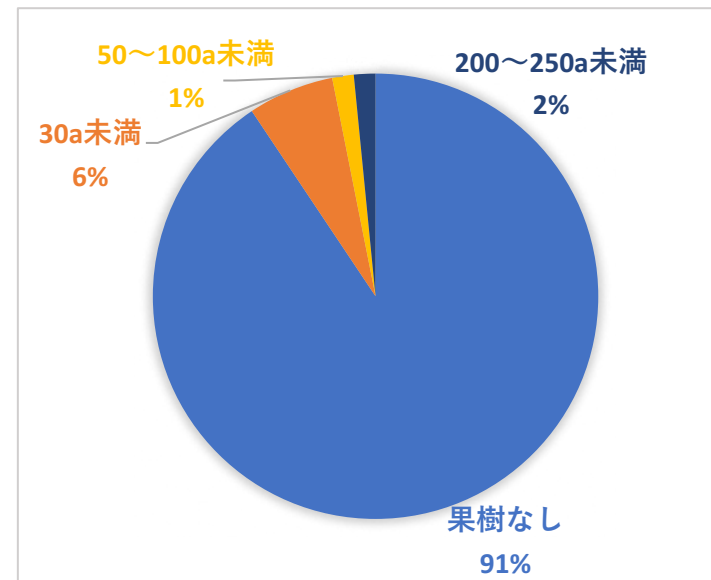
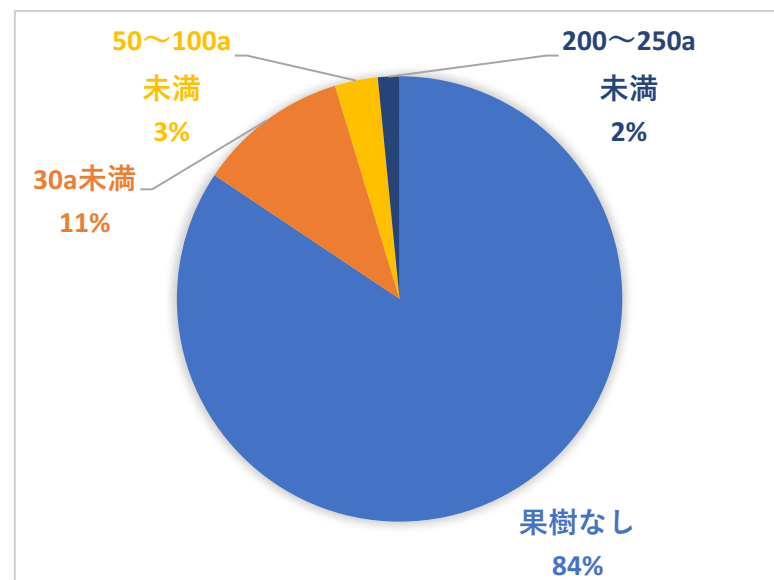
果樹なし	58
30a未満	4
30～50a未満	0
50～100a未満	1
100～150a未満	0
150～200a未満	0
200～250a未満	1
合計	64

合計面積	290.0
------	-------

うち有機JAS取組み面積

果樹なし	63
30a未満	1
30～50a未満	0
50～100a未満	0
100～150a未満	0
150～200a未満	0
200～250a未満	0
合計	64

合計面積	10.0
------	------



Point：全体経営面積→うち有機取組み面積→うち有機JAS取組み面積への減少率が大い

1. 有機農業経営の現状について

5. 茶経営面積 単位：a

全体経営面積

茶なし	56
30a未満	2
30～50a未満	0
50～100a未満	2
100～150a未満	2
150～200a未満	1
200～250a未満	0
250～300a未満	1
合計	64

合計面積	815.0
------	-------

うち有機取組み面積

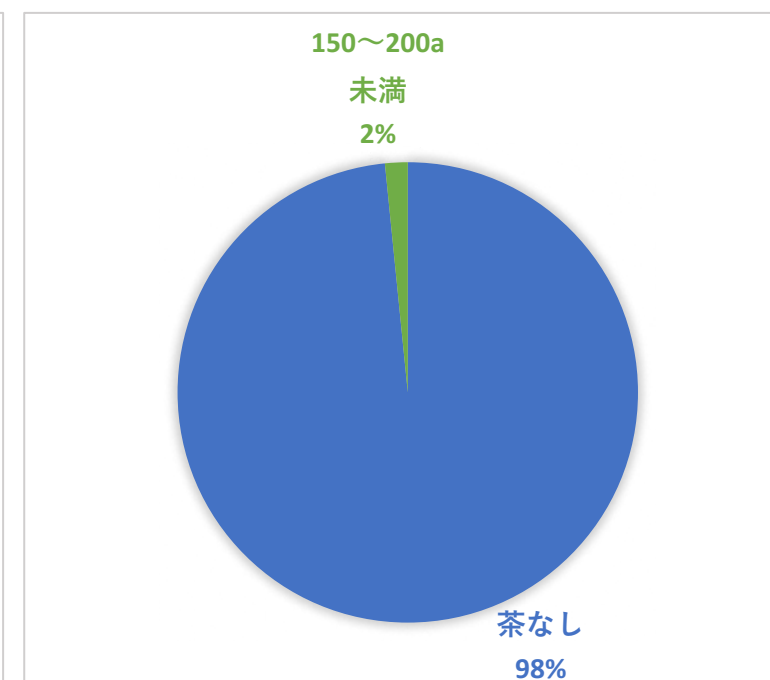
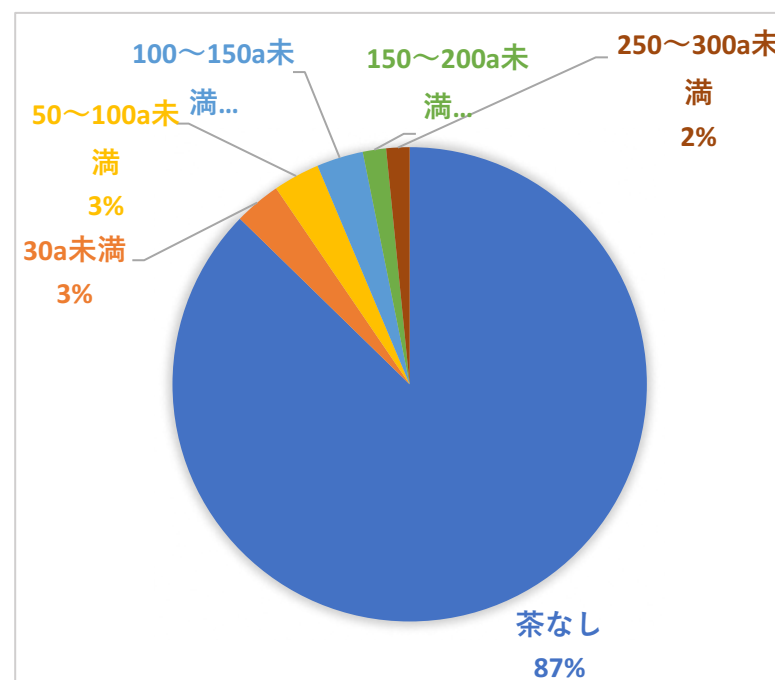
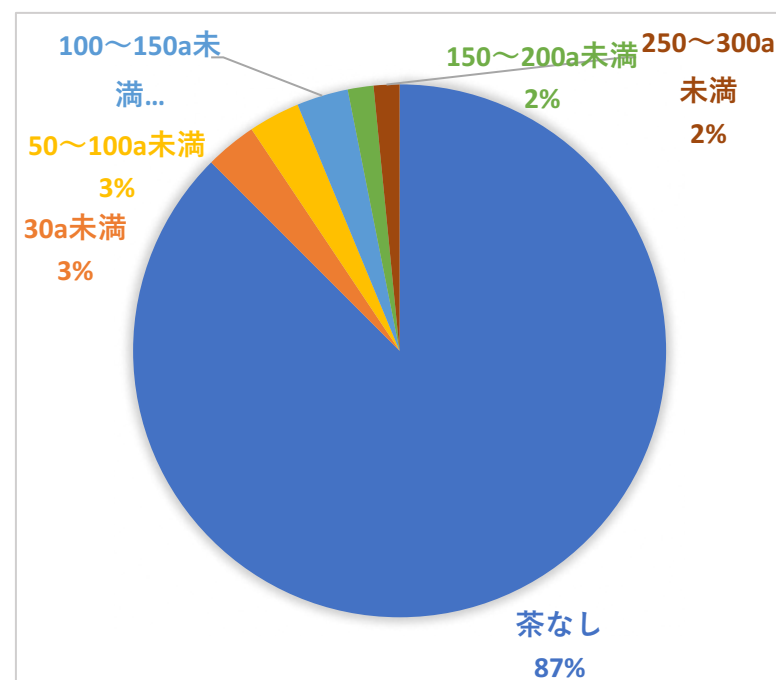
茶なし	56
30a未満	2
30～50a未満	0
50～100a未満	2
100～150a未満	2
150～200a未満	1
200～250a未満	0
250～300a未満	1
合計	64

合計面積	805.0
------	-------

うち有機JAS取組み面積

茶なし	63
30a未満	0
30～50a未満	0
50～100a未満	0
100～150a未満	0
150～200a未満	1
200～250a未満	0
250～300a未満	0
合計	64

合計面積	150.0
------	-------



Point：うち有機取組み面積→うち有機JAS取組み面積への減少率大きい

1. 有機農業経営の現状について

5. その他経営面積 単位：a

全体経営面積

その他なし	58
30a未満	2
30～50a未満	0
50～100a未満	1
100～150a未満	1
150～200a未満	0
200～250a未満	0
250a以上	1
合計	64

合計面積	630.0
------	-------

うち有機取組み面積

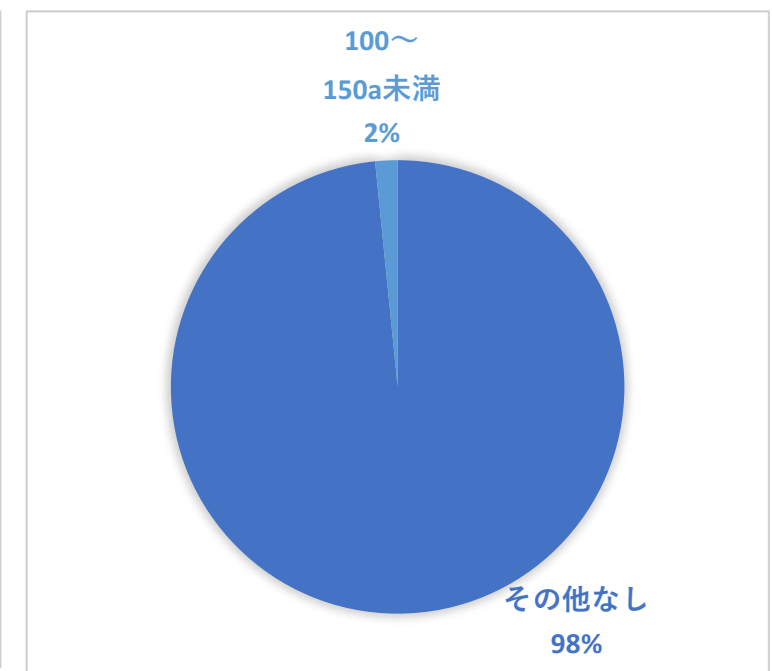
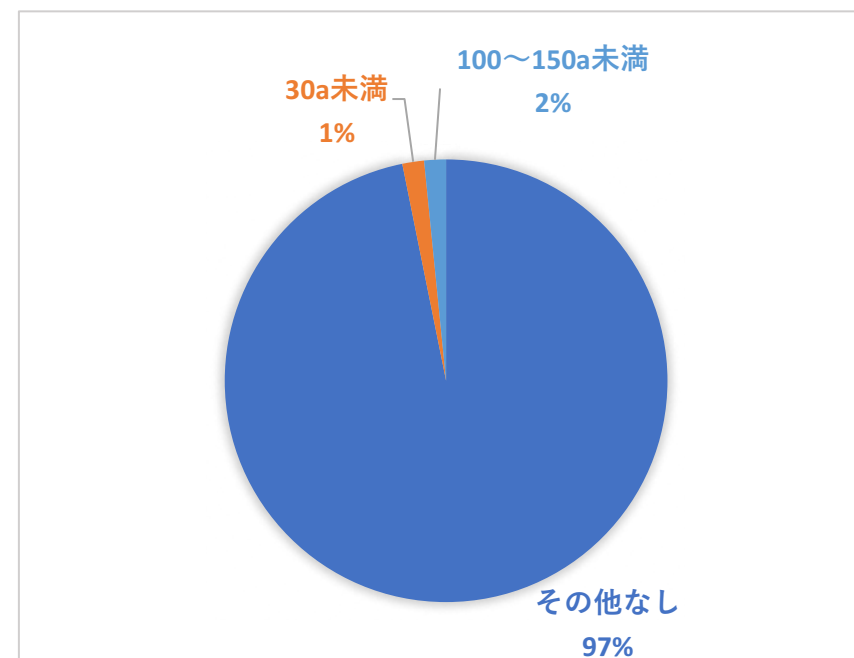
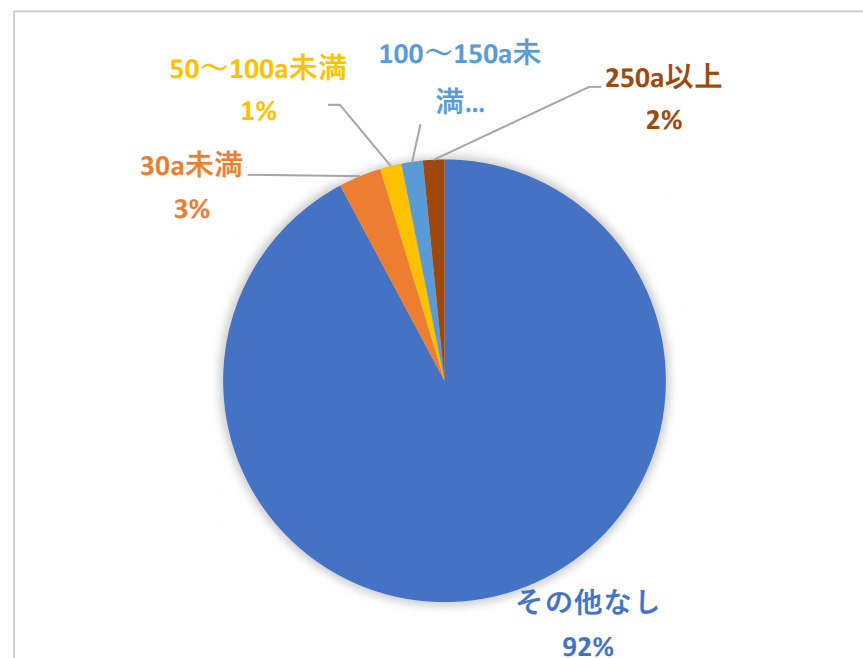
その他なし	62
30a未満	1
30～50a未満	0
50～100a未満	0
100～150a未満	1
150～200a未満	0
200～250a未満	0
250a以上	0
合計	64

合計面積	120.0
------	-------

うち有機JAS取組み面積

その他なし	63
30a未満	0
30～50a未満	0
50～100a未満	0
100～150a未満	1
150～200a未満	0
200～250a未満	0
250a以上	0
合計	64

合計面積	100.0
------	-------



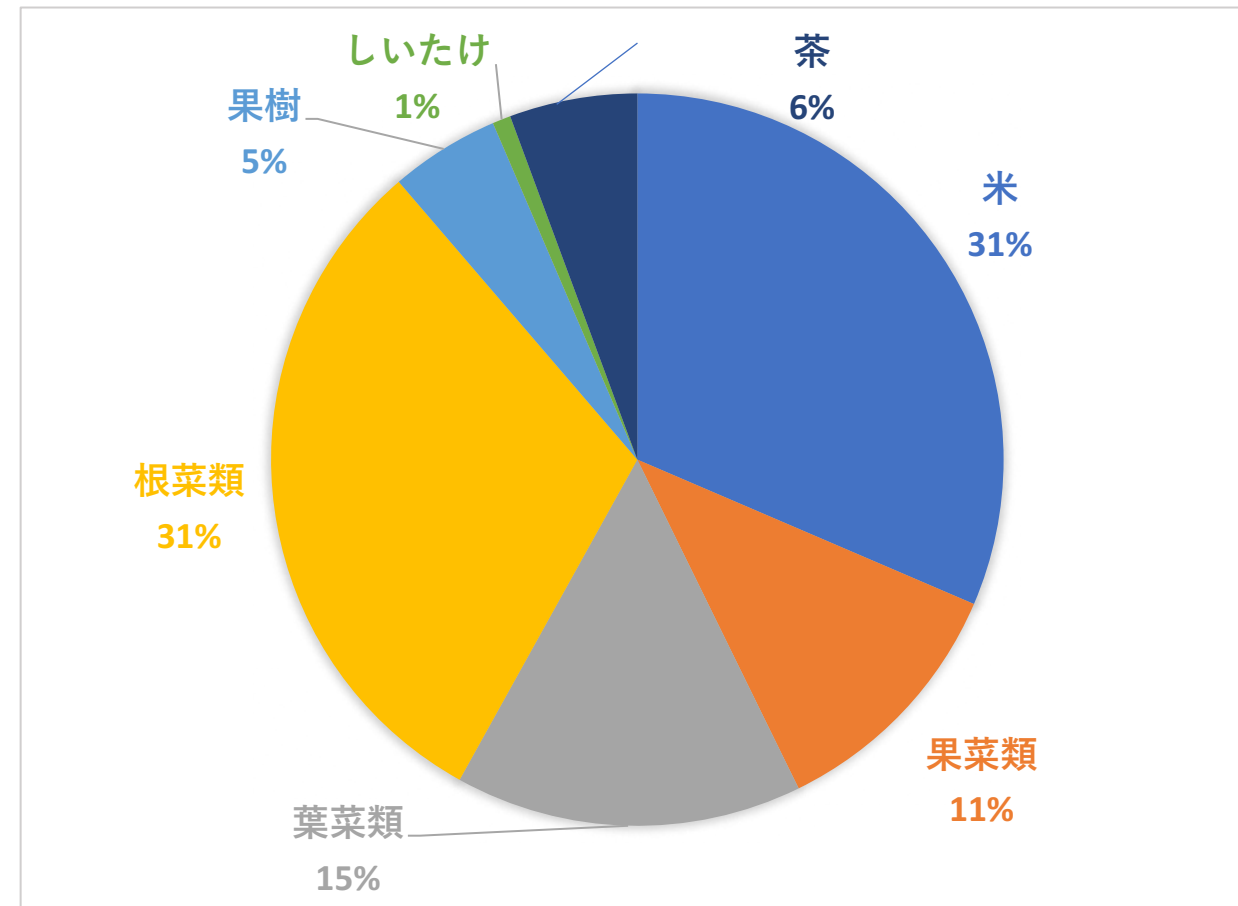
Point：全体経営面積→うち有機取組み面積→うち有機JAS取組み面積への減少率大きい

1. 有機農業経営の現状について

6. 生産品目について

米	米	39
果菜類	ピーマン	5
	トマト	1
	ミニトマト	1
	なす	1
	きゅうり	3
	かぼちゃ	1
	スイートコーン	2
葉菜類	ベビーリーフ	3
	ほうれん草	3
	小ネギ	1
	白ネギ	1
	レタス	4
	チンゲン菜	2
	小松菜	3
	みょうが	1
	ブロッコリー	1
根菜類	にんじん	11
	じゃがいも	2
	子かぶ	1
	里いも	8
	れんこん	2
	にんにく	4
	菊芋	2
	玉ネギ	6
	つくね芋	1
	ショウガ	1
果樹	ブルーベリー	3
	栗	2
	銀杏	1
椎茸	しいたけ	1
茶	茶	7
	合計	124

米	39
果菜類	14
葉菜類	19
根菜類	38
果樹	6
椎茸	1
茶	7
合計	124



Point：米が31%、野菜(果菜類、葉菜類、根菜類)が57%となっている。

Ⅰ．有機農業経営の現状について

7．全体売上金額について 単位：万円

	全体経営売上	うち有機売上	
			うち有機JAS売上
水稻	3,960	2,287	1,230
野菜	19,673	16,627	15,053
果樹	189	76	0
茶	2,315	2,175	375
その他	1,630	130	50
合計	27,767	21,295	16,708

1. 有機農業経営の現状について

7. 水稻売上金額 単位：万円

全体経営売上金額

水稻なし	28
50万円未満	9
50～100万円未満	11
100～150万円未満	3
150～200万円未満	7
200～250万円未満	3
250～300万円未満	1
300～350万円未満	1
350～400万円未満	0
400～450万円未満	1
合計	64

合計金額	3,960
------	-------

うち有機売上金額

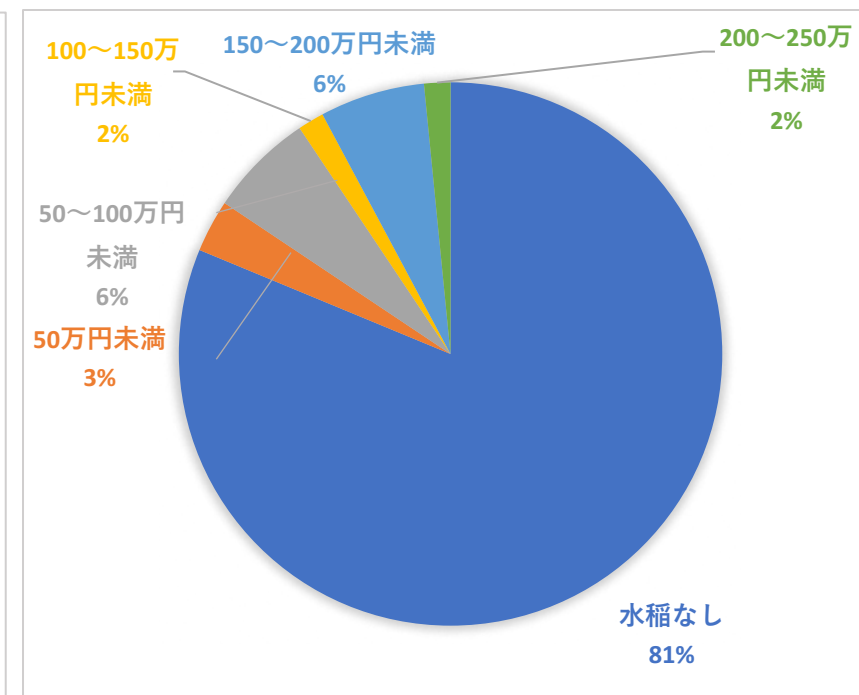
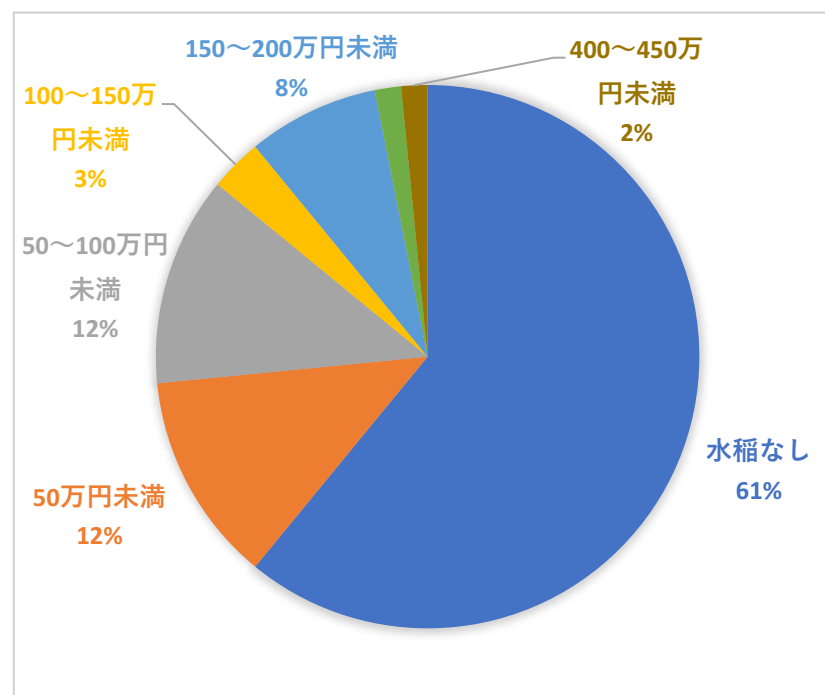
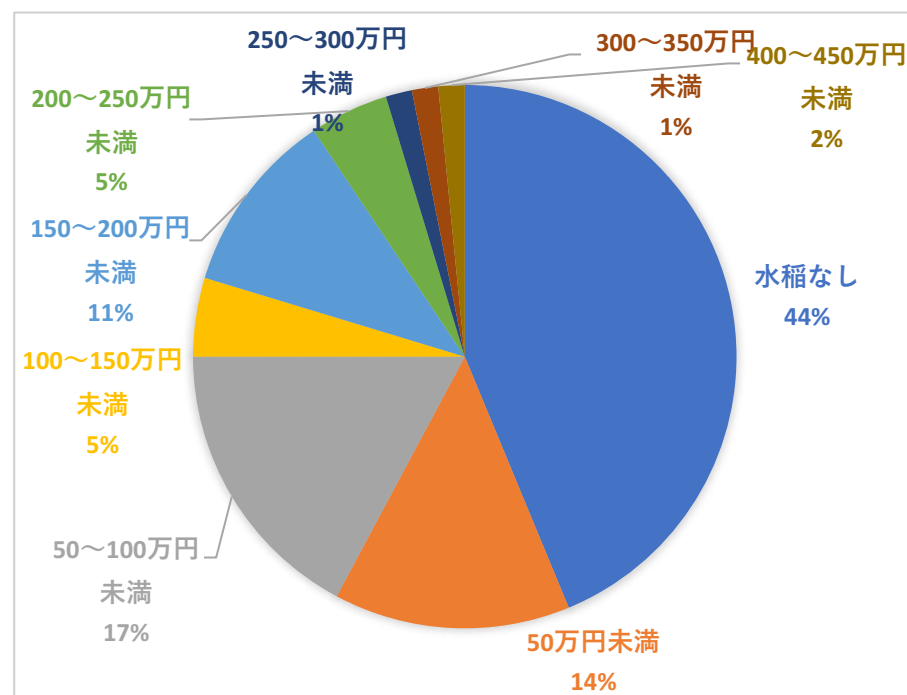
水稻なし	39
50万円未満	8
50～100万円未満	8
100～150万円未満	2
150～200万円未満	5
200～250万円未満	1
250～300万円未満	0
300～350万円未満	0
350～400万円未満	0
400～450万円未満	1
合計	64

合計金額	2,287
------	-------

うち有機JAS売上金額

水稻なし	52
50万円未満	2
50～100万円未満	4
100～150万円未満	1
150～200万円未満	4
200～250万円未満	1
250～300万円未満	0
300～350万円未満	0
350～400万円未満	0
400～450万円未満	0
合計	64

合計金額	1,230
------	-------



Point：全体経営売上金額→うち有機売上金額→うち有機JAS売上金額への減少率が大い

Ⅰ. 有機農業経営の現状について

7. 野菜売上金額 単位：万円

全体経営売上金額

野菜なし	36
100万円未満	6
100～300万円未満	4
300～600万円未満	6
600～900万円未満	5
900～1200万円未満	1
1200～1500万円未満	0
1500～1800万円未満	2
1800～2100万円未満	3
2100～2400万円未満	1
合計	64

合計金額	19,673
------	--------

うち有機売上金額

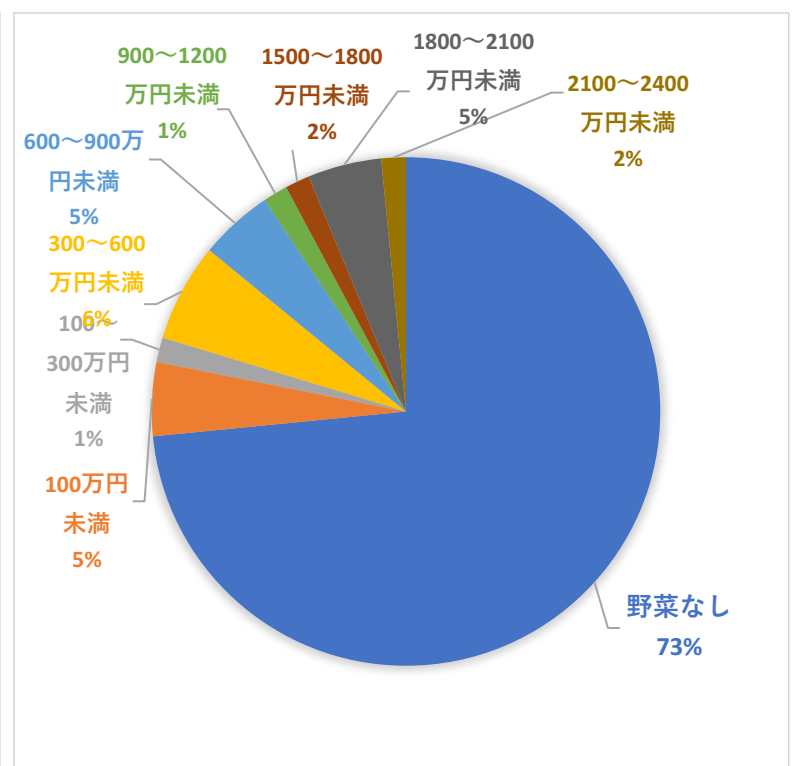
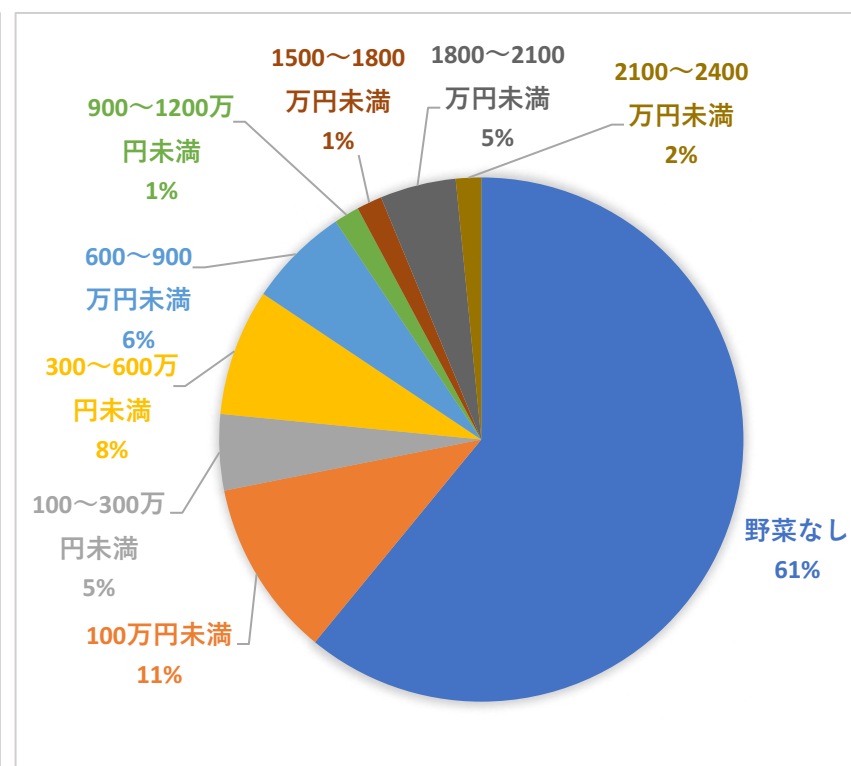
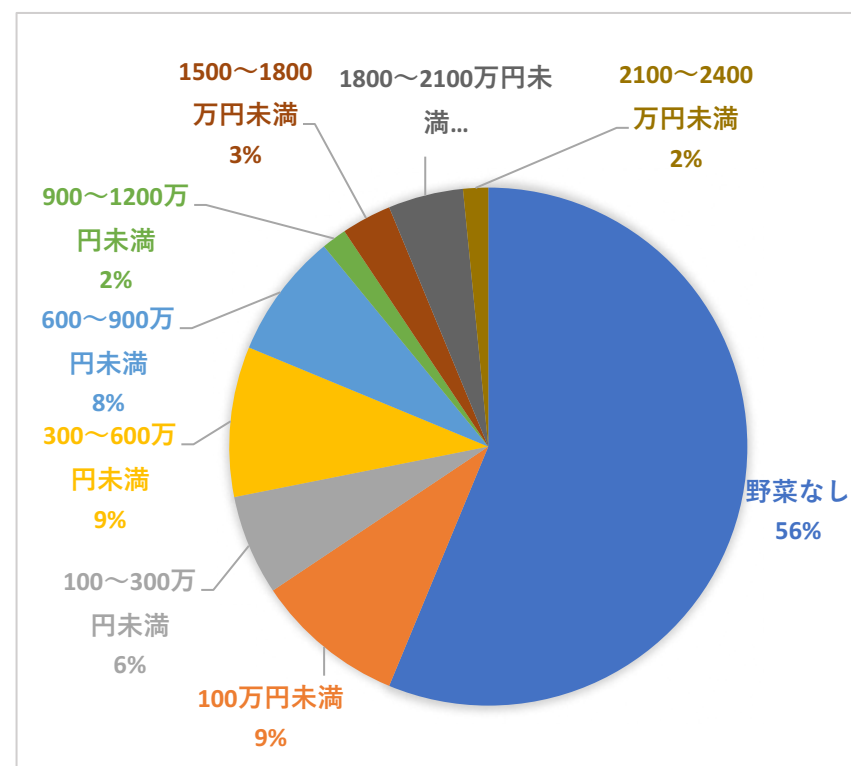
野菜なし	39
100万円未満	7
100～300万円未満	3
300～600万円未満	5
600～900万円未満	4
900～1200万円未満	1
1200～1500万円未満	0
1500～1800万円未満	1
1800～2100万円未満	3
2100～2400万円未満	1
合計	64

合計金額	16,627
------	--------

うち有機JAS売上金額

野菜なし	47
100万円未満	3
100～300万円未満	1
300～600万円未満	4
600～900万円未満	3
900～1200万円未満	1
1200～1500万円未満	0
1500～1800万円未満	1
1800～2100万円未満	3
2100～2400万円未満	1
合計	64

合計金額	15,053
------	--------



Point：全体経営売上金額→うち有機売上金額→うち有機JAS売上金額への減少率が水稻に比べ小さい

Ⅰ. 有機農業経営の現状について

7. 果樹売上金額 単位：万円

全体経営売上金額

果樹なし	59
30万円未満	3
30～100万円未満	2
合計	64

合計金額	189
------	-----

うち有機売上金額

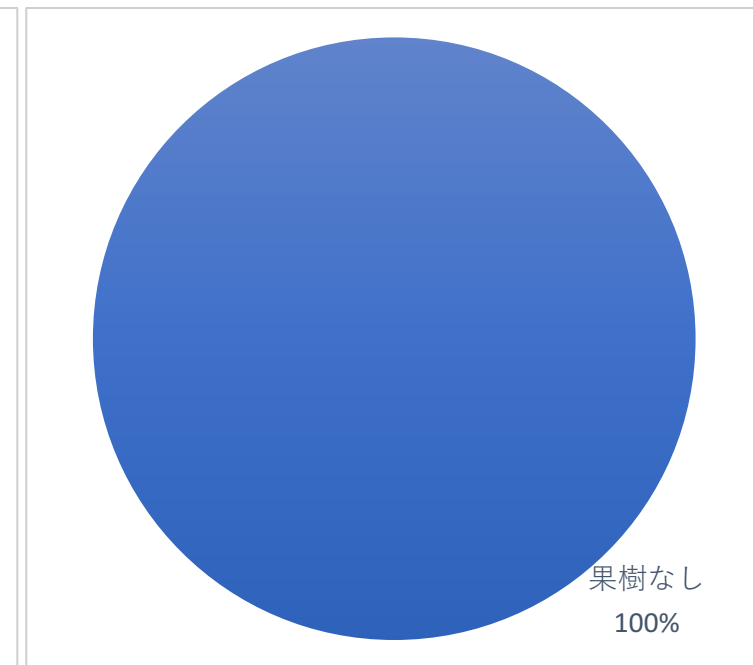
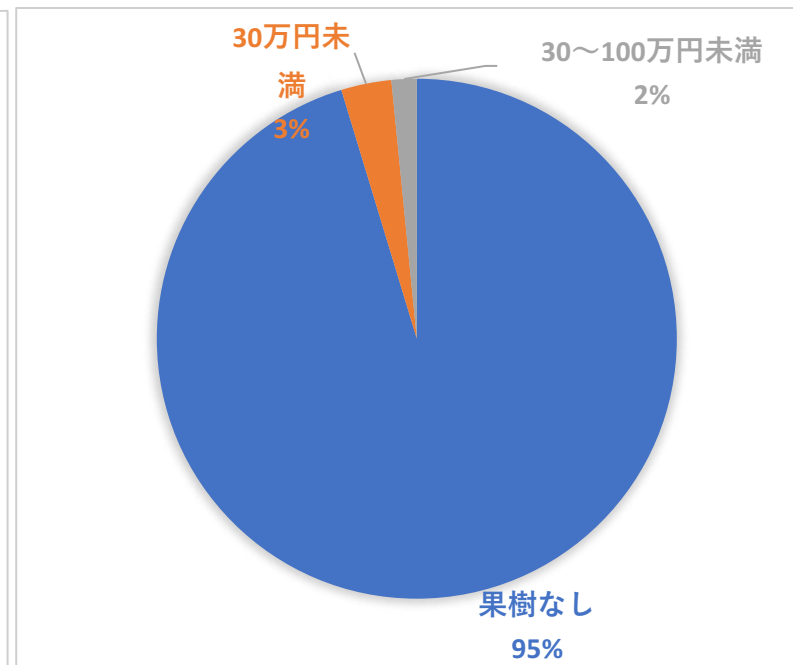
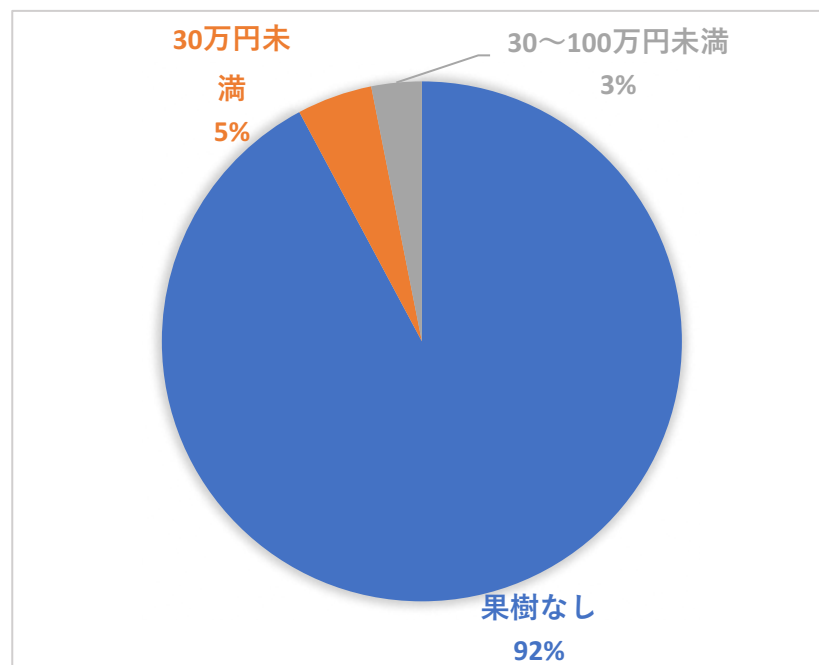
果樹なし	61
30万円未満	2
30～100万円未満	1
合計	64

合計金額	76
------	----

うち有機JAS売上金額

果樹なし	64
30万円未満	0
30～100万円未満	0
合計	64

合計金額	0
------	---



Point：全体経営売上金額→うち有機売上金額→うち有機JAS売上金額への減少率が多い

1. 有機農業経営の現状について

7. 茶売上金額 単位：万円

全体経営売上金額

茶なし	56
50万円未満	2
50～100万円未満	1
100～300万円未満	3
300～600万円未満	1
600～900万円未満	0
900～1200万円未満	0
1200～1500万円未満	1
合計	64

合計金額	2,315
------	-------

うち有機売上金額

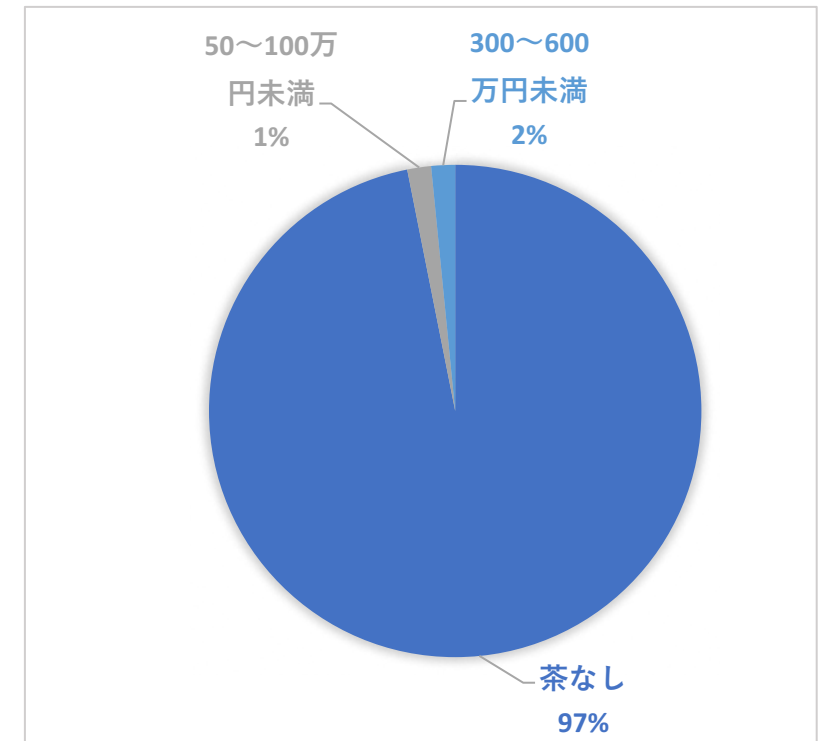
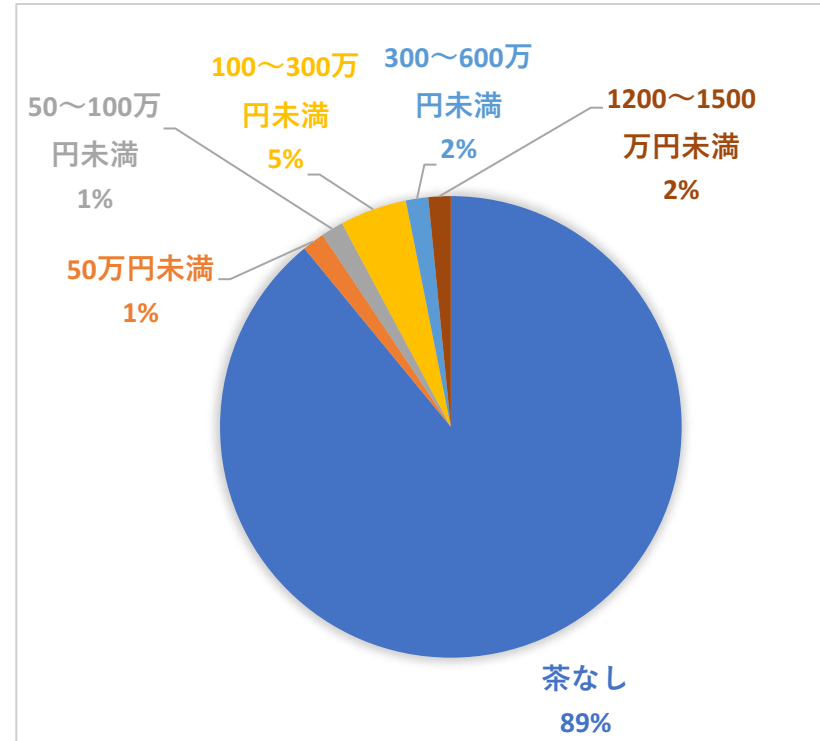
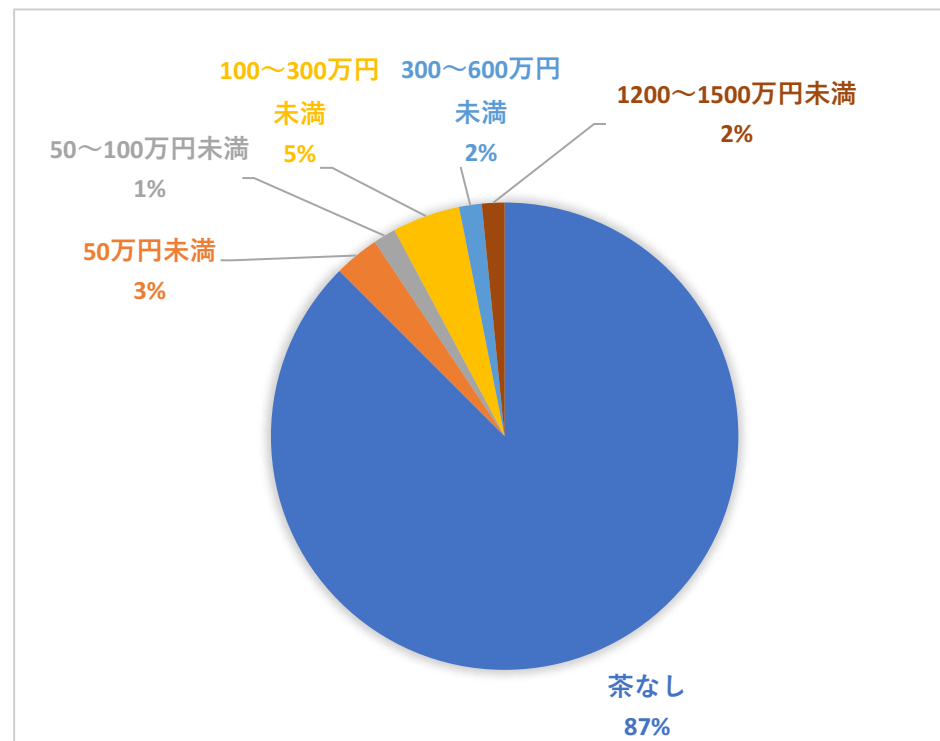
茶なし	57
50万円未満	1
50～100万円未満	1
100～300万円未満	3
300～600万円未満	1
600～900万円未満	0
900～1200万円未満	0
1200～1500万円未満	1
合計	64

合計金額	2,175
------	-------

うち有機JAS売上金額

茶なし	62
50万円未満	0
50～100万円未満	1
100～300万円未満	0
300～600万円未満	1
600～900万円未満	0
900～1200万円未満	0
1200～1500万円未満	0
合計	64

合計金額	375
------	-----



Point：うち有機売上金額→うち有機JAS売上金額への減少率大きい

Ⅰ. 有機農業経営の現状について

7. その他売上金額 単位：万円

全体経営売上金額

その他なし	61
50万円未満	0
50～100万円	2
1,000～1,500万円	1
合計	64

合計金額	1,630
------	-------

うち有機売上金額

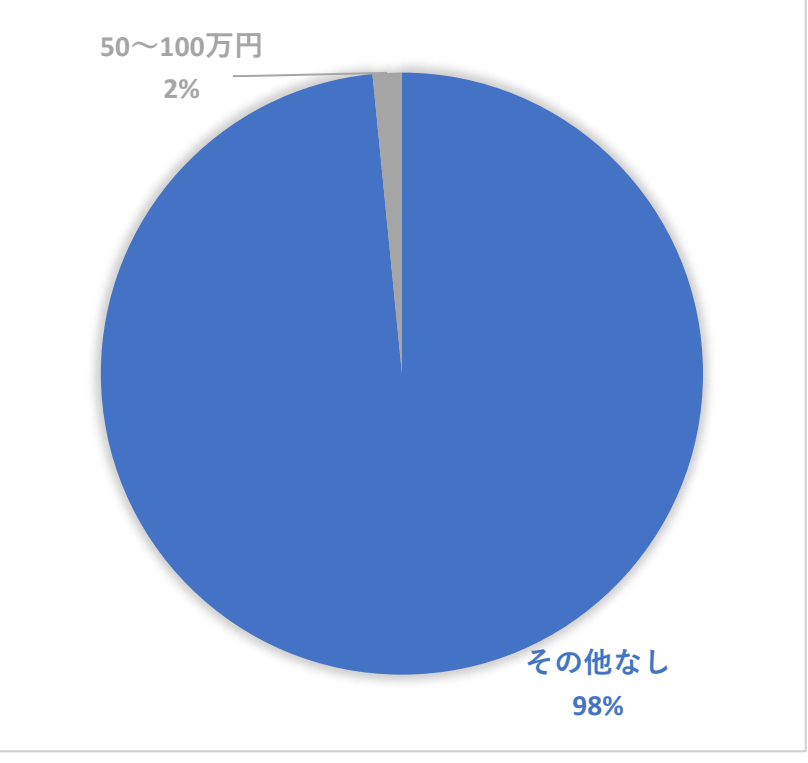
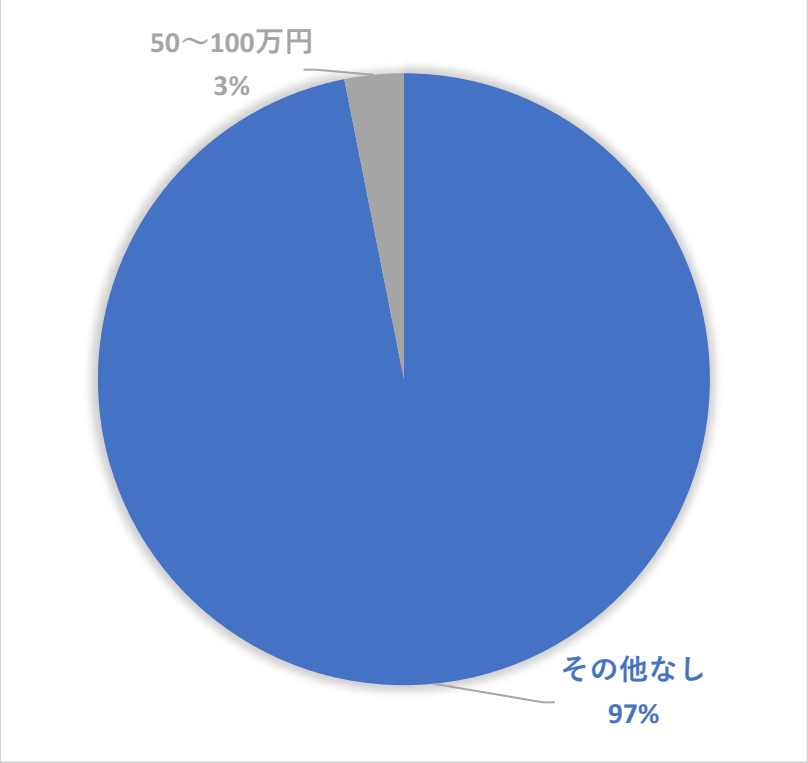
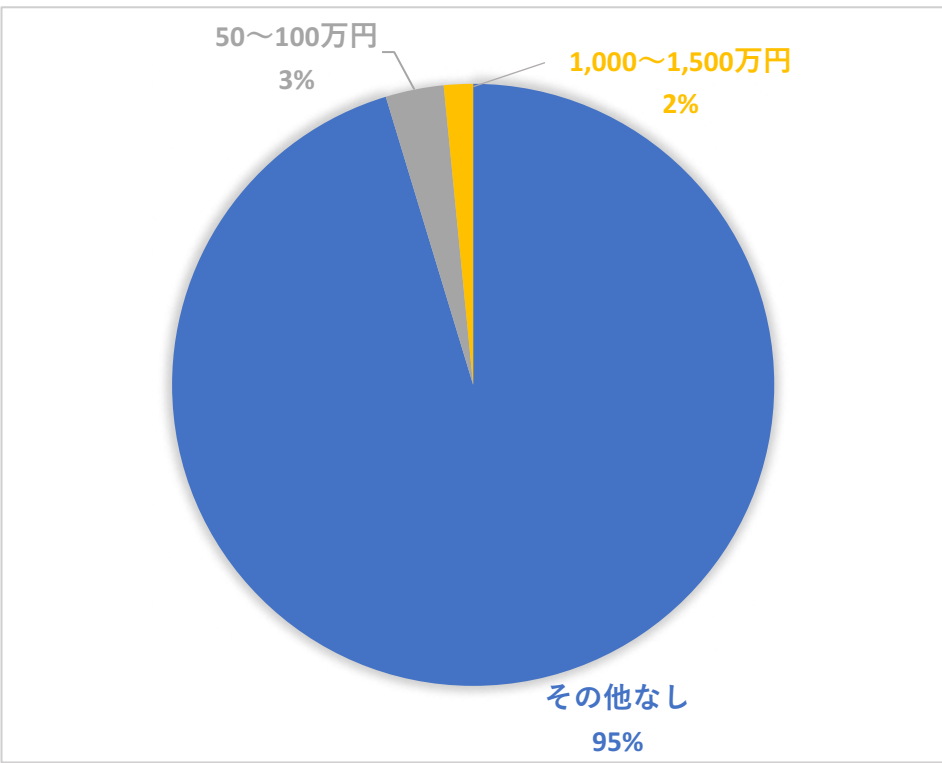
その他なし	62
50万円未満	0
50～100万円	2
1,000～1,500万円	0
合計	64

合計金額	130
------	-----

うち有機JAS売上金額

その他なし	63
50万円未満	0
50～100万円	1
1,000～1,500万円	0
合計	64

合計金額	50
------	----



Point：全体経営売上金額→うち有機売上金額への減少率が大さい

1. 有機農業経営の現状について

8. 農業以外の仕事 全体

全体

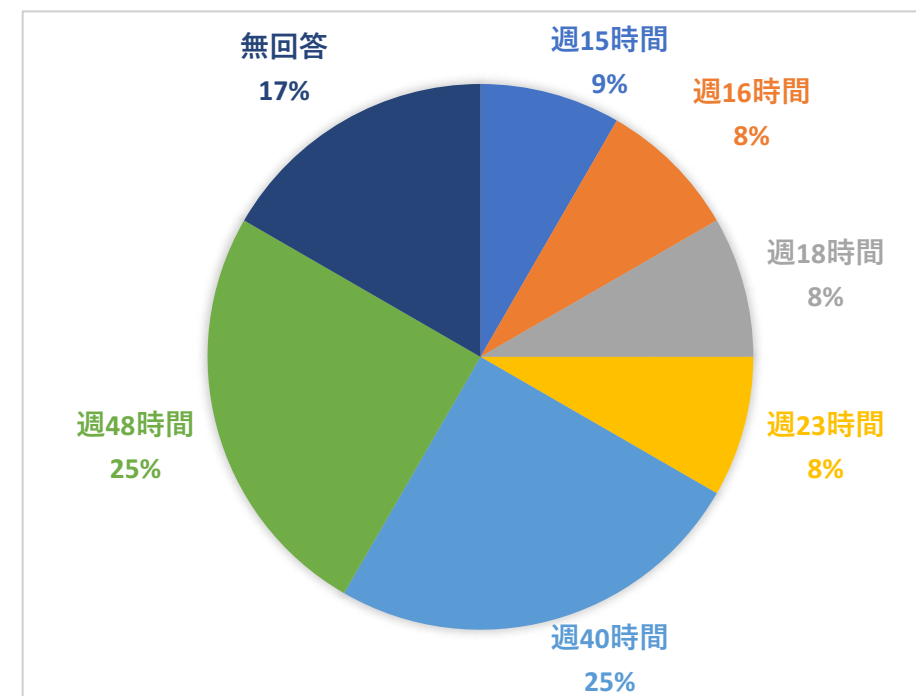
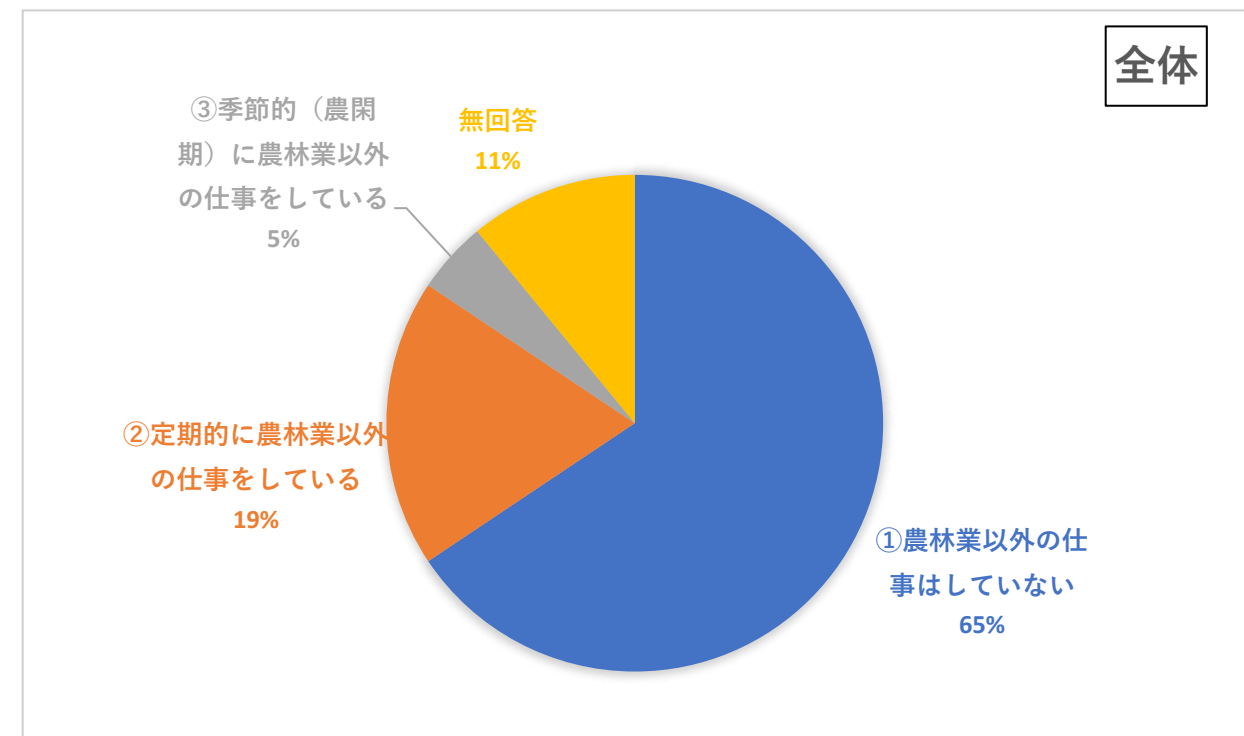
①農林業以外の仕事はしていない	42
②定期的に農林業以外の仕事をしている	12
③季節的（農閑期）に農林業以外の仕事をしている	3
無回答	7
合計	64

②定期的に農林業以外の仕事をしている

週15時間	1
週16時間	1
週18時間	1
週23時間	1
週40時間	3
週48時間	3
無回答	2
合計	12

③季節的（農閑期）に農林業以外の仕事をしている

9月～12月まで週50時間	1
2月から4月まで週24時間	1
11月から3月まで週20時間	1
合計	3



Point：農林業以外の仕事していないが65%、定期的に農林業以外の仕事しているが19%

Ⅰ. 有機農業経営の現状について

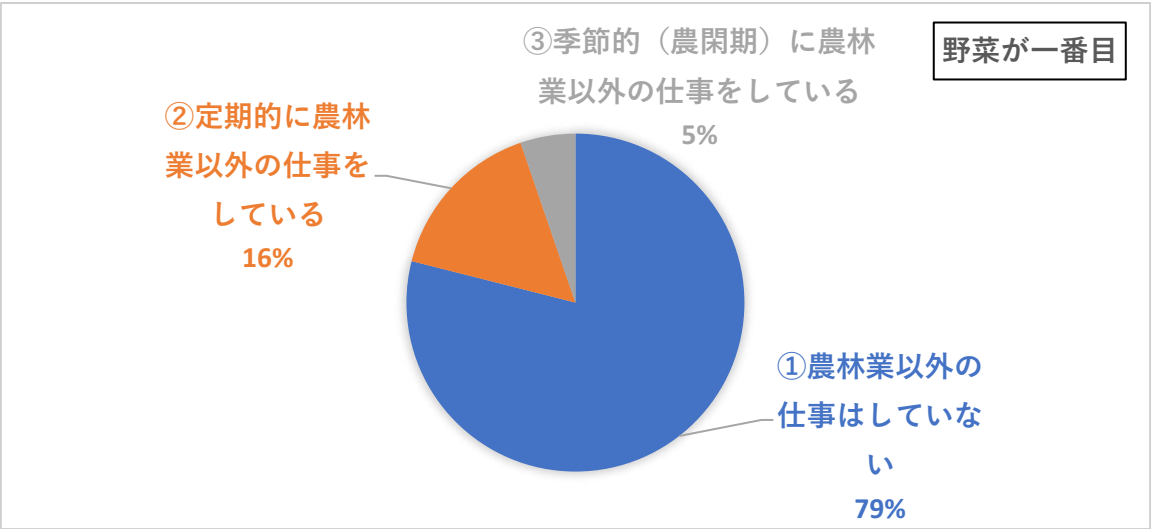
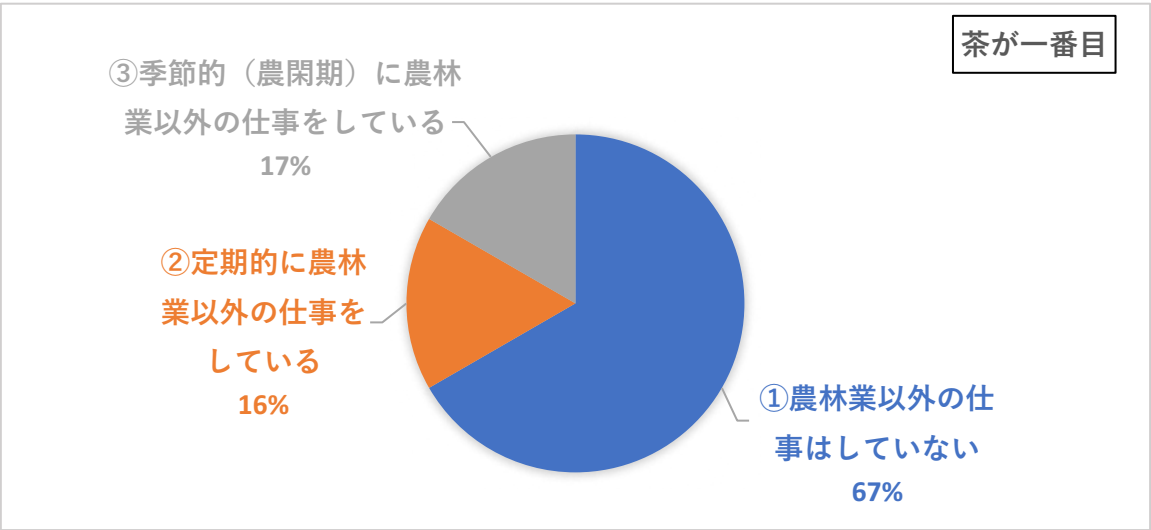
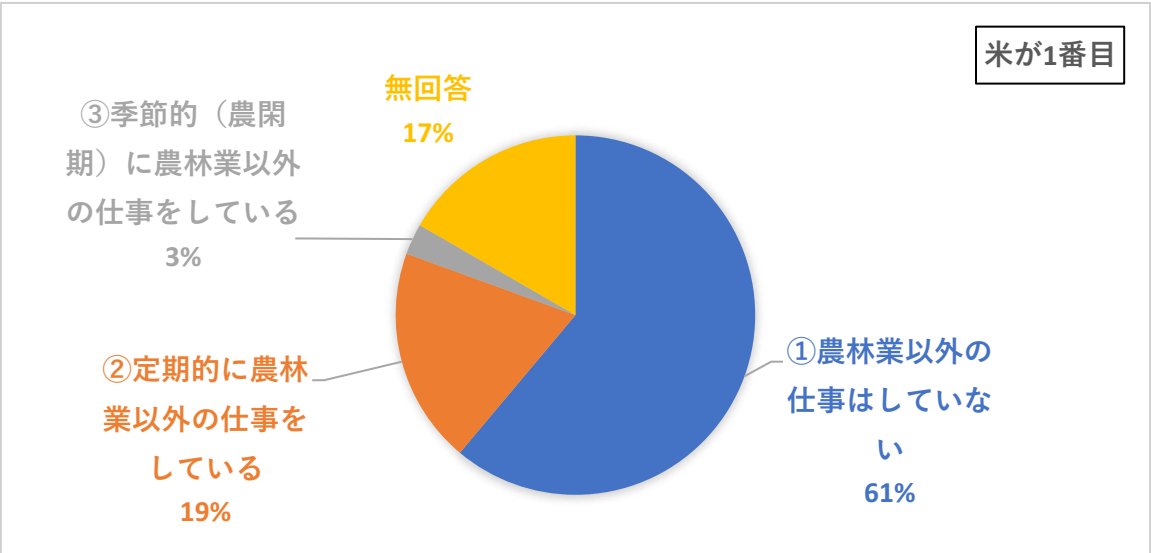
8. 農業以外の仕事 作物別

米が一番目	
①農林業以外の仕事はしていない	22
②定期的に農林業以外の仕事をしている	7
③季節的（農閑期）に農林業以外の仕事をしている	1
無回答	6
合計	36

茶が一番目	
①農林業以外の仕事はしていない	4
②定期的に農林業以外の仕事をしている	1
③季節的（農閑期）に農林業以外の仕事をしている	1
無回答	0
合計	6

野菜が一番目	
①農林業以外の仕事はしていない	15
②定期的に農林業以外の仕事をしている	3
③季節的（農閑期）に農林業以外の仕事をしている	1
無回答	0
合計	19

果樹2名（①農林業以外の仕事はしていない 1、②定期的に農林業以外の仕事をしている 1）
 無回答1名は回答なし



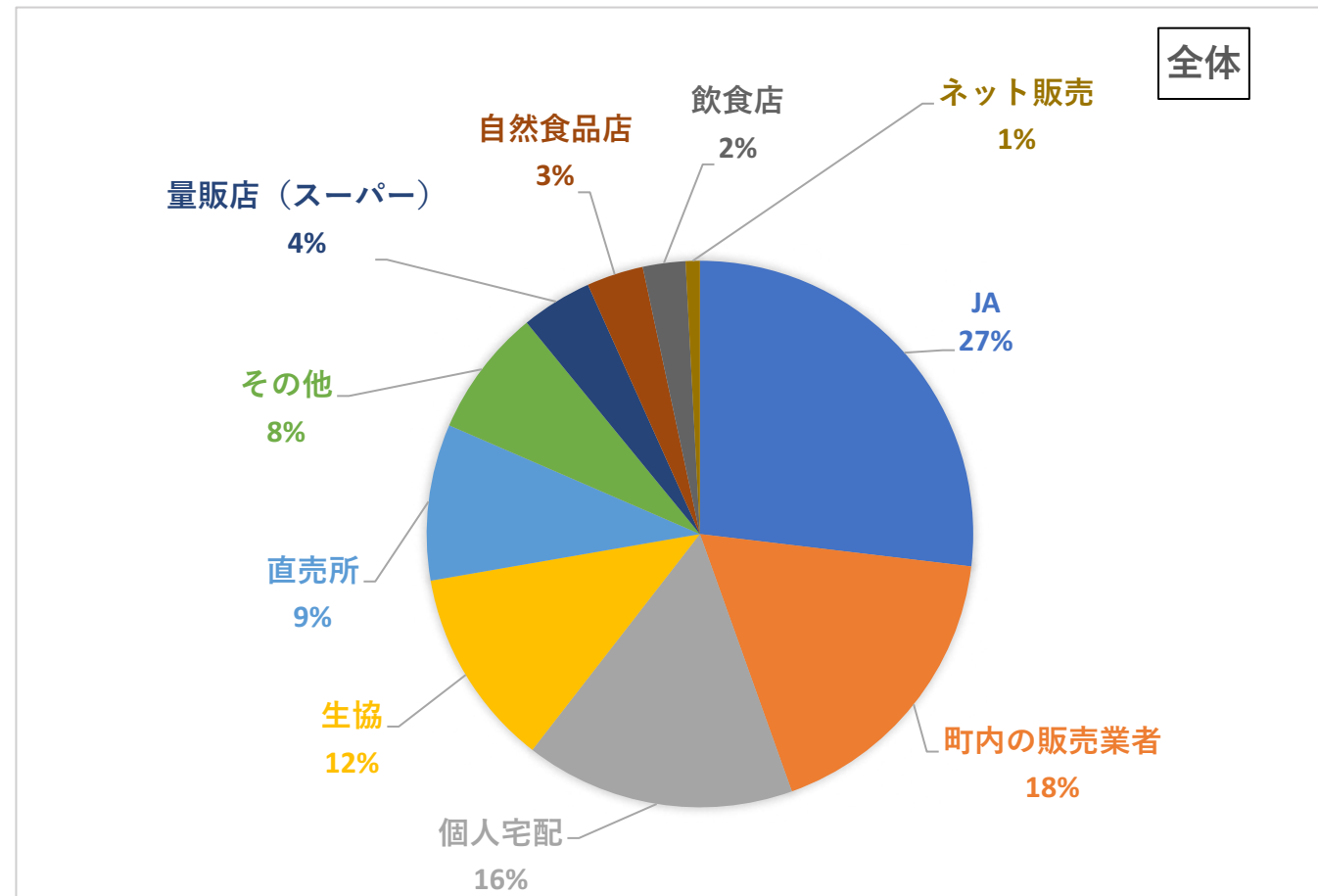
Point：農林業以外の仕事をしていないは野菜を品目に挙げた経営体が比率が高い

Ⅰ. 有機農業経営の現状について

9. 出荷先 全体

全体

JA	32
町内の販売業者	21
個人宅配	19
生協	14
直売所	11
その他	9
量販店（スーパー）	5
自然食品店	4
飲食店	3
ネット販売	1
卸売市場	0



Point：全体の出荷はJA（27％）が一番多く次いで町内の販売業者（18％）

1. 有機農業経営の現状について

9. 出荷先 順位別

1位

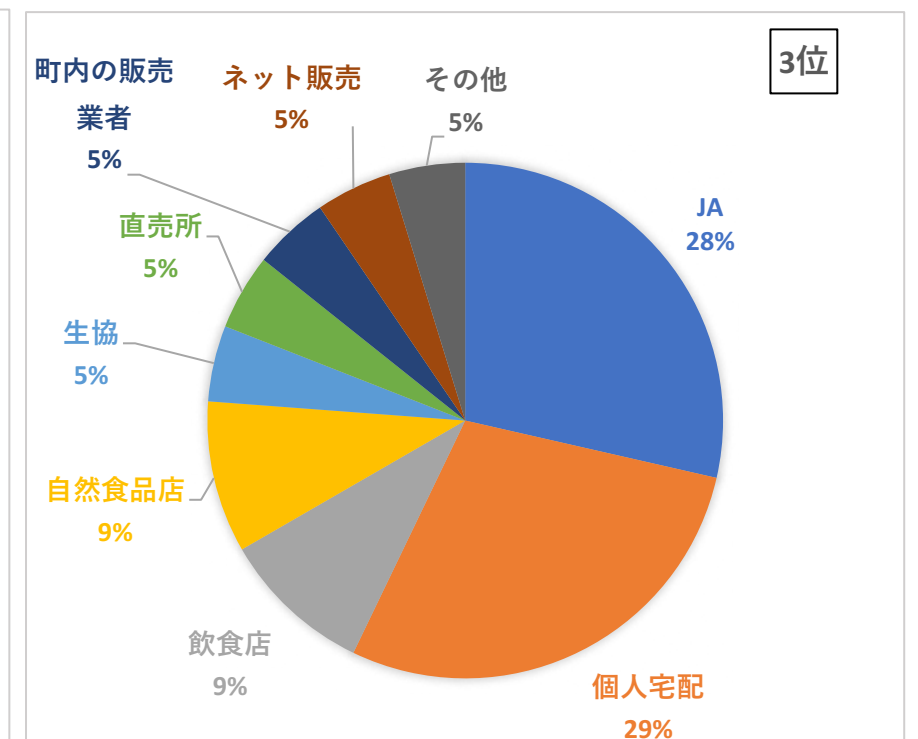
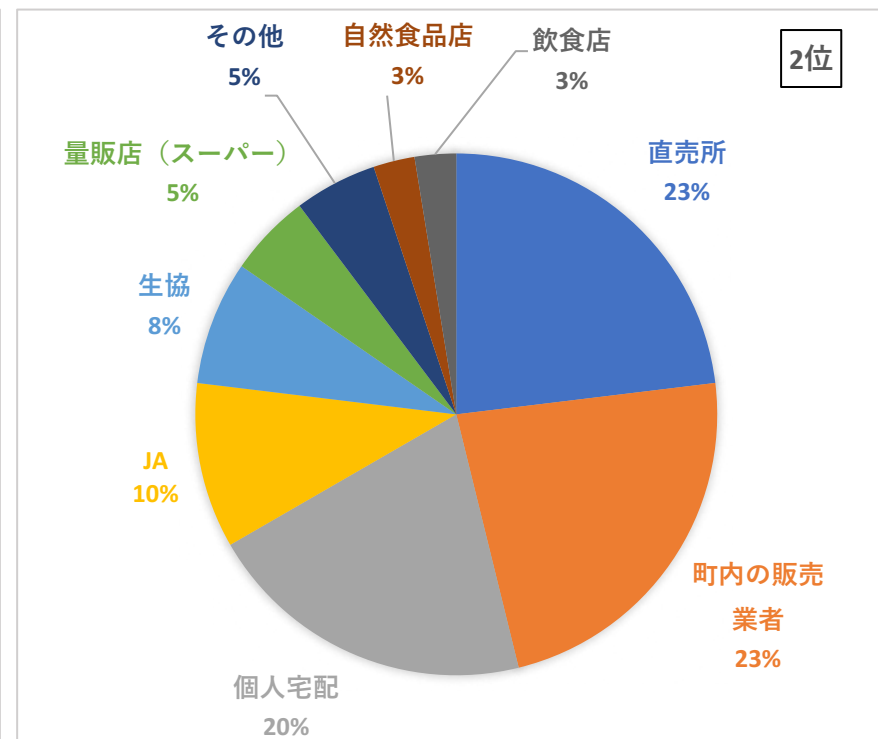
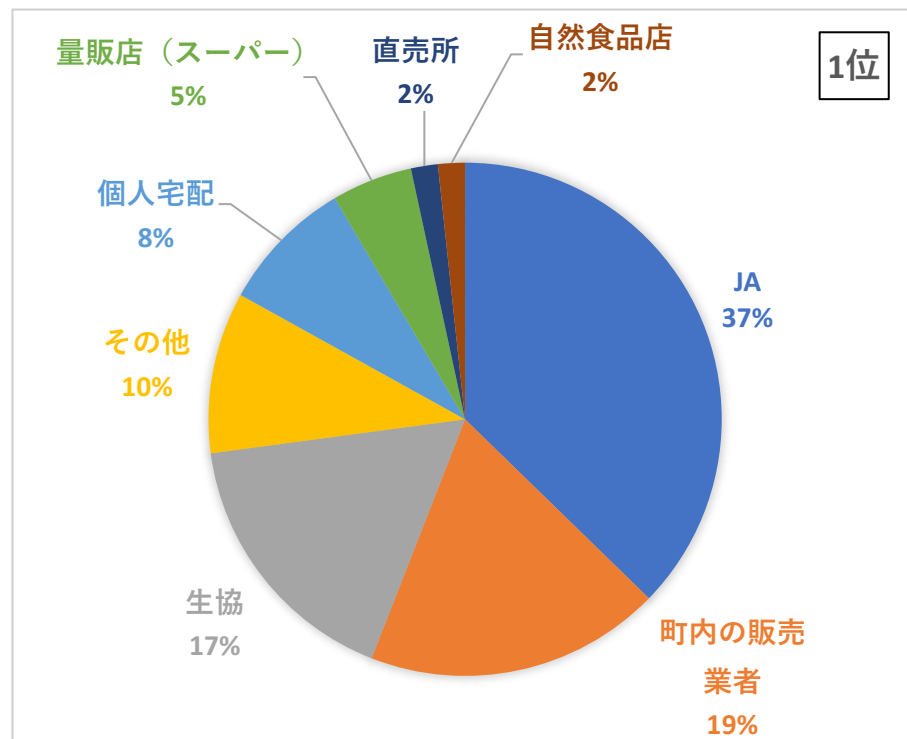
JA	22
町内の販売業者	11
生協	10
その他	6
個人宅配	5
量販店（スーパー）	3
直売所	1
自然食品店	1
卸売市場	0
飲食店	0
ネット販売	0

2位

直売所	9
町内の販売業者	9
個人宅配	8
JA	4
生協	3
量販店（スーパー）	2
その他	2
自然食品店	1
飲食店	1
ネット販売	0
卸売市場	0

3位

JA	6
個人宅配	6
飲食店	2
自然食品店	2
生協	1
直売所	1
町内の販売業者	1
ネット販売	1
その他	1
量販店（スーパー）	0
卸売市場	0

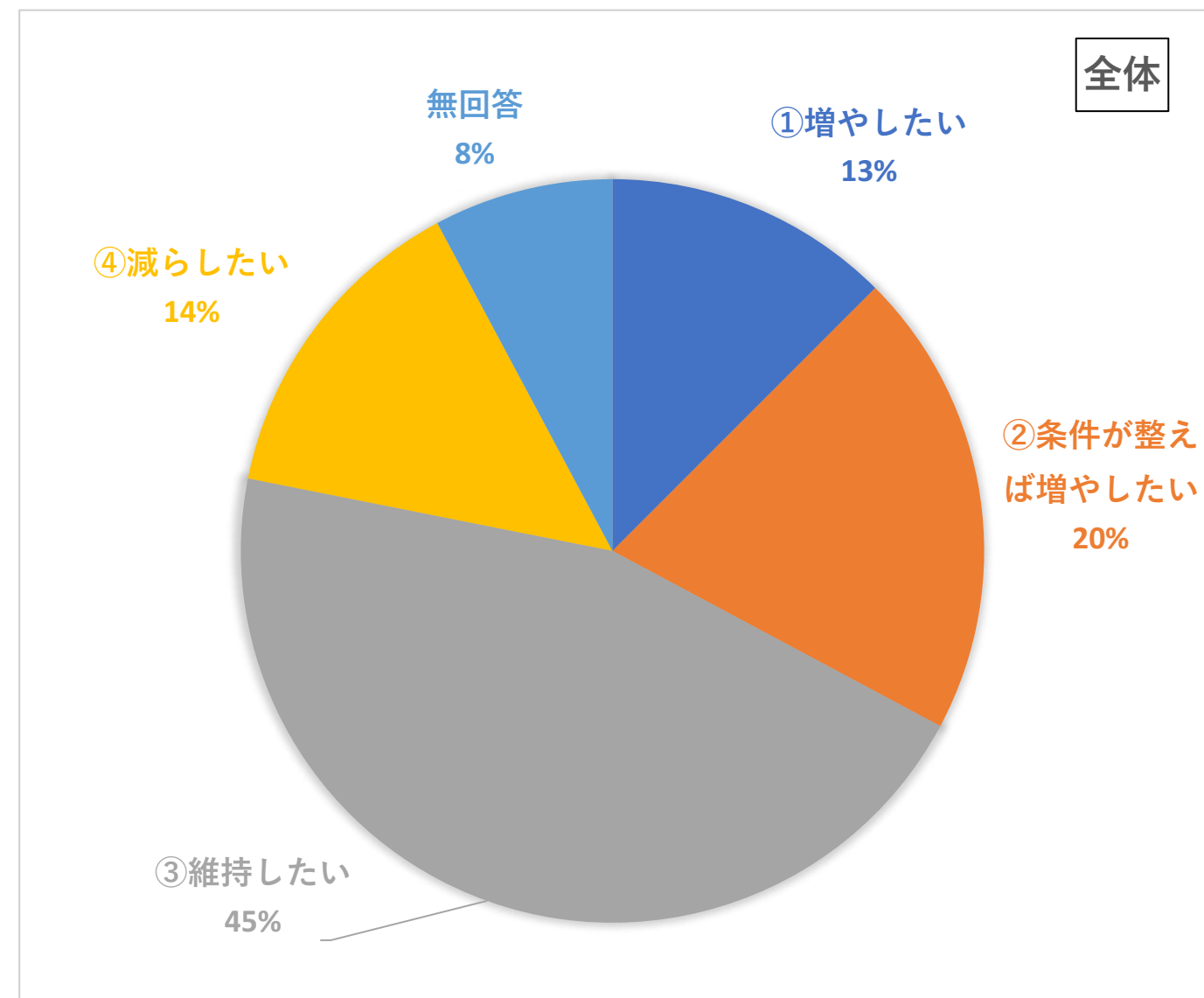


Ⅱ. 今後の有機農業取組み意向について

1. 取組面積規模について 全体

全体

①増やしたい	8
②条件が整えば増やしたい	13
③維持したい	29
④減らしたい	9
無回答	5
合計	64



Point：①増やしたい（13%）、②条件が合えば増やしたい（20%）が合わせて33%
③維持したいが45%で増加、維持の意志が合計78%

II. 今後の有機農業取組み意向について

1. 取組面積規模について 作物別

米が一番目

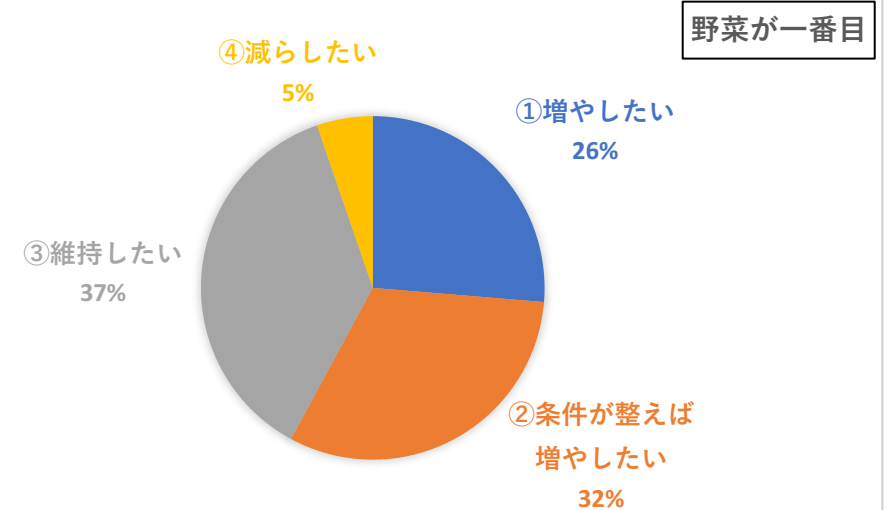
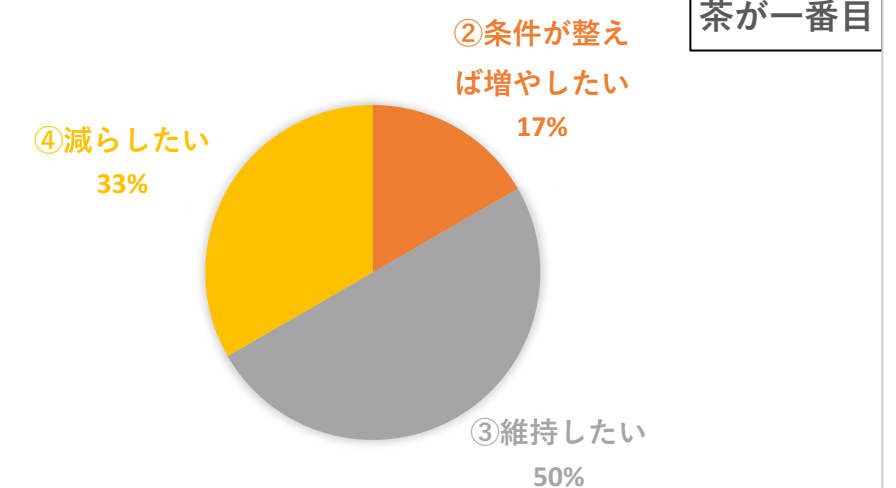
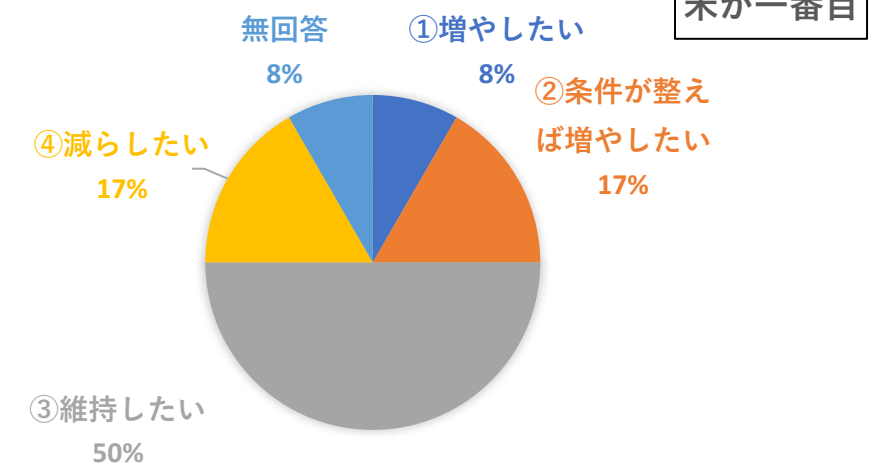
①増やしたい	3
②条件が整えば増やしたい	6
③維持したい	18
④減らしたい	6
無回答	3
合計	36

茶が一番目

①増やしたい	0
②条件が整えば増やしたい	1
③維持したい	3
④減らしたい	2
無回答	0
合計	6

野菜が一番目

①増やしたい	5
②条件が整えば増やしたい	6
③維持したい	7
④減らしたい	1
無回答	0
合計	19



Point：野菜を品目に挙げた農家が①増やしたいに多く回答した

II. 今後の有機農業取組み意向について

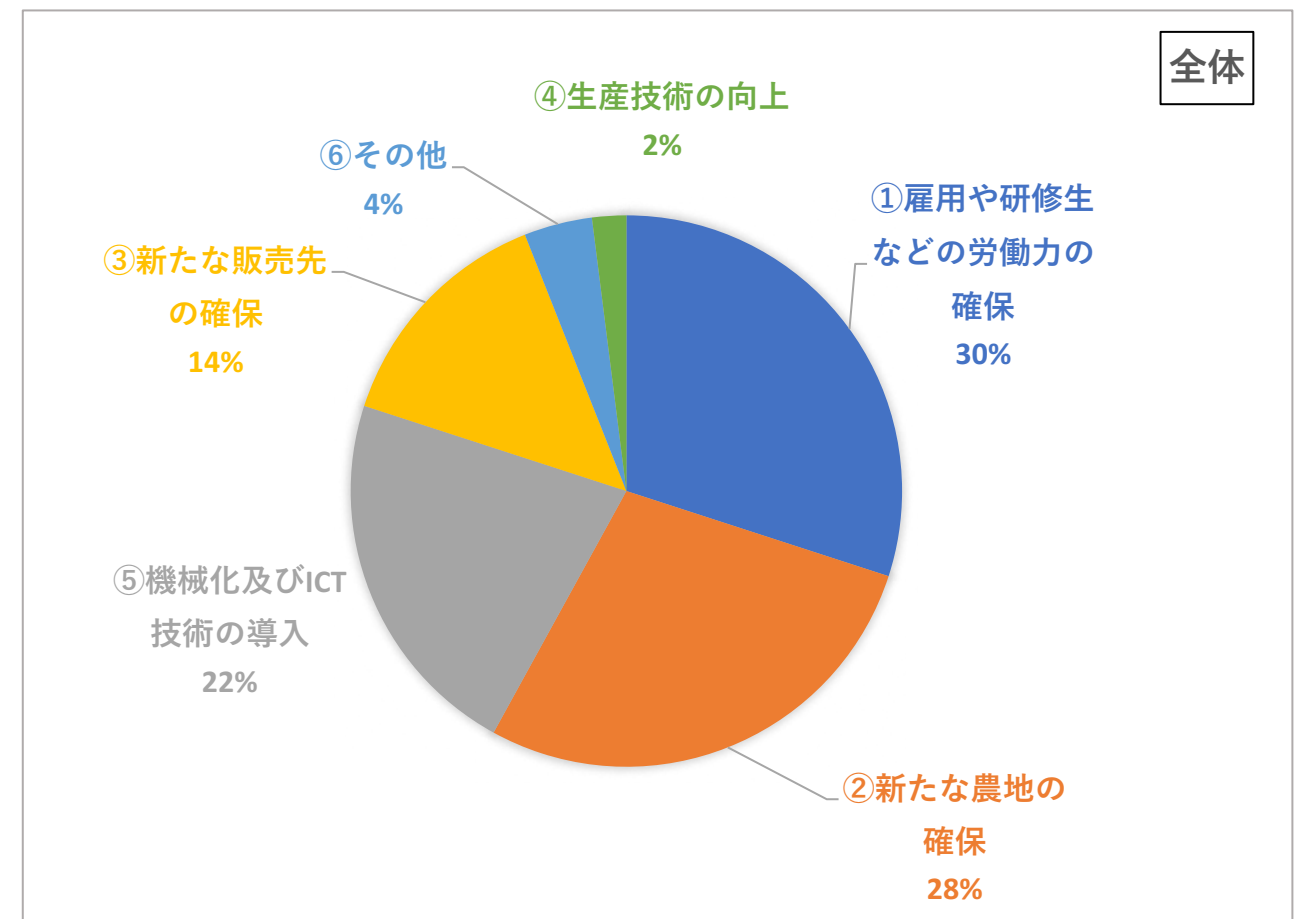
2. 取組面積を増やすのに必要な条件 全体

全体

①雇用や研修生などの労働力の確保	15
②新たな農地の確保	14
⑤機械化及びICT技術の導入	11
③新たな販売先の確保	7
⑥その他	2
④生産技術の向上	1

⑥その他の記述回答

良質な資材（堆肥等）の近場の調達
スマート農業を訓練できる研修の場



Point：①雇用な研修生などの労働力の確保、②新たな農地の確保、⑤機械化及びICT技術の導入の回答の割合が高い

II. 今後の有機農業取組み意向について

2. 取組面積を増やすのに必要な条件 作物別

米が一番目

①雇用や研修生などの労働力の確保	4
②新たな農地の確保	5
③新たな販売先の確保	5
④生産技術の向上	0
⑤機械化及びICT技術の導入	2
⑥その他	1

⑥その他の記述回答

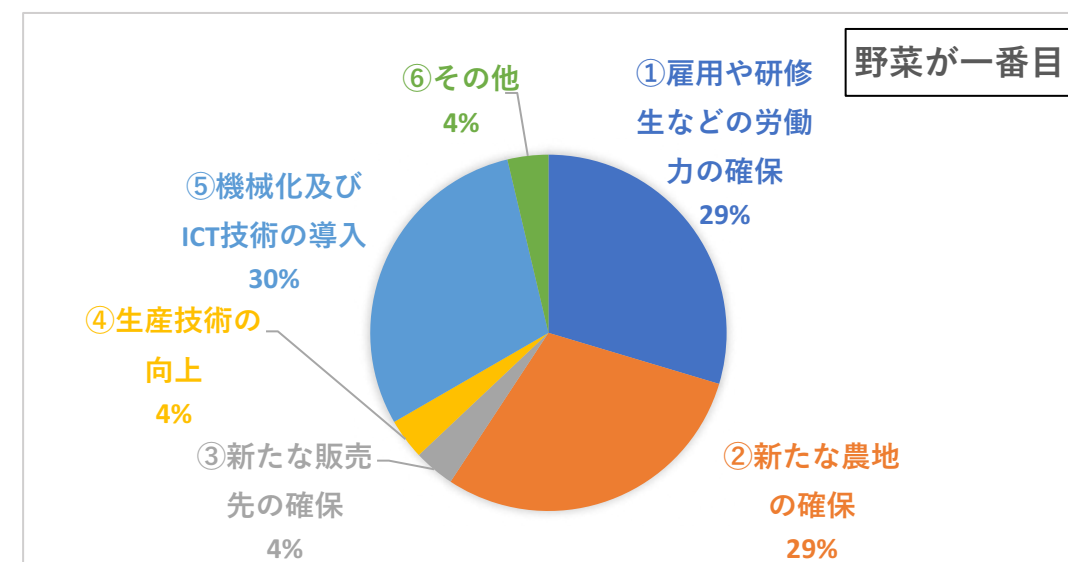
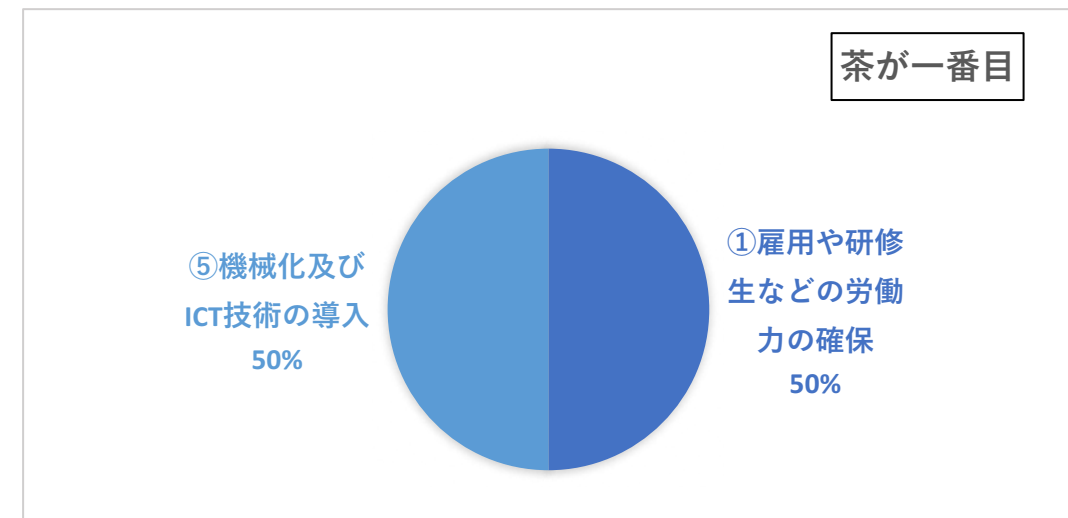
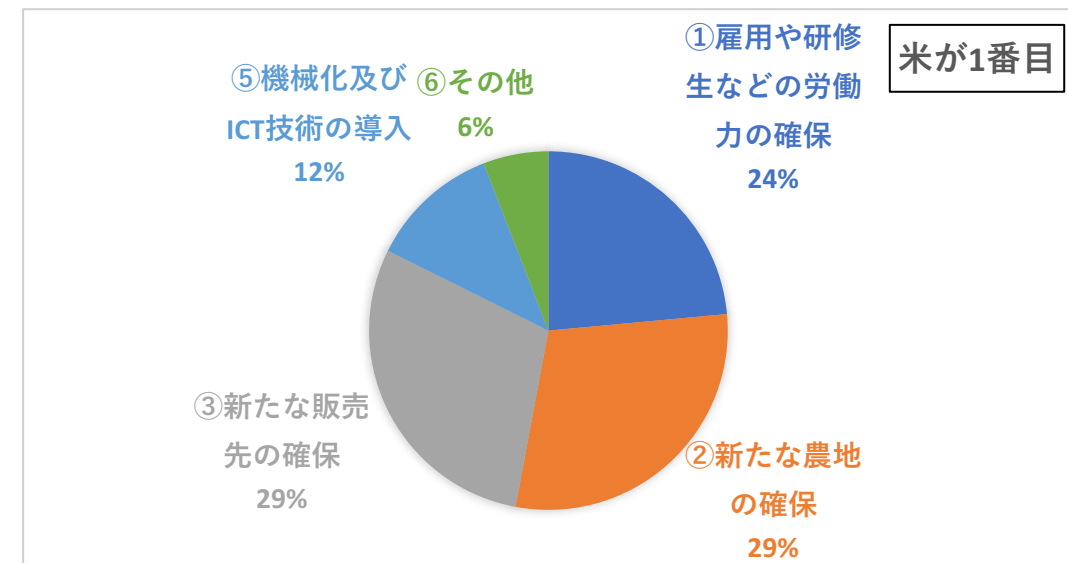
スマート農業を訓練できる研修の場

茶が一番目

①雇用や研修生などの労働力の確保	1
②新たな農地の確保	0
③新たな販売先の確保	0
④生産技術の向上	0
⑤機械化及びICT技術の導入	1
⑥その他	0

野菜が一番目

①雇用や研修生などの労働力の確保	8
②新たな農地の確保	8
③新たな販売先の確保	1
④生産技術の向上	1
⑤機械化及びICT技術の導入	8
⑥その他	1



Point：米を一番目に回答した経営体は③新たな販売先の確保が他とは比べて多く回答された

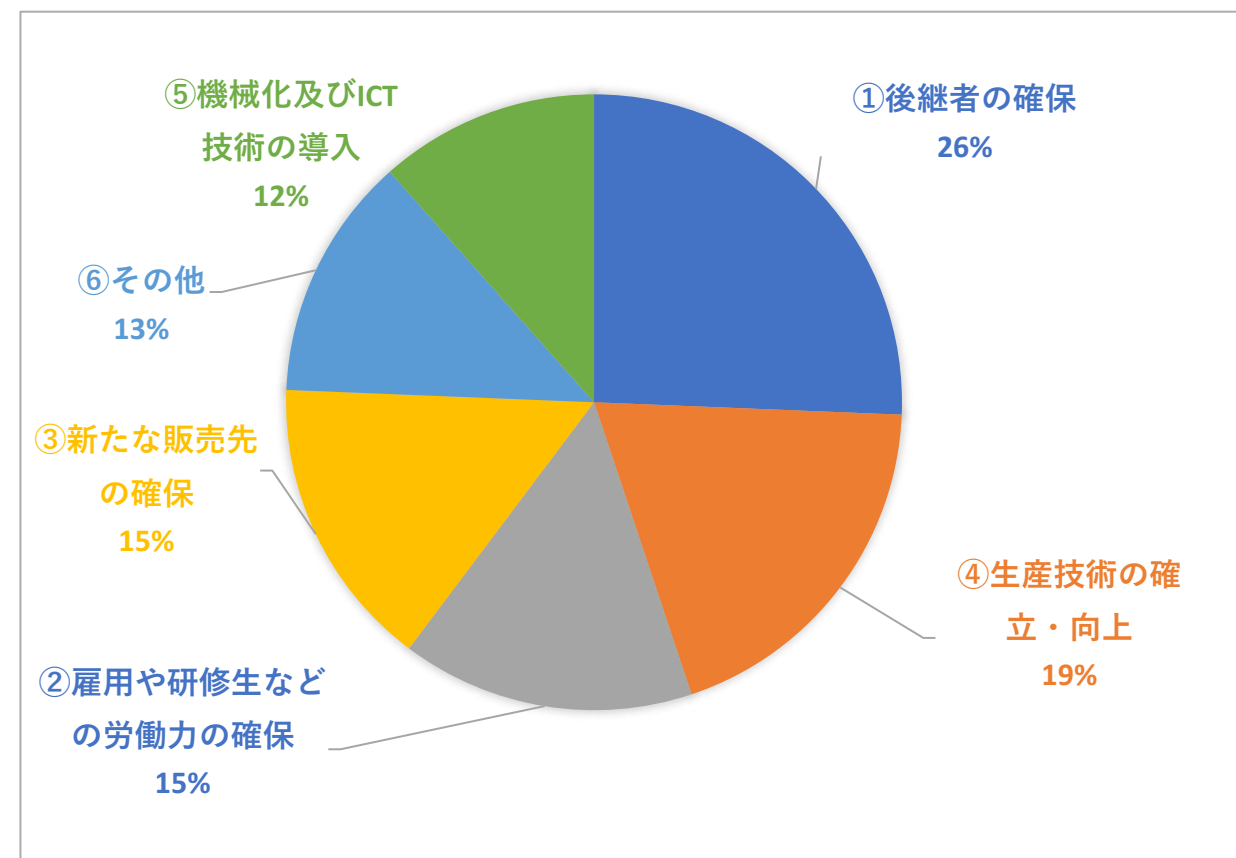
II. 今後の有機農業取組み意向について

3. 取組面積を維持するのに必要な条件 全体

①後継者の確保	20
④生産技術の確立・向上	15
②雇用や研修生などの労働力の確保	12
③新たな販売先の確保	12
⑥その他	10
⑤機械化及びICT技術の導入	9

⑥その他の記述回答

販売価格と消費者の認知度
水路の管理
同士の確保
良質で安価な堆肥が近くで手に入る事
若さ
農業以外の仕事の比重が上がったため農業に充てられる日が少ない
家族で出きる範囲で
今の面積で調度良い
安全安心な農産物のPR



Point： どの選択肢もほぼ等しい割合で回答されている

II. 今後の有機農業取組み意向について

3. 取組面積を維持するのに必要な条件 作物別

米が一番目

①後継者の確保	12
②雇用や研修生などの労働力の確保	6
③新たな販売先の確保	7
④生産技術の確立・向上	10
⑤機械化及びICT技術の導入	6
⑥その他	6

⑥その他の記述回答

水路の管理

良質で安価な堆肥が近くで手に入ること

農業以外の仕事の比重が上がったため農業に充てられる日が少ない

家族で出きる範囲で

今の面積で調度良い

安全安心な農産物のPR

茶が一番目

①後継者の確保	3
②雇用や研修生などの労働力の確保	0
③新たな販売先の確保	1
④生産技術の確立・向上	0
⑤機械化及びICT技術の導入	1
⑥その他	2

⑥その他の記述回答

高齢化により維持困難

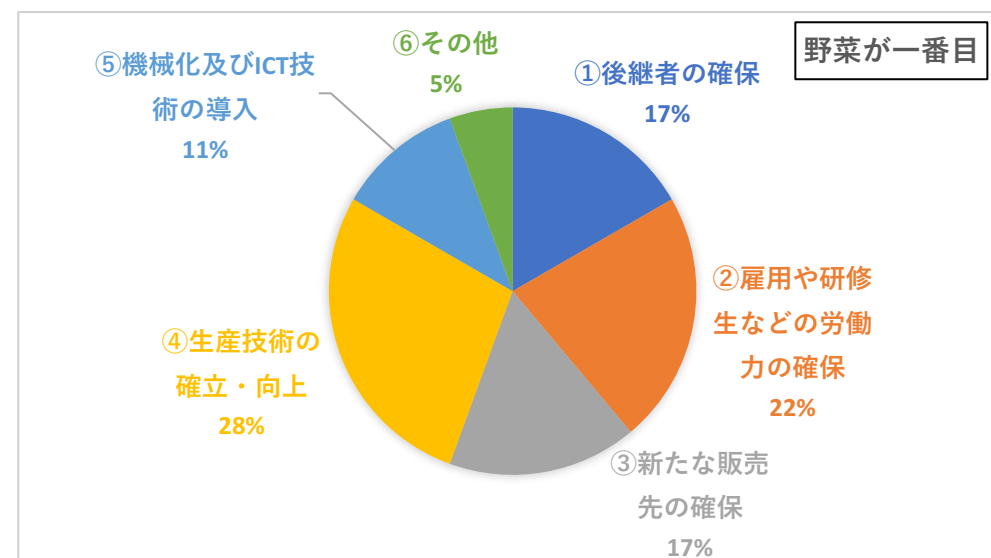
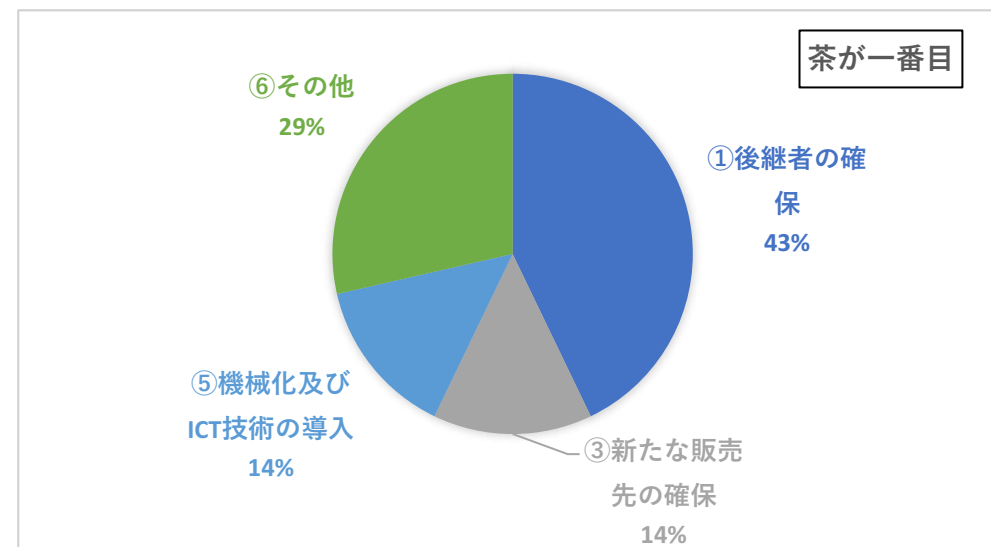
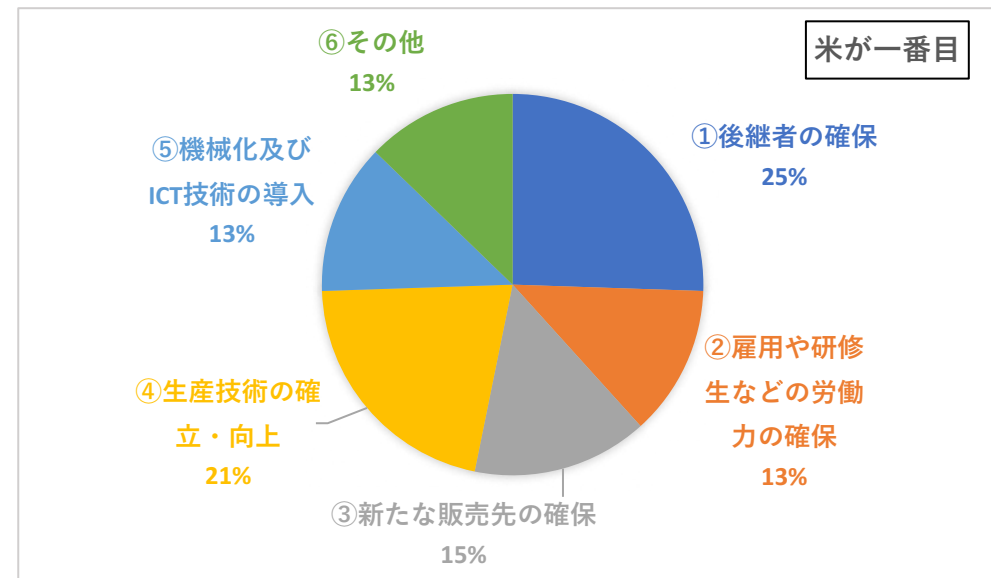
同士の確保

野菜が一番目

①後継者の確保	3
②雇用や研修生などの労働力の確保	4
③新たな販売先の確保	3
④生産技術の確立・向上	5
⑤機械化及びICT技術の導入	2
⑥その他	1

⑥その他の記述回答

若さ



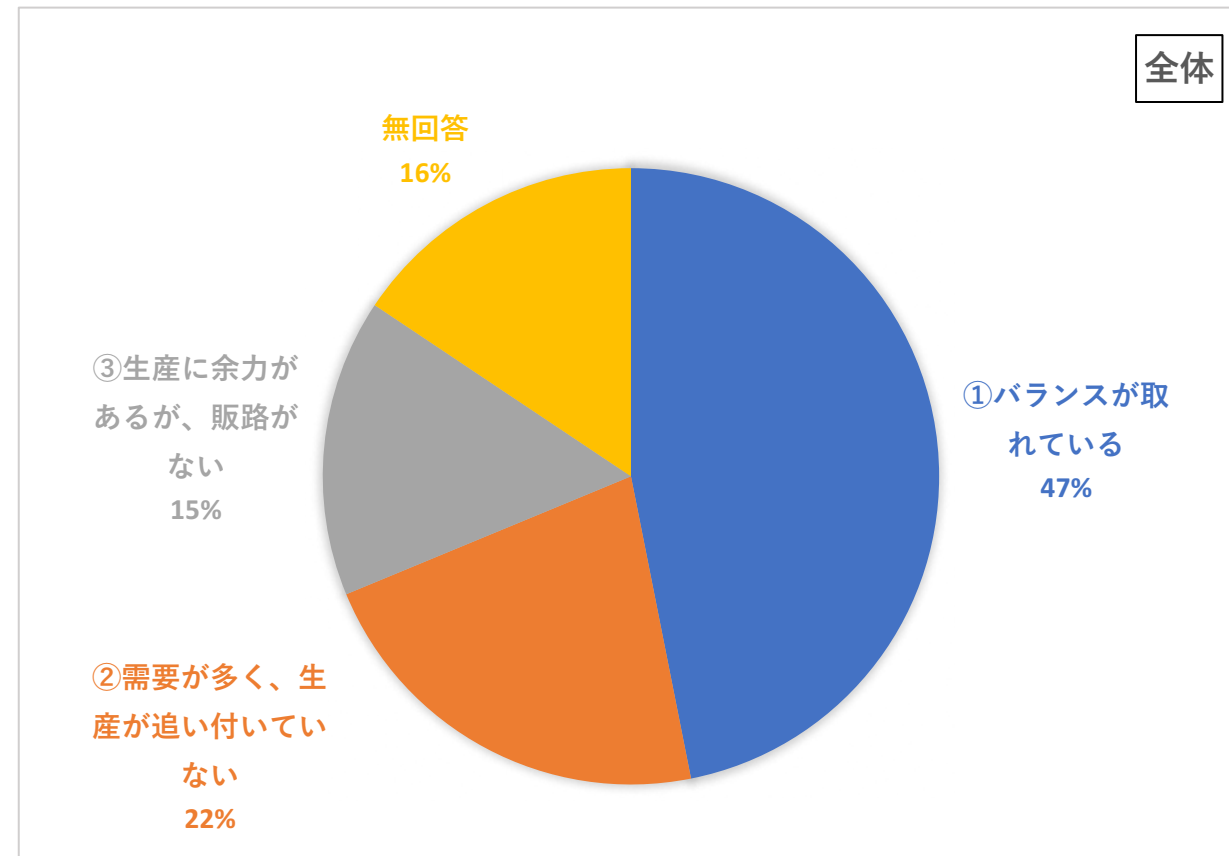
Point：米が一番目はどの選択肢も等しく回答されている
 茶が一番は①労働者の確保、⑥その他が多く回答されている
 野菜が一番目はその他以外の選択肢がほぼ等しく回答されている

Ⅱ．今後の有機農業取組み意向について

4．販路の需要と供給のバランス

全体

①バランスが取れている	30
②需要が多く、生産が追いついていない	14
③生産に余力があるが、販路がない	10
無回答	10
合計	64



Point：①バランスが取れているが一番多く回答されている

II. 今後の有機農業取組み意向について

4. 販路の需要と供給のバランス

米が1番目の回答者

①バランスが取れている	18
②需要が多く、生産が追いついていない	5
③生産に余力があるが、販路がない	6
無回答	6
合計	35

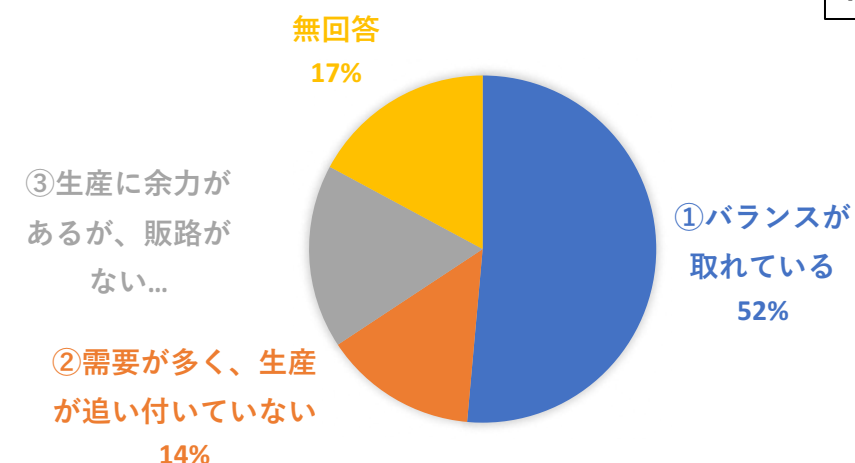
茶が1番目の回答者

①バランスが取れている	3
②需要が多く、生産が追いついていない	0
③生産に余力があるが、販路がない	2
無回答	1
合計	6

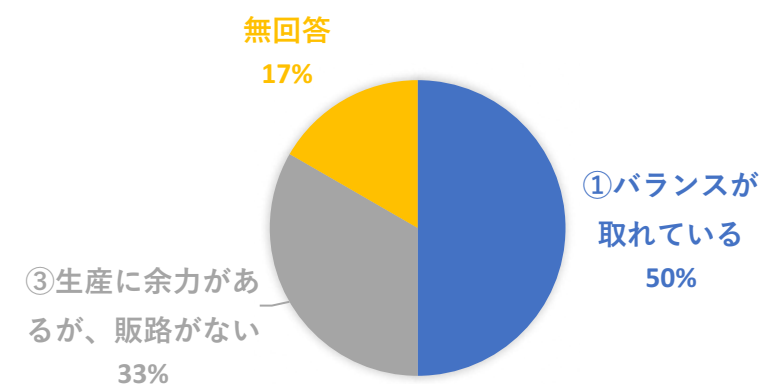
野菜が1番目の回答者

①バランスが取れている	8
②需要が多く、生産が追いついていない	9
③生産に余力があるが、販路がない	2
無回答	1
合計	20

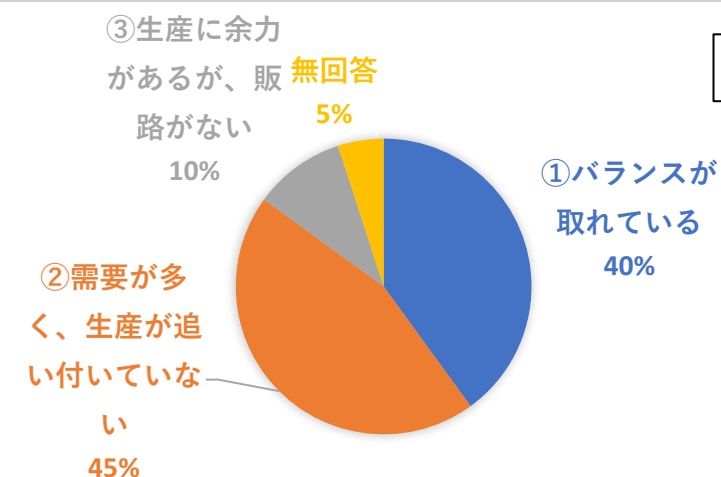
米が1番目



茶が1番目



野菜が1番目



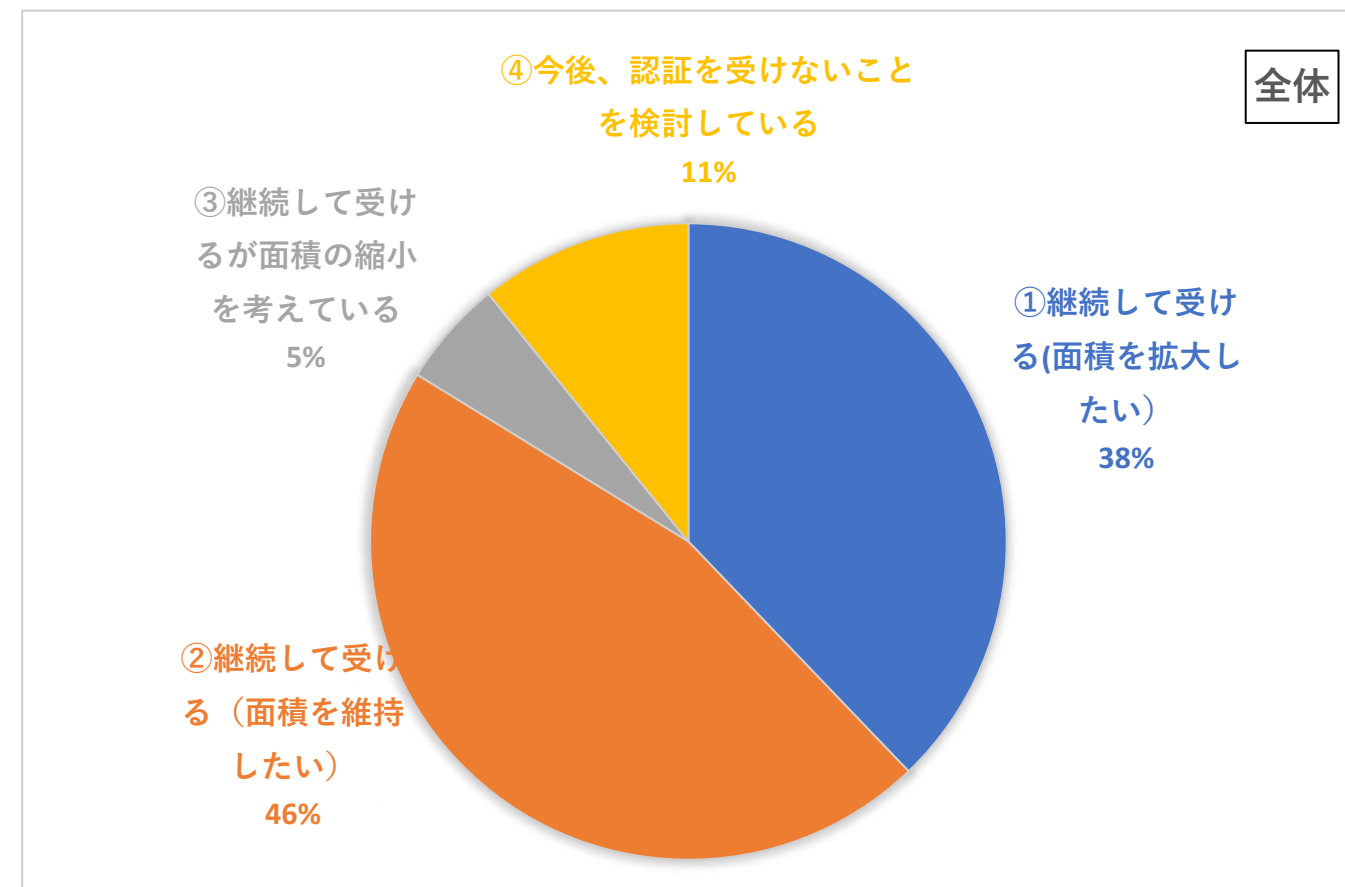
Point：米が一番目は基本的にバランスは取れているが、生産者によりバラツキがある
 茶が一番は基本的にバランスは取れているが、販路がない生産者もいる
 野菜が一番目は生産が追いついていない傾向にある

II. 今後の有機農業取組み意向について

5. 有機認証について 全体

全体

①継続して受ける(面積を拡大したい)	14
②継続して受ける(面積を維持したい)	17
③継続して受けるが面積の縮小を考えている	2
④今後、認証を受けないことを検討している	4
無回答	27
合計	64



Point：有機JAS認証を受けている経営体は37 受けていない経営体は27
認証を拡大したい（38%）、維持したい（46%）が84%を占める

II. 今後の有機農業取組み意向について

5. 有機認証について 作物別

米が1番目

①継続して受ける(面積を拡大したい)	5
②継続して受ける(面積を維持したい)	9
③継続して受けるが面積の縮小を考えている	1
④今後、認証を受けないことを検討している	3
無回答	18
合計	36

茶が1番目

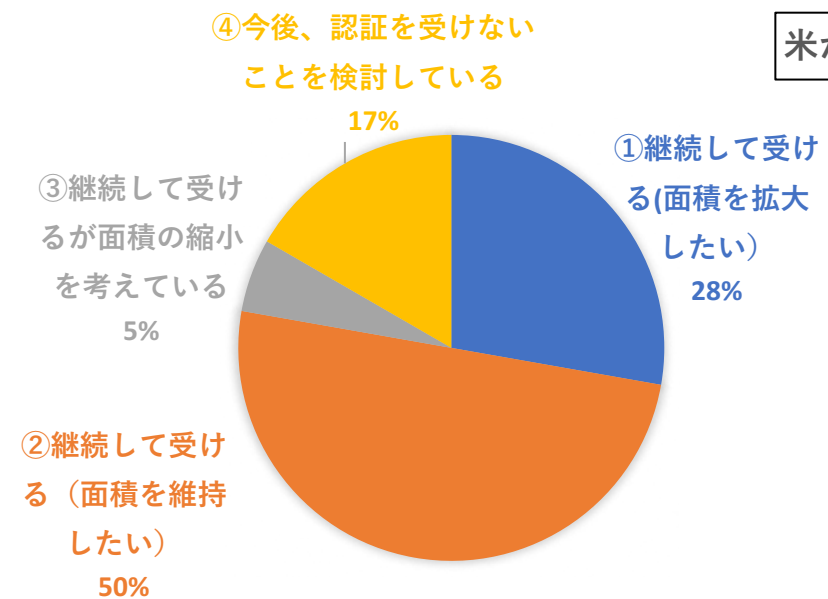
①継続して受ける(面積を拡大したい)	0
②継続して受ける(面積を維持したい)	0
③継続して受けるが面積の縮小を考えている	1
④今後、認証を受けないことを検討している	0
無回答	5
合計	6

野菜が1番目

①継続して受ける(面積を拡大したい)	9
②継続して受ける(面積を維持したい)	8
③継続して受けるが面積の縮小を考えている	0
④今後、認証を受けないことを検討している	1
無回答	1
合計	19

Point：米が一番目は維持したいが多い
野菜が一番目は拡大したいが多い

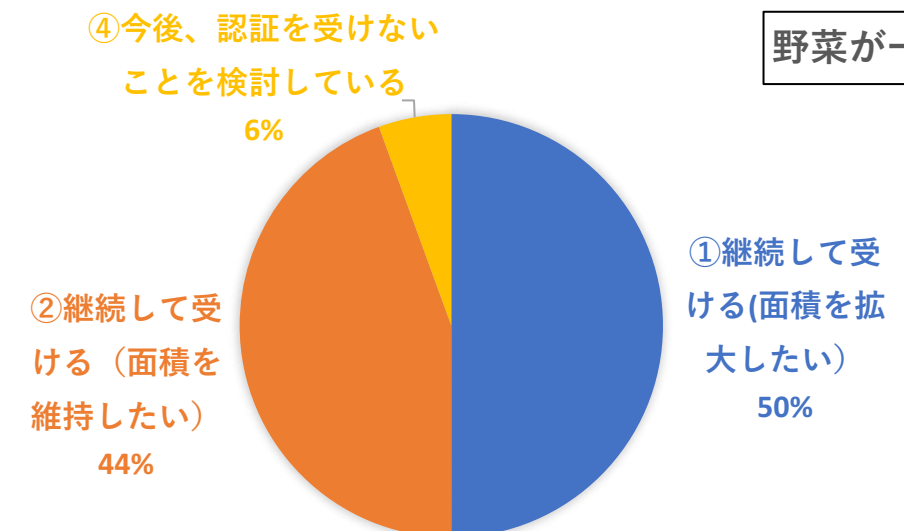
米が一番目



茶が一番目

③継続して受けるが面積の縮小を考えている...

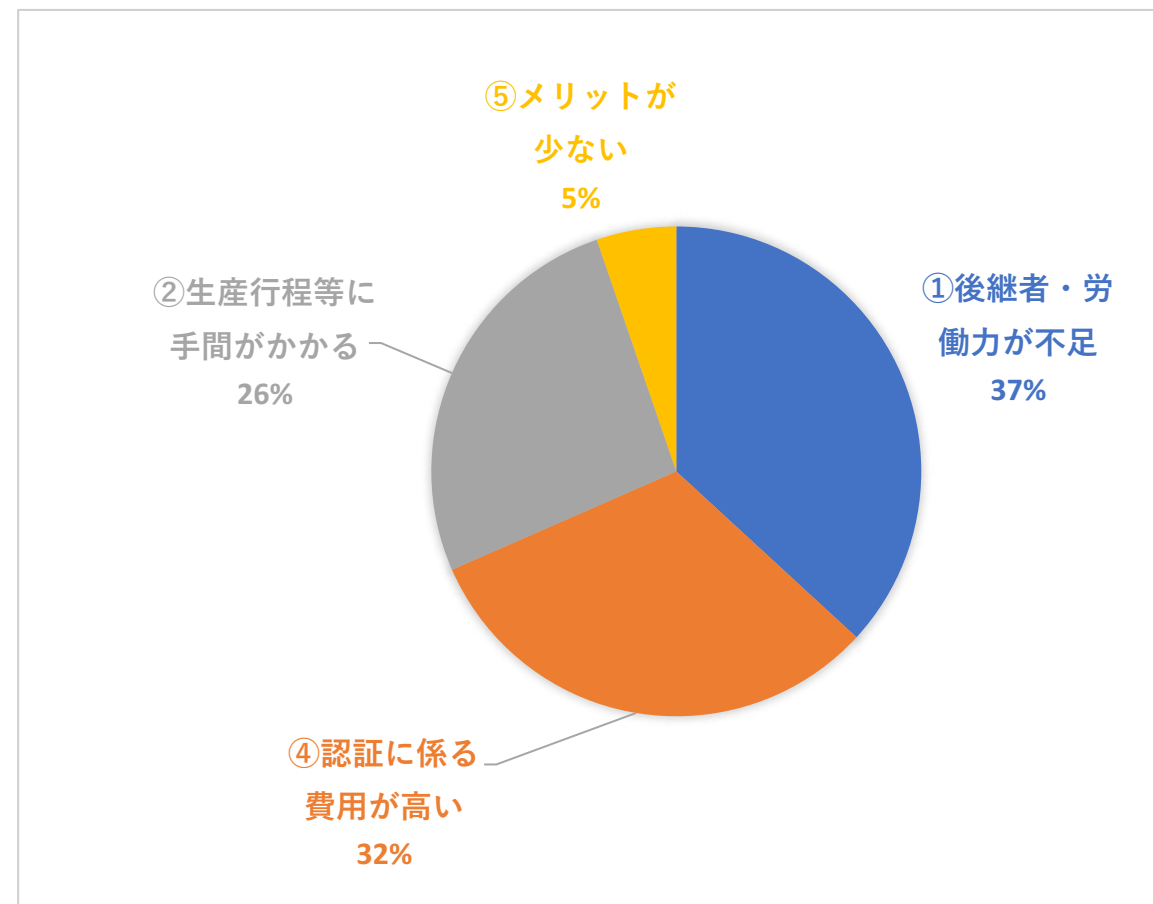
野菜が一番目



Ⅱ. 今後の有機農業取組み意向について

6. JAS認証 縮小、受けない理由 全体

①後継者・労働力が不足	7
④認証に係る費用が高い	6
②生産行程等に手間がかかる	5
⑤メリットが少ない	1
③申請手続きに手間がかかる	0
⑥その他	0



⑤メリットが少ない具体的にの回答

スーパーや市場等に卸すわけではないので高い認証費用を払って認証するのに値しない

Point：①後継者・労働力が不足、②生産行程等に手間がかかる、④認証に係る費用が高いが多い

II. 今後の有機農業取組み意向について

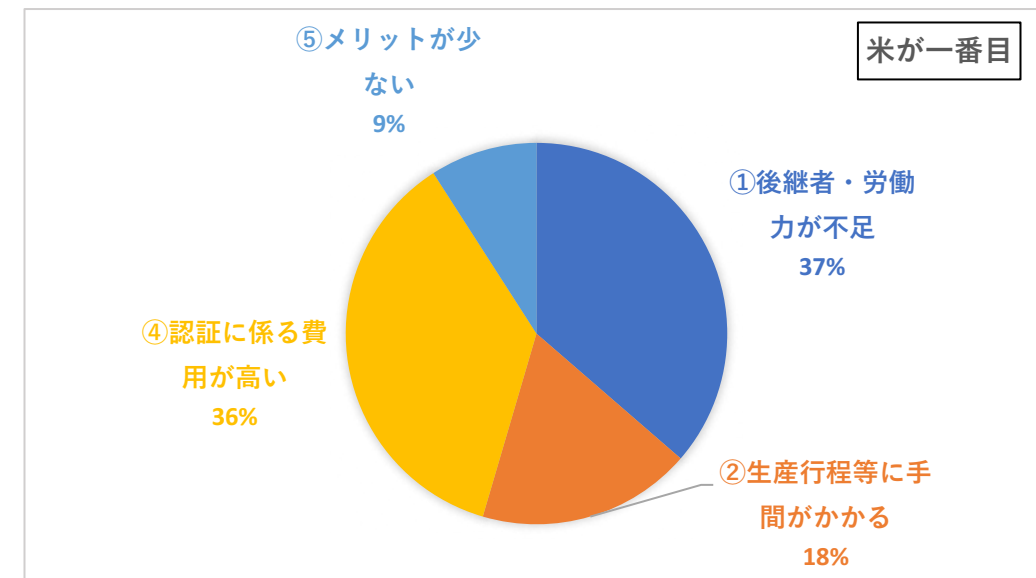
6. JAS認証 縮小、受けない理由 作物別

米が一番目

①後継者・労働力が不足	4
②生産行程等に手間がかかる	2
③申請手続きに手間がかかる	0
④認証に係る費用が高い	4
⑤メリットが少ない	1
⑥その他	0

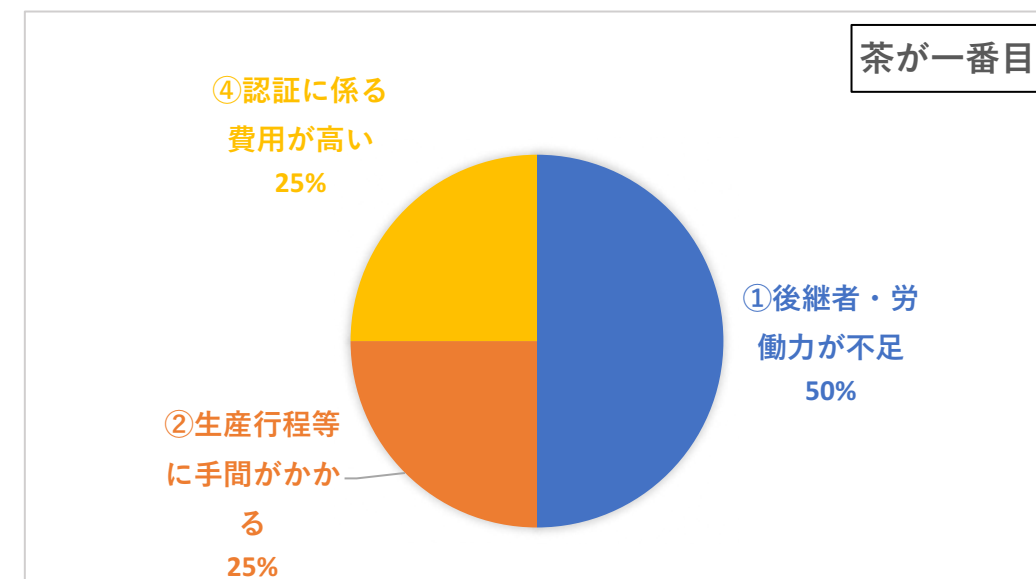
⑤メリットが少ない具体的にの回答

スーパーや市場等に卸すわけではないので高い認証費用を払って認証するのに値しない



茶が一番目

①後継者・労働力が不足	2
②生産行程等に手間がかかる	1
③申請手続きに手間がかかる	0
④認証に係る費用が高い	1
⑤メリットが少ない	0
⑥その他	0



野菜が一番目

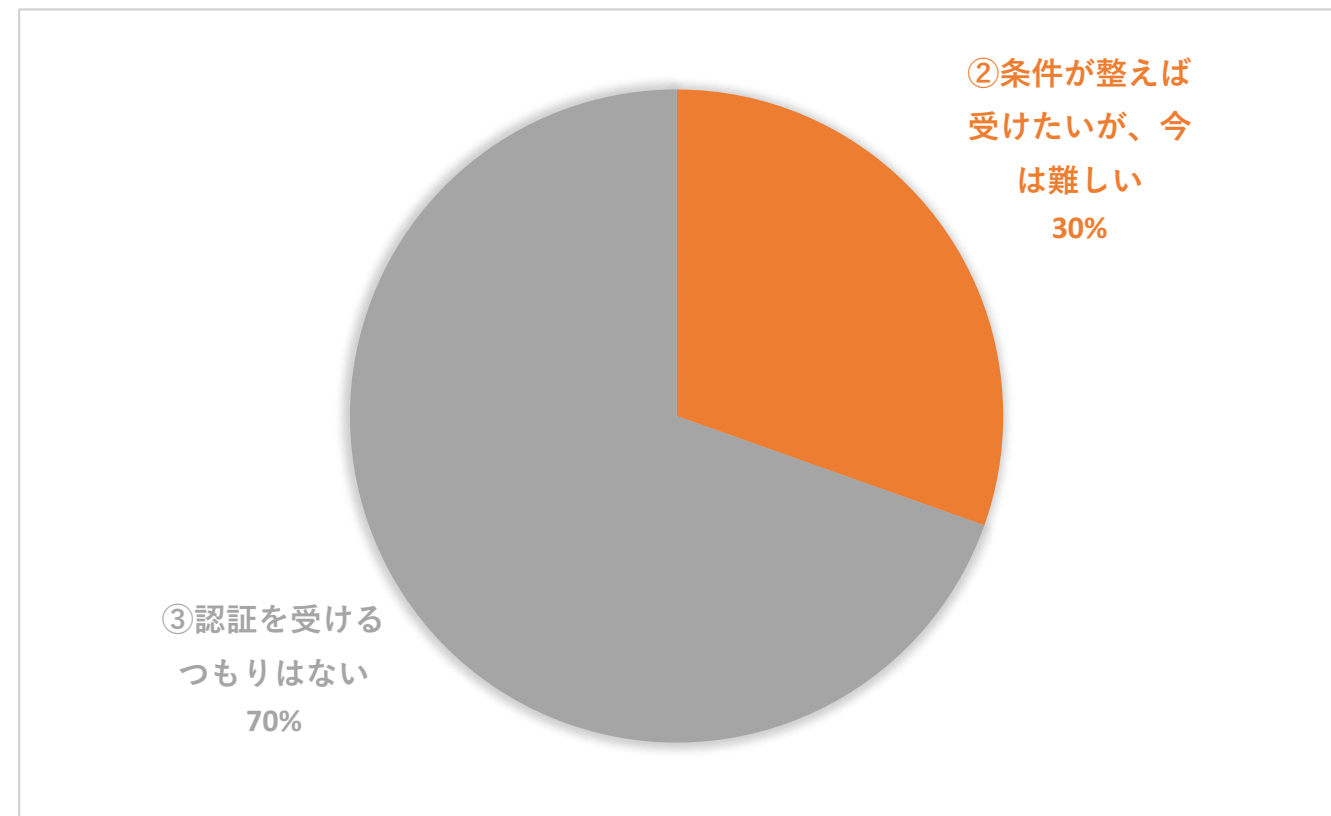
①後継者・労働力が不足	0
②生産行程等に手間がかかる	1
③申請手続きに手間がかかる	0
④認証に係る費用が高い	1
⑤メリットが少ない	0
⑥その他	0

Point：米が一番目、茶が一番目は①後継者・労働力不足が一番多い

II. 今後の有機農業取組み意向について

7. JAS認証なしの今後の意向 全体

①今後、認証を受ける予定	0
②条件が整えば受けたいが、今は難しい	7
③認証を受けるつもりはない	16



Point : ①今後、認証を受ける予定を回答した人はいない

II. 今後の有機農業取組み意向について

7. JAS認証なしの今後の意向 作物別

米が一番目

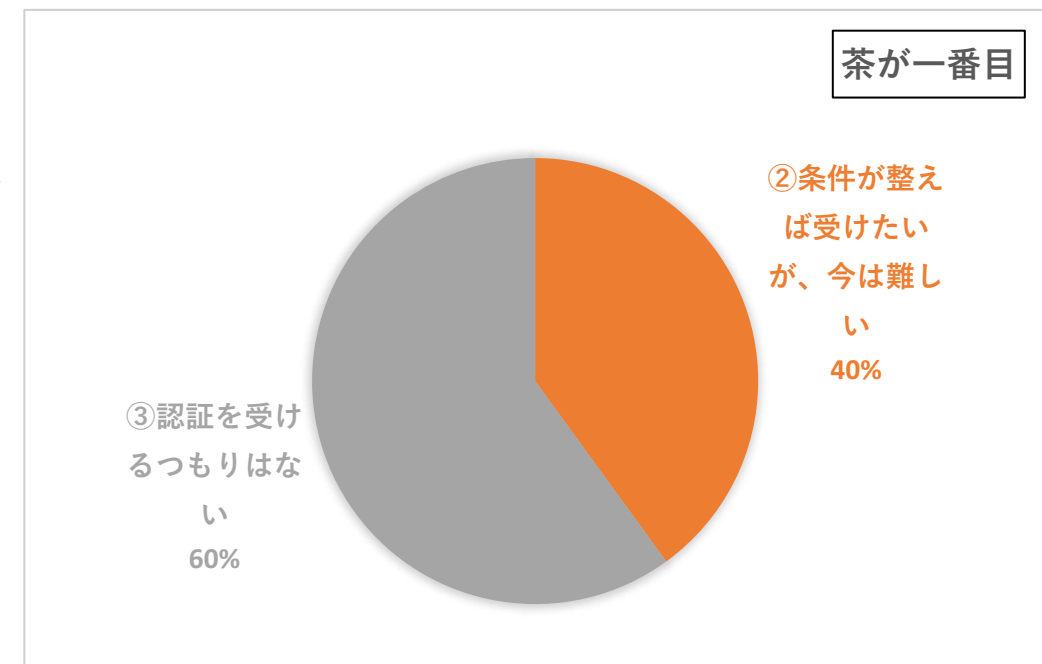
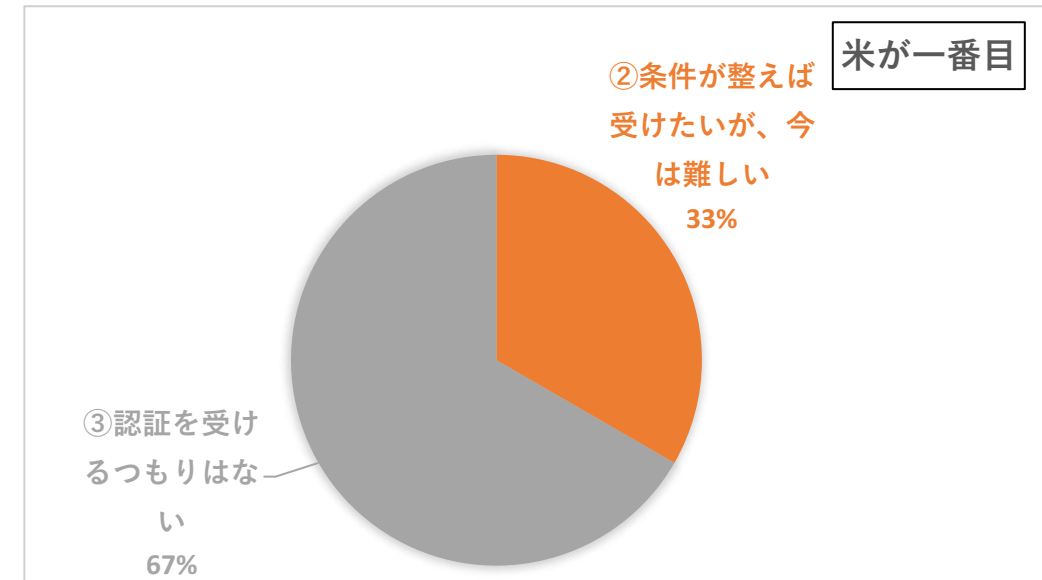
①今後、認証を受ける予定	0
②条件が整えば受けたいが、今は難しい	5
③認証を受けるつもりはない	10

茶が一番目

①今後、認証を受ける予定	0
②条件が整えば受けたいが、今は難しい	2
③認証を受けるつもりはない	3

野菜が一番目

①今後、認証を受ける予定	0
②条件が整えば受けたいが、今は難しい	0
③認証を受けるつもりはない	1



Point：米が一番目が33%、茶が一番目は40%が②条件が整えば受けたいが、今は難しいと回答した
野菜が一番目については認証を受けいている農家が多いため回答が少ない

II. 今後の有機農業取組み意向について

8. JAS認証困難な理由 全体

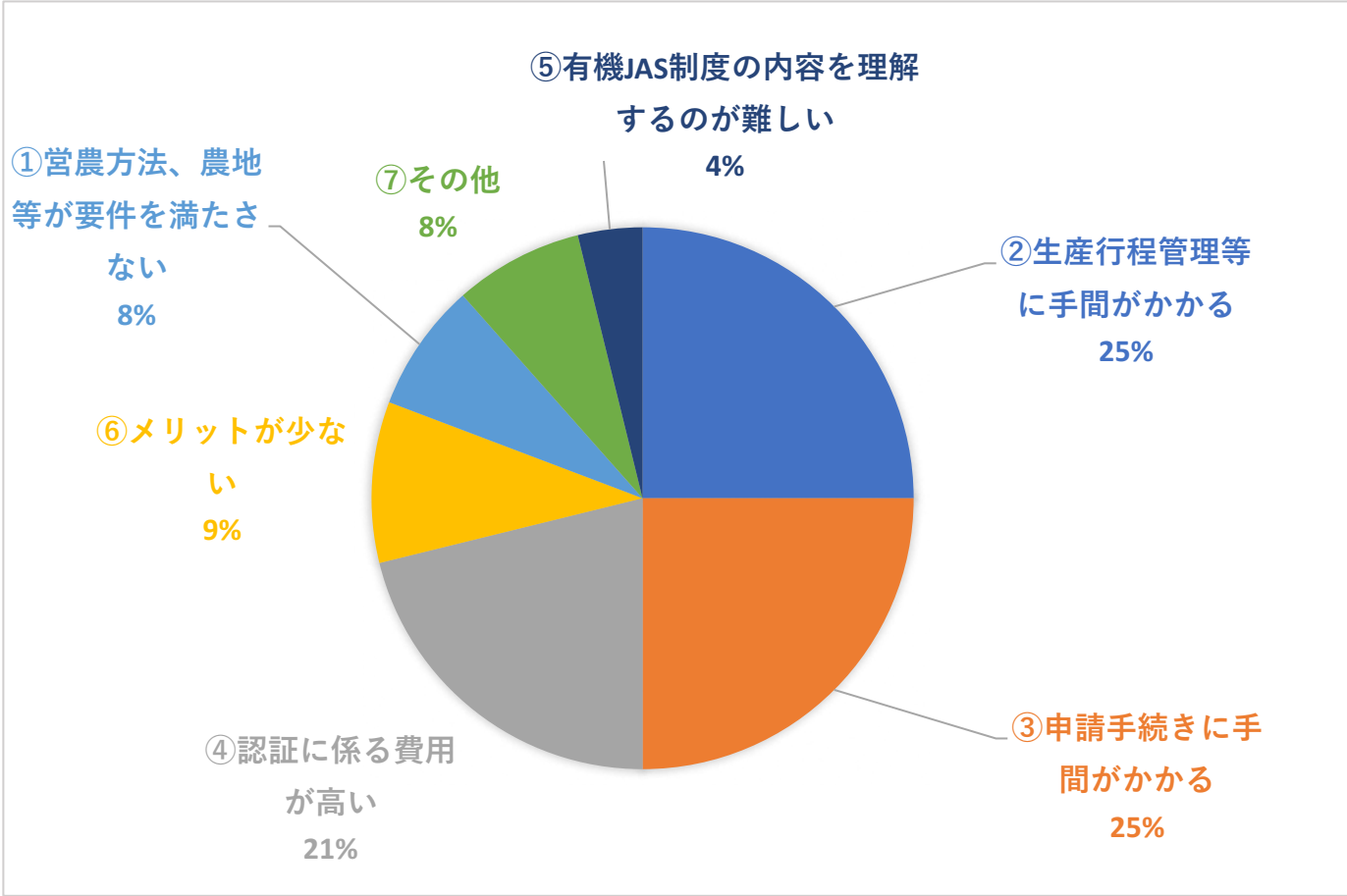
②生産行程管理等に手間がかかる	13
③申請手続きに手間がかかる	13
④認証に係る費用が高い	11
⑥メリットが少ない	5
①営農方法、農地等が要件を満たさない	4
⑦その他	4
⑤有機JAS制度の内容を理解するのが難しい	2

⑥メリットが少ない具体的にの回答

価格差でメリットが少ない
生産物の価格と生産者の全量販売が難しい
小規模すぎて手間に対する効果が少ないと思う
JASの農産物を買う人は少ない
手間や時間を掛けた割に収入が少ない

⑦その他具体的にの回答

茶の場合は加工場の問題あり
認証製品の販売がむずかしい
スーパーに出荷してみて特に高価に取引できない
以前有機JAS認証（米、茶）を受けていたが最近病害虫発生が多くなり（米）やめた。収量激減。



Point：②生産行程管理等に手間がかかる、③申請手続きに手間がかかる、④認証に係る費用が高いの割合が高い

II. 今後の有機農業取組み意向について

8. JAS認証困難な理由 作物別

米が一番目

①営農方法、農地等が要件を満たさない	2
②生産行程管理等に手間がかかる	8
③申請手続きに手間がかかる	10
④認証に係る費用が高い	8
⑤有機JAS制度の内容を理解するのが難しい	1
⑥メリットが少ない	4
⑦その他	1

⑥メリットが少ない具体的にの回答

生産物の価格と生産者の全量販売が難しい
小規模すぎて手間に対する効果が少ないと思う
JASの農産物を買う人は少ない
手間や時間を掛けた割に収入が少ない

⑦その他具体的にの回答

スーパーに出荷してみても特に高価に取引できない

茶が一番目

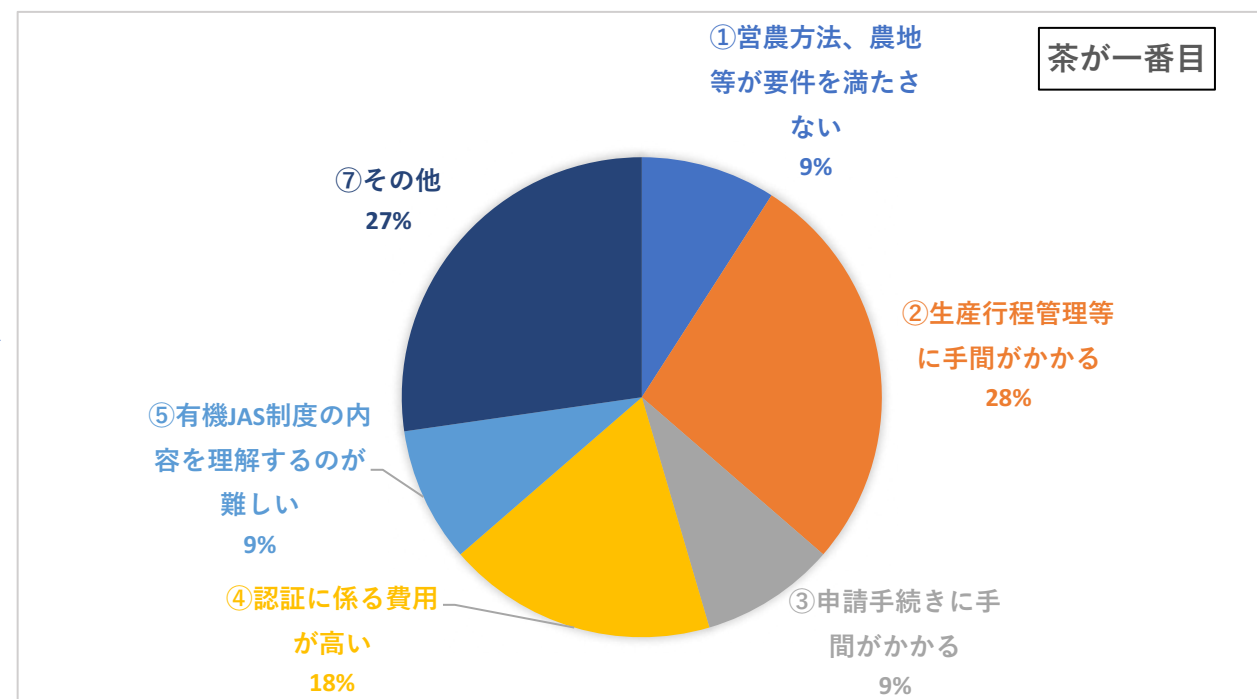
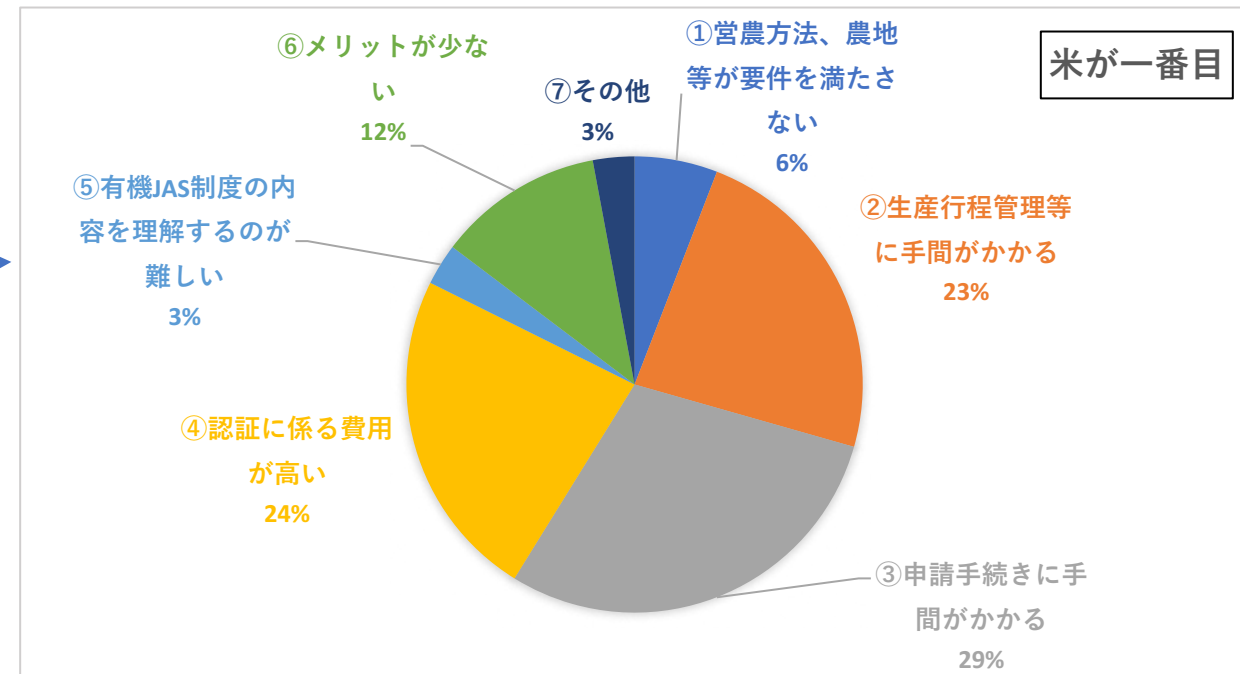
①営農方法、農地等が要件を満たさない	1
②生産行程管理等に手間がかかる	3
③申請手続きに手間がかかる	1
④認証に係る費用が高い	2
⑤有機JAS制度の内容を理解するのが難しい	1
⑥メリットが少ない	0
⑦その他	3

⑦その他具体的にの回答

茶の場合は加工場の問題あり
認証製品の販売がむずかしい
以前有機JAS認証（米、茶）を受けていたが最近病虫害発生が多くなり（米）やめた。収量激減。

野菜が一番目

①営農方法、農地等が要件を満たさない	0
②生産行程管理等に手間がかかる	0
③申請手続きに手間がかかる	1
④認証に係る費用が高い	1
⑤有機JAS制度の内容を理解するのが難しい	0
⑥メリットが少ない	0
⑦その他	0



Point：米が一番目、茶が一番目は②生産行程管理等に手間がかかる、③申請手続きに手間がかかる、④認証に係る費用が高いの割合が高い
野菜が一番目については認証を受けいている農家が多いため回答が少ない

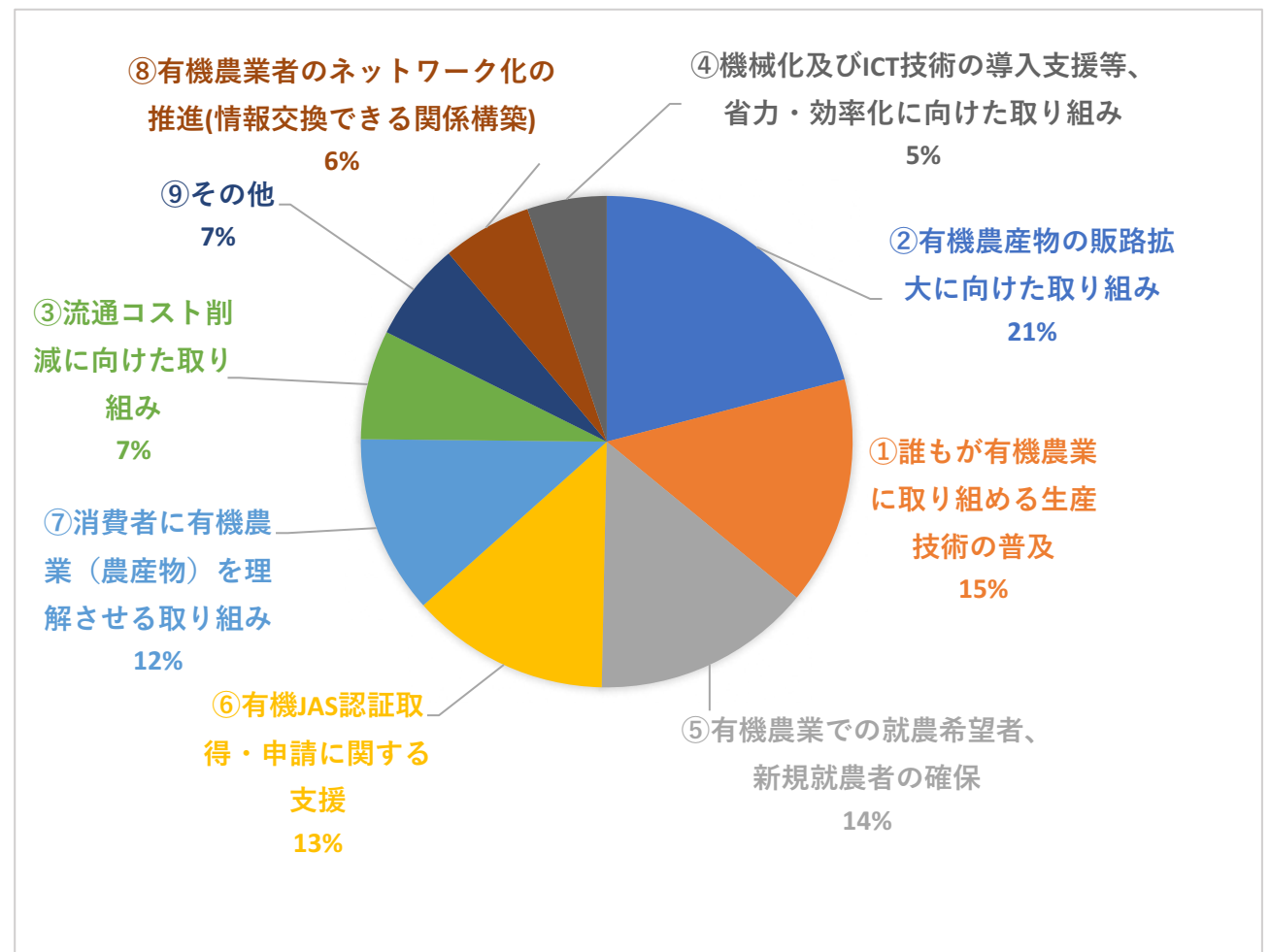
II. 今後の有機農業取組み意向について

9. 有機農業推進に必要な方策 全体

②有機農産物の販路拡大に向けた取組み	32
①誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及	23
⑤有機農業での就農希望者、新規就農者の確保	22
⑥有機JAS認証取得・申請に関する支援	20
⑦消費者に有機農業（農産物）を理解させる取組み	18
③流通コスト削減に向けた取組み	11
⑨その他	10
⑧有機農業者のネットワーク化の推進(情報交換できる関係構築)	9
④機械化及びICT技術の導入支援等、省力・効率化に向けた取組み	8

⑨その他具体的にの回答

天災、自然災害、害虫、獣害による被害の最低限の生活補償
有機技術を学ぶ学校。有機技術指導者も育てる。今いる農業者へのフォローアップ。
アイガモに代わるロボットの開発
価格の確保と安定的に販売できる（収入確保）しくみが必要
面積の拡大も必要だが、まず生産者（有機）増を進める必要あり
農薬当を使用しないことにより高くなるリスクを保証するシステムとそれに対する消費者、非農家の方の理解の構築。
本人のやる気
年々、天気が不安定になってきて今まで以上に作物がわかりづらいので技術を確保させながらも3～4柱の季節の野菜を作りながら天候が悪くその季節でも代用するなど臨機黄変に動き体制を整える。
適正な販売価格での流通
労働力、機械などのシェアができる仕組みの構築
農機への助成！
山都町内のグループ認証への支援



Point：②有機農産物の販路拡大に向けた取組みが最も高い割合だが、その他の選択肢も一定数の回答がある

II. 今後の有機農業取組み意向について

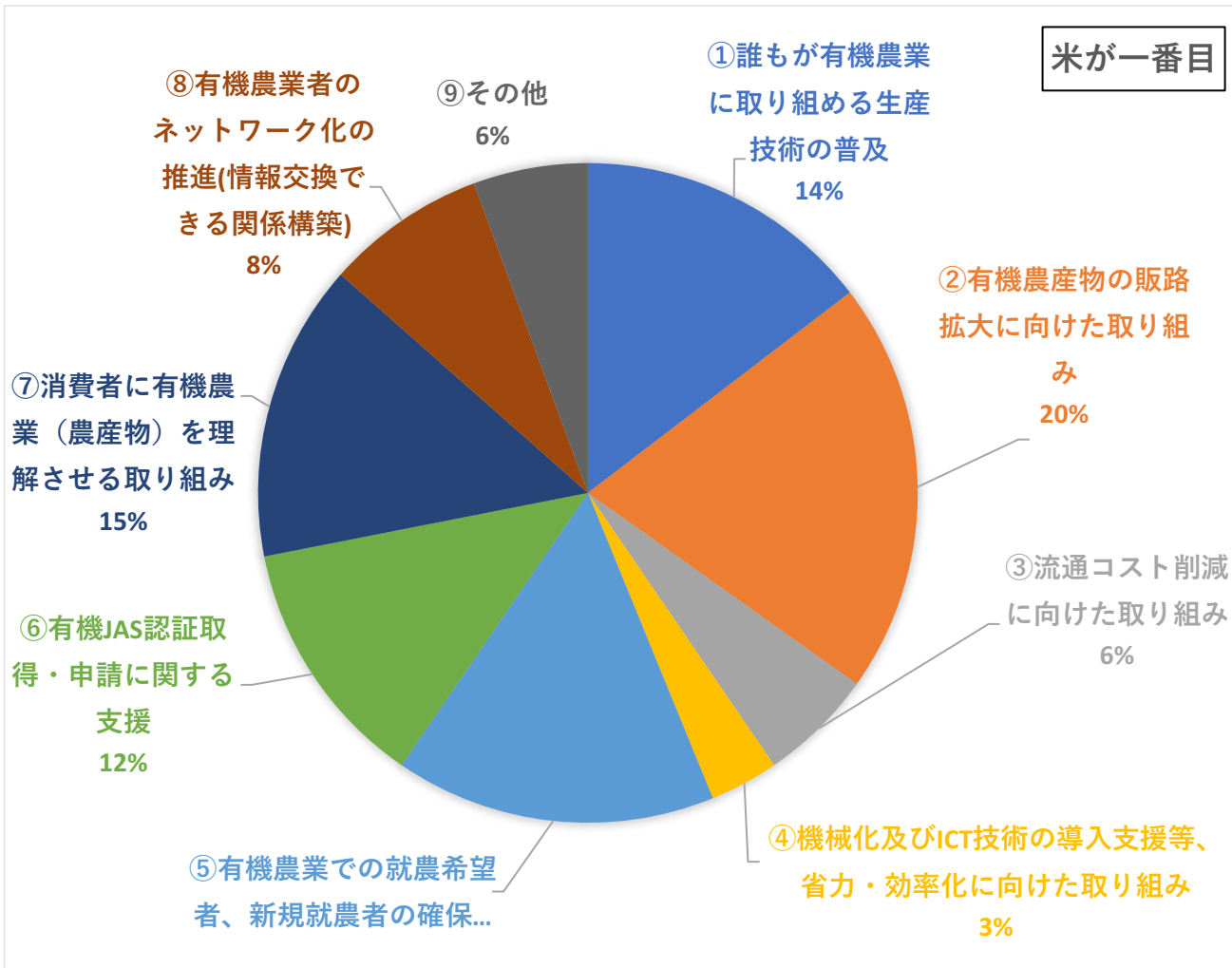
9. 有機農業推進に必要な方策 作物別

米が一番目

①誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及	13
②有機農産物の販路拡大に向けた取り組み	18
③流通コスト削減に向けた取り組み	5
④機械化及びICT技術の導入支援等、省力・効率化に向けた取り組み	3
⑤有機農業での就農希望者、新規就農者の確保	14
⑥有機JAS認証取得・申請に関する支援	11
⑦消費者に有機農業（農産物）を理解させる取り組み	13
⑧有機農業者のネットワーク化の推進(情報交換できる関係構築)	7
⑨その他	5

⑨その他具体的にの回答

天災、自然災害、害虫、獣害による被害の最低限の生活補償
アイガモに代わるロボットの開発
農薬当を使用しないことにより高くなるリスクを保証するシステムとそれに対する消費者、非農家の方の理解の構築。
労働力、機械などのシェアができる仕組みの構築
山都町内のグループ認証への支援



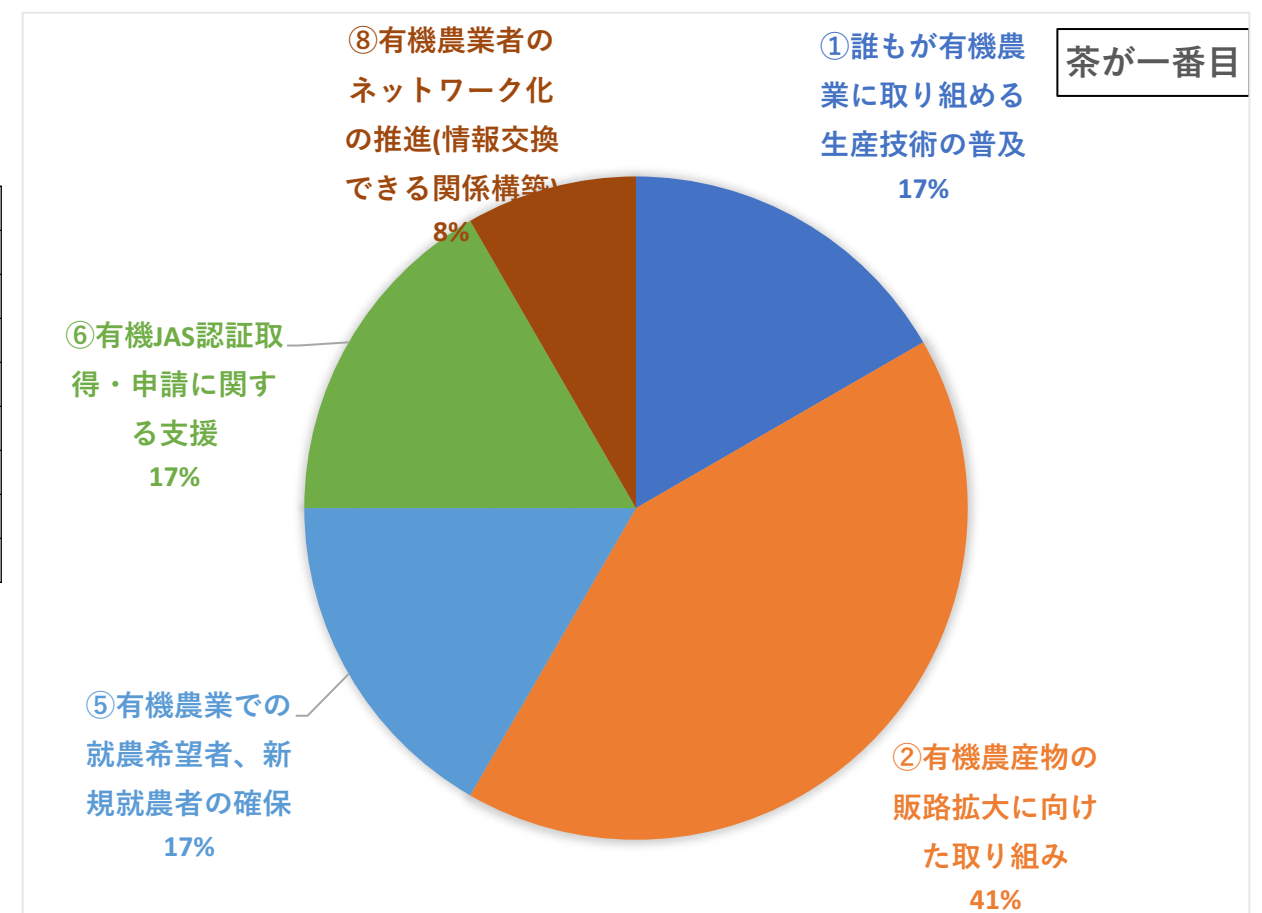
Point：②有機農産物の販路拡大に向けた取り組みが最も高い割合だが、その他の選択肢も一定数の回答がある

II. 今後の有機農業取り組み意向について

9. 有機農業推進に必要な方策 作物別

茶が一番目

①誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及	2
②有機農産物の販路拡大に向けた取り組み	5
③流通コスト削減に向けた取り組み	0
④機械化及びICT技術の導入支援等、省力・効率化に向けた取り組み	0
⑤有機農業での就農希望者、新規就農者の確保	2
⑥有機JAS認証取得・申請に関する支援	2
⑦消費者に有機農業（農産物）を理解させる取り組み	0
⑧有機農業者のネットワーク化の推進(情報交換できる関係構築)	1
⑨その他	0



Point：②有機農産物の販路拡大に向けた取り組みが多くを占めている

Ⅱ．今後の有機農業取り組み意向について

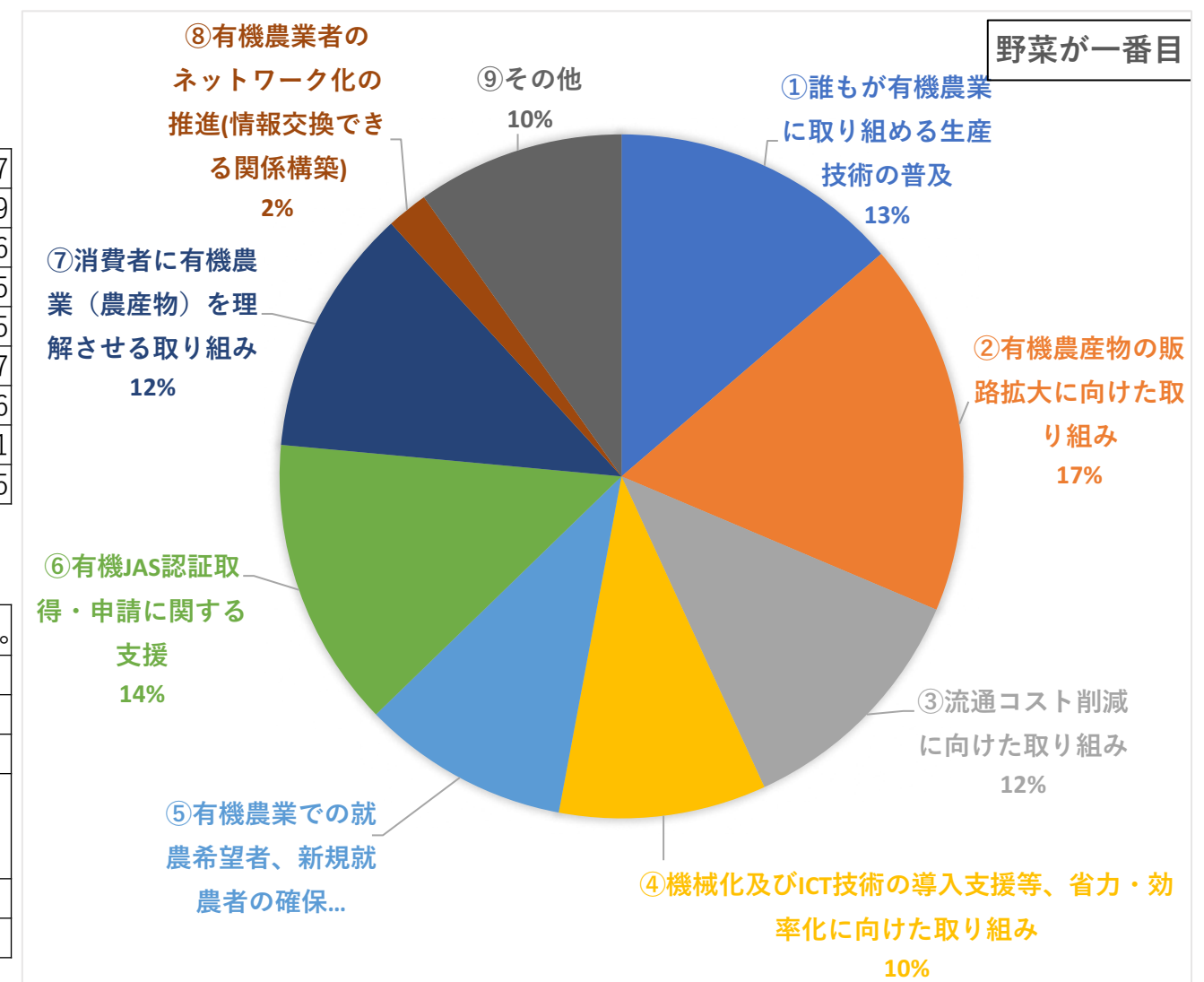
9．有機農業推進に必要な方策 作物別

野菜が一番目

①誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及	7
②有機農産物の販路拡大に向けた取り組み	9
③流通コスト削減に向けた取り組み	6
④機械化及びICT技術の導入支援等、省力・効率化に向けた取り組み	5
⑤有機農業での就農希望者、新規就農者の確保	5
⑥有機JAS認証取得・申請に関する支援	7
⑦消費者に有機農業（農産物）を理解させる取り組み	6
⑧有機農業者のネットワーク化の推進(情報交換できる関係構築)	1
⑨その他	5

⑨その他具体的にの回答

有機技術を学ぶ学校。有機技術指導者も育てる。今いる農業者へのフォローアップ。
価格の確保と安定的に販売できる（収入確保）しくみが必要
面積の拡大も必要だが、まず生産者（有機）増を進める必要あり
本人のやる気
年々、天気が不安定になってきて今まで以上に作物がわかりづらいので技術を確保させながらも3～4柱の季節の野菜を作りながら天候が悪くその季節でも代用するなど臨機黄変に動き体制を整える。
適正な販売価格での流通
農機への助成！



Point：②有機農産物の販路拡大に向けた取り組みが最も高い割合だが、その他の選択肢も一定数の回答がある

Ⅱ．今後の有機農業取組み意向について

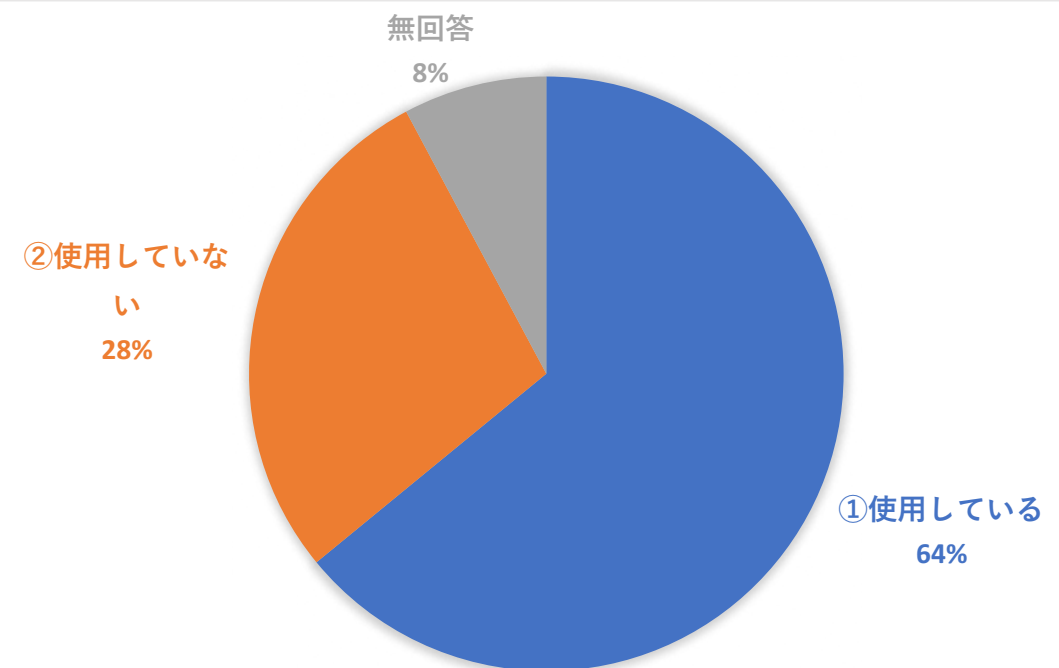
10. 有機農業に取り組む上で課題、要望

学校給食は生産者、業者、学校、保護者の取組みのはず。流通において輸送コストがボランティア（赤字）になっており配達車両の補助はできないだろうか？野菜は金額が低く配送コストを補えていない。車両を電気自動車や広告ペイントするともっと良いのではないだろうか。	学校給食
堆肥センター（野草を中心とした）の建設	機械・資材
廃棄する農家とは場や農機具などのマッチングの仕組みはできないでしょうか。	機械・資材
規模拡大には技術及び機械化導入が必要である	機械・資材
クエン酸が有機JASで使えるようになると技術の幅が広がる。	機械・資材
ケイカルやアグリエースE10号など有機JASで使えなくなる資材が増えて困っている。	機械・資材
有機農業にアイガモで対応して取り組んでいるが外敵が多くて150羽がほとんどいなくなってしまう	機械・資材
資材や肥料、機械等の支援がほしい（マルチ、防虫ネット等）	機械・資材
地域資源を活かした肥料等の開発	機械・資材
堆肥の供給と散布の取組み	機械・資材
集出荷用や保管用の大きい冷蔵庫があるといいと思う	機械・資材
農薬が使用できないので病害虫の対応技術の確保したい	技術
除草剤や色々使用することができない（高齢になると仕事もできなくなり思っているけど経営難になる。有機の仕事は手間がかかり本当に大変だと思います。目に見えてくるので安心なのが第一。自然と向き合っている仕事であり半減するのは納得しているけど今の時代もう少し有機の研究が必要じゃないかと思ったりもします。	技術
後継者の育成をする	後継者・新規就農者
作る人が増え、販売先に安定的に供給できる体制	後継者・新規就農者
しっかりした研修、販売先それがIターン、Uターン全国から来られる方の定住の条件	後継者・新規就農者
有機農業に関わらず農業には資金がかかる	その他
規模拡大を図りたいが経営面で制約を受けている	その他
矢部高校に有機農業を主とした学校になったらいいな	その他
近隣生産者の理解	その他
情報共有	その他
やる奴はやる、やらない奴はやらない、自分次第	その他
集荷の一元化とロットの拡大	販売
都市への流通が主であるためバランス悪い。地方での本路拡大等、新たな販売手法必須。	販売
人口減少によるマーケットの縮小への対応も急務。	販売
価格が一番。取り組みたいと思う価格ではない。	販売
単品での販売より他と合わせた販売が多いので使いづらい	販売
有機JAS認証の補助は継続審査1/2、上限5万円とした方がいいのでは。認証に関わる事務負担は審査費の何倍もかかるので金額補助を目指して次のステップへ向かってほしい	有機JAS
認証料が高い	有機JAS
JAS認証(グループ)の支援・サポート	有機JAS
作業、管理等の事務が煩雑	有機JAS
町は有機農業に対する支援を推進されていると思います。その流れを拡大し継続していただきたいです。	有機農業施策
町の政策としてビジョンをしっかりと掲げる	有機農業施策
山都町ならではの取組み	有機農業施策
特産品があるといい（山都町の有機〇〇など）	有機農業施策
役場、JAなんの取組みもない	有機農業施策
中山間直接払いと連動した加算措置	有機農業施策
労働力の確保（スポットでも可）	労働力

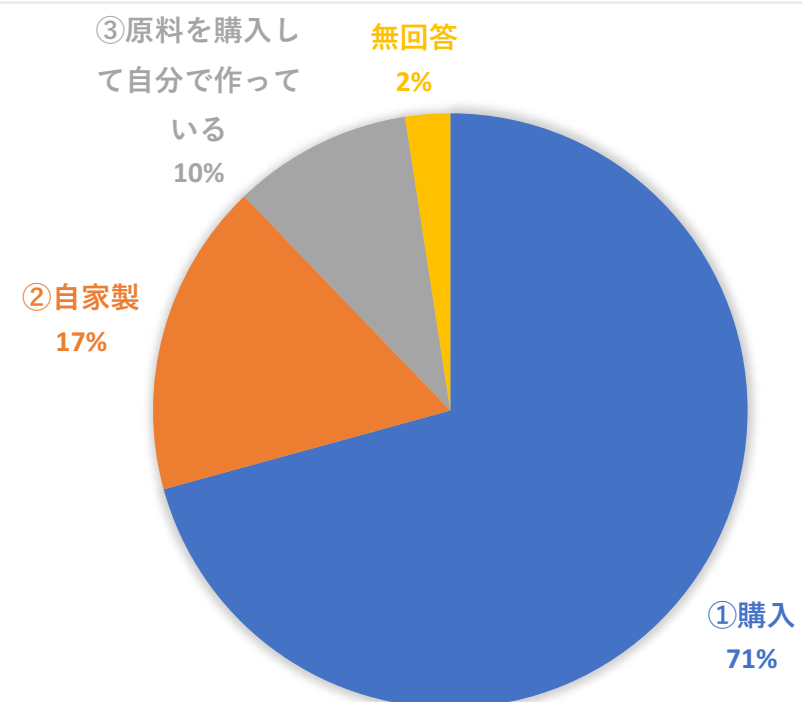
I. 有機農業経営の現状について

10～13堆肥について

①使用している	41
②使用していない	18
無回答	5
合計	64



①購入	29
②自家製	7
③原料を購入して自分で作っている	4
無回答	1
合計	41

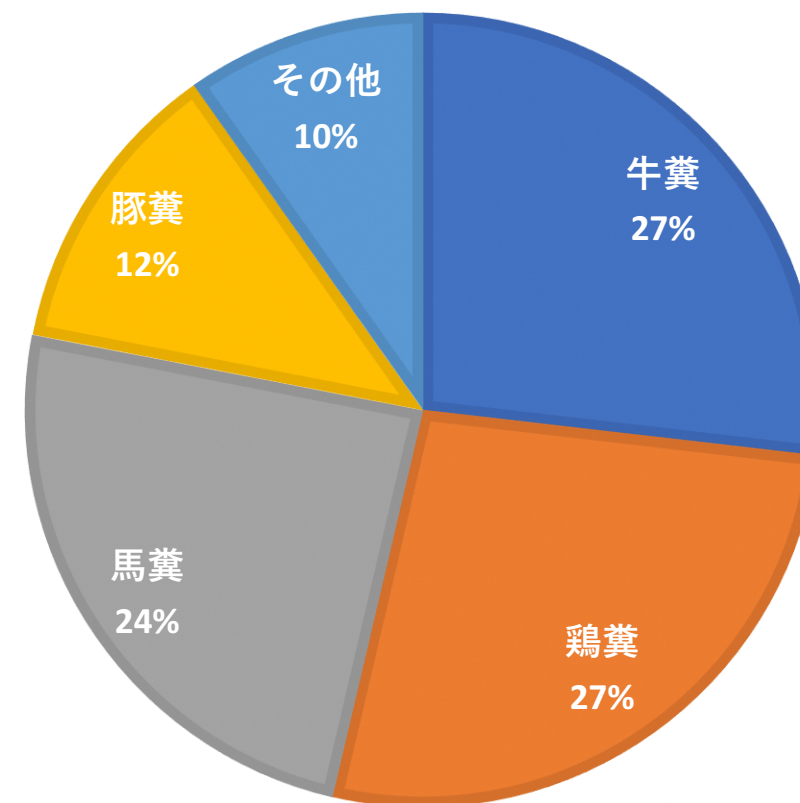


I. 有機農業経営の現状について

10～13堆肥について

使用している堆肥の種類

牛糞	11
鶏糞	11
馬糞	10
豚糞	5
その他	4
合計	41



ヒアリング調査について

対象者：36名

内訳：有機農業生産者
新規就農者
道の駅
JA
販売業者
町内飲食店
消費者

ヒアリング調査期間：2021年8月11日～9月16日

有機農業生産者へのヒアリングの設問内容

- ・ 有機農業を始めた経緯
- ・ 有機農業をするメリット
- ・ 協議会や部会での伸ばしていきたい活動
- ・ 協議会や部会での問題点や課題
- ・ 有機農業をする上での問題点や課題
- ・ 山都町の有機農業推進に必要なこと

有機農産物生産販売での問題や課題の要素分析【生産者】

No	有機農業をする上での問題点や課題	要素分析
1	消費者の求めていることができていない。買える場所が限られている。山都町の人を買えない。	買える場所が限られている
		山都町の人を買えない
2	労働力不足だが、経営的に人を雇用することが難しい。草刈りに手間がかかり大変。	労働力不足
		人を雇うことは困難な経営
3	価格が安い（かかるコストに見合っていない）。販売先が少ない。知名度が低い。	価格が安い
		知名度が低い
4	以前はアイガモで水田の除草をしていたが、アイガモに手間がかかることやキツネなどの外敵に襲われ被害が出たため、今は機械除草（共同機械）をしている。	アイガモの手間がかかる
		アイガモが外敵から狙われる
5	慣行ほ場からの農薬の飛来。市場の価格の影響を受ける時がある。堆肥を多く使用すると硝酸体窒素の問題がある。	慣行ほ場からのドリフト
		市場の価格の影響
		硝酸体窒素の害
6	面積の狭い土地が多い。機械が共同のものもあるので、時期的にかぶってしまう。	面積の狭い土地が多い
		共同機械が時期的にかぶる
7	手間暇がかかる割には価格が安い。価格に手間暇が反映されていない。アイガモだけでも100羽あたりアイガモ購入費60,000円、エサ台15,000/年、処理費70,000円＋ネット代、小屋代などの資材費で200,000円/年かかる。	アイガモの手間が価格に反映されていない
		アイガモの経費がかかる
8	慣行の農地から農薬が飛来してくること。町全体で有機農業に取り組む必要があると思う。	慣行ほ場からのドリフト
9	雑草対策が大変。有機栽培と言ってもわかる人がいないので特別栽培茶として販売している。	雑草対策が大変
		有機栽培の理解がない
10	家族経営が多いが、家族経営で有機農業は大変なところがる（経営が大変なので）。山都町の有機農家は経営でいっぱいになり農業が楽しめていない。売り先が多いだけに、売り先に言われたとおりに作るだけで自分で考えて作物を作っていない。補助金を上手に使えていない。めんどくさがって補助金を使おうとしない。	家族経営の弊害
		経営が大変
		補助金の活用ができていない
11	ここ数年の異常気象にどう対応するか。	異常気象への対応
12	特に大きな問題はない。	
13	農業収入が少ない、担い手不足、ブランド力が不足、産地競争で埋没しているなど厳しい悪循環がある。後継者が残っていくような農業になっていない。売上や労力的に継ぎたくなる農業ではない。農家の経営が上手くいっていない。最終的な売値を知らない人が多い。販売の仕方や高く売れるしくみ作りなどの戦略が必要。	農業収入が少ない
		担い手不足
		ブランド化不足
		後継者が残るような農業になっていない
		販売の戦略がない
14	自身の営農の合間で事業をやっているので協力者が欲しい。メンバーもみんな忙しいので自身の負担が大きくなっている。	事業の協力者がいない
15	規模拡大できる人とできない人がいる。各生産者によって条件が違う（人材、資金など）	生産者によって条件が違う

山都町の有機農業推進に必要なことの要素分析【生産者】

No	山都町の有機農業推進に必要なこと	要素分析
1	みんなが協力し合う体制を作る事。山都町へ来て野菜を買いたいというような町にしたい。新しくできる道の駅を有機農産物をPRする拠点にしたい（イベントなどを毎月開催するなど）。	生産者が協力し合う体制
		有機野菜を買いに来てもらう仕組み作り
		道の駅の拠点化
2	JAS認証取得（事務処理、資材証明書取得など）をサポートする仕組み。機械や自動化への補助やリース事業。オペレーター付きの機械リースなどがあればいい。	有機JAS認証取得サポート
		機械や自動化への支援
3	行政と協議会の協力、連携を強めること。間口を広げて有機、減農薬、減化学肥料を推進していく。山都町の農産物をPRしていくこと。後継者、新規就農者の育成。	行政と協議会の協力、連携強化
		協議会の間口を広げる
		山都町農産物のPR
		後継者、新規就農者の育成
4	販路の確立。売り先を作ること。有機JAS認証の補助を続けていくこと。	販路の確立
		有機JAS認証取得料の補助継続
5	慣行農家に有機農業を理解してもらう(有機ほ場から虫が飛んでくるなどの誤解) こと。移住して農業をしている人への支援。	慣行農家の有機農業への理解
		移住就農者への支援
6	認証の面積規模に応じて認証費の助成を変える。有機農業をもっとPRする。山都町の有機農業の土台を作る。	有機JAS認証面積に応じたの助成
		有機農産物のPR
		有機農業の体制整備
7	有機JAS認証料の全額補助。機械購入の助成。スマート農業の推進。アイガモにかかる費用の助成（矢部有研で2,300羽の購入がある）。アイガモの肉の活用。	有機JAS認証料の全額補助
		機械購入の助成
		スマート農業の推進
		アイガモにかかる費用の助成
		アイガモの肉の活用

山都町の有機農業推進に必要なことの要素分析【生産者】

8	良質な堆肥を提供する町営の堆肥場の設置。町内の飲食店が有機農産物を使った料理を出すこと。試験場跡を利用して有機農業の拠点を作ること。生産者の地図を作り、見た人が生産者のところへ直接行き、収穫体験した野菜を購入する仕組みを作ること。	町内の飲食店が有機農産物を使った料理を出すこと 試験場跡を利用して有機農業の拠点を作ること 生産者の地図を作り、見た人が生産者のところへ直接行き、収穫体験した野菜を購入する仕組みを作ること
9	販売を支援していく事。販売価格が上がるような取り組みが必要。後継者が残っていくような農業をしたい。	販売の支援 販売価格が上がるような取り組み 後継者作り
10	数値目標など具体的な目標を決める。頑張っている農家に補助していく。一率で補助するのには反対。みんなで連携してやっていくこと。	数値目標の設定 規模拡大など努力している農家への支援 生産者の連携
11	後継者確保。後継者が残っていけるような体制を作ること。	後継者確保・育成
12	有機農業の学校を町の実践場として入れてほしい。BLOF理論を中心とした有機農業や持続的な生活を学ぶ場を作りたい。	有機の学校 BLOF理論を中心とした有機農業や持続的な生活を学ぶ場作り
13	品質向上に取り組む。山都町のブランド化→消費者からの産地としての認知・信頼獲得。既存の売り方以外の検討（農家レストラン、新しい販路、教育の一環として食と農を事業化）などが必要。特に有機野菜の料理教室など地元や町外の子供たちに有機農産物や有機農業に触れる機会を作ること。農林振興課だけでなく教育委員会や山の都創造課なども連携して取り組んでいく必要があるのではないか。	農産物の品質向上 山都町のブランド化 子供が有機野菜に触れる場を作る 役場各課の連携
14	みどりの食料戦略のトップランナー、モデルとして山都町の農地の25%を2050年までに有機ほ場にすること。有機農業をした方が生産者にいいと思われるように。学校給食がボランティアベースになっているので、継続して供給できるような形にしていく。ボランティアでは続かない。電気自動車の車両で給食の有機野菜を配送する車両にSDGSのペイントを施してアピールする。	みどりの食料戦略のトップランナーを目指す 有機農産物学校給食利用の継続可能な運用 給食配達車両の電気化、ペイントでのPR
15	生産者を増やす。機械化（必要な機械を購入するための支援）。発注方法の簡素化（LINEなどの活用）。新規就農者への支援（施設整備への補助など）。長い目で見た施策をしてほしい。	生産者増の取り組み 機械化への補助

新規就農者へのヒアリングの設問内容

- ・ 有機農業を始めた経緯、新規就農した経緯
- ・ 有機農産物生産販売での良いところ
- ・ 有機農産物生産販売での問題や課題
- ・ 新規就農するにあたり良かった事
- ・ 新規就農するにあたり苦労した事
- ・ 山都町の有機農業推進について 必要なもの、課題

有機農産物生産販売での問題や課題の要素分析【新規就農者】

No	有機農産物生産販売での問題や課題	要素分析
16	生産量と農作物の質が安定しない。（経験や技術を上げていくことで解決したい）	生産量と農作物の質が安定しない
		経験や技術の向上
17	長期作などの生産に課題がある（有機JASで認められている資材では細やかな防除が必要で手が回らない）。規格外の野菜が出てしまう（強力な農薬が使用できないので）。	生産量に課題がある
		規格外の野菜が出てしまう
18	個人としては農業技術の向上、規模拡大の必要があることが課題だと思っている。新規就農者に関しては新規で入ってくる人が同じ作物を作って売り先があるのかが心配。	農業技術の向上
		作物がかぶっている
19	販売ロットが少ない。短期間に量が出せない。作目が絞られる。	短期間に量が出せない
		作目が絞られる

山都町の有機農業推進に必要なことの要素分析【新規就農者】

No	山都町の有機農業推進について 必要なもの、課題	要素分析
16	チーム山都でまとまること。中古機械の仲介。農地バンクのようなスピード感のある紹介をしてくれるような仕組み。	チーム山都でまとまること
		農地バンク
17	有機農産物の良さ（成分や何が具体的にいいのか）を発信すること。しっかりした根拠のあるデータを示すこと。	根拠のある有機農産物PR
18	有機農業に理解のある労働力（作業の大変さや賃金の安さへの理解）。多様な販売先（新規就農者が作りたい特殊な野菜でも買ってくれる）新規就農者が規模拡大や営農継続のための機械の購入補助や施設への補助などへの支援。	有機農業に理解のある労働力
		多様な販売先
		規模拡大への支援
		営農継続への支援
19	規模拡大するのに機械や施設の補助を受ける時の条件が緩くなること。規模拡大を応援するから必要だと思う。	規模拡大への支援

有機農産物生産販売での問題や課題の要素分析【生産者】【新規就農者】 まとめ要素分析分類分け

機械・施設・資材	アイガモの手間がかかる
	アイガモが外敵から狙われる
	面積の狭い土地が多い
	共同機械が時期的にかぶる
	アイガモの手間が価格に反映されていない
	アイガモの経費がかかる
技術	有機栽培の理解がない
	生産量と農作物の質が安定しない
	経験や技術の向上
	生産量に課題がある
	規格外の野菜が出てしまう
	農業技術の向上
	作物がかぶっている
	短期間に量が出せない
	作目が絞られる
後継者	担い手不足
	後継者が残るような農業になっていない
農業経営	労働力不足
	人を雇うことは困難な経営
	家族経営の弊害
	経営が大変
	補助金の活用ができていない
	農業収入が少ない
	生産者によって条件が違う
販売・PR	買える場所が限られている
	山都町の人を買えない
	価格が安い
	知名度が低い
	市場の価格の影響
	ブランド化不足
	販売の戦略がない
その他	慣行ほ場からのドリフト
	硝酸体窒素の害
	慣行ほ場からのドリフト
	雑草対策が大変
	異常気象への対応
	事業の協力者がいない

山都町の有機農業推進に必要なことの要素分析【生産者】 【新規就農者】 まとめ要素分析分類分け

機械・施設・資材	機械や自動化への支援
	機械購入の助成
	スマート農業の推進
	アイガモにかかる費用の助成
	良質な堆肥を提供する町営の堆肥場の設置
	機械化への補助
規模拡大	規模拡大など努力している農家への支援
	農地バンク
	有機農業に理解のある労働力
	規模拡大への支援
	規模拡大への支援
後継者、新規就農者の育成、支援	後継者、新規就農者の育成
	移住就農者への支援
	後継者作り
	後継者確保・育成
	有機の学校
	BLOF理論を中心とした有機農業や持続的な生活を学ぶ場作り
	新規就農者への支援
	営農継続への支援
販売・PR	有機野菜を買いに来てもらう仕組み作り
	山都町農産物のPR
	販路の確立
	有機農産物のPR
	町内の飲食店が有機農産物を使った料理を出すこと
	生産者の地図を作り、見た人が生産者のところへ直接行き、収穫体験した野菜を購入する仕組みをすること
	販売の支援
	販売価格が上がるような取組み
	山都町のブランド化
	給食配達車両の電気化、ペイントでのPR
	根拠のある有機農産物PR
	多様な販売先
有機JAS関連	有機JAS認証取得サポート
	有機JAS認証取得料の補助継続
	有機JAS認証面積に応じたの助成
	有機JAS認証料の全額補助
有機農業の拠点作り	道の駅の拠点化
	試験場跡を利用して有機農業の拠点を作ること
連携体制・体制整備	生産者が協力し合う体制
	行政と協議会の協力、連携強化
	協議会の間口を広げる
	有機農業の体制整備
	数値目標の設定
	生産者の連携
	役場各課の連携
	みどりの食料戦略のトップランナーを目指す
	チーム山都でまとまること
その他	農産物の品質向上
	有機農産物学校給食利用の継続可能な運用
	慣行農家の有機農業への理解
	アイガモの肉の活用
	子供が有機野菜に触れる場を作る
	生産者増の取組み

道の駅へのヒアリングの設問内容

- ・ 現在の道の駅の状況 農産物販売について
- ・ 有機農産物に対して
- ・ 有機農産物の加工品について
- ・ 今後の道の駅の展望

今後の道の駅の展望の要素分析【道の駅】

No	今後の道の駅の展望	要素分析
20	以前から安全安心な農産物や商品が多いので継続して販売していきたい。認証表示があれば有機の町として販売できると思うが、高齢の生産者が認証を取るのは難しい。山都町独自の野菜袋とかがあれば山都町の農産物として買っていただけるのではないかと。ここに来ないと買えないという何かがあればいいと思う。	山都町独自の表示や野菜袋
		山都町に来ないと買えないという何か
21	生産者が高齢化しているので、他地域の生産者や生産者の会へ入られていない方も出荷できるように広く生産者を増やしていきたい。	生産者を増やしていきたい
22	物産館で売り切れない野菜をのレストランで使用する、をしていきたい。また、自施設生産されている野菜を販売すること、物産館から町外の店舗へ卸す取組みを始めている。	生産者を取り戻すこと
		レストランでの野菜の再利用
		町外販売業者へ卸す取組み

JAへのヒアリングの設問

- ・ 有機農産物生産の状況について
- ・ 有機農産物推進の体制や意向について
- ・ 有機米について
- ・ 有機茶について
- ・ JA全体の有機農業の位置づけや今後の展開について

JA全体の有機農業の位置づけや今後の展開について【JA】

No	JA全体の有機農業の位置づけや今後の展開について	要素分析
24	他のJAについても有機農業を推進しているJAはないが、今後の山都町の農業にとって必要な取り組みだと感じている。JAにとって有機農業推進は難しい課題だと感じているが、今の有機米や有機茶の生産者支援や集荷体系を継続していきたい。	新しい取り組みは難しいが、今の有機米や有機茶の生産者支援や集荷体系を継続していきたい
25	JAで新たに有機推進に取り組むのは難しいと感じているが、大事な取り組みだと感じている。今いる生産者の支援を継続していきたい。	新しい取り組みは難しいが、今いる生産者の支援を継続していきたい

販売業者（卸業）へのヒアリングの設問内容

- ・ 有機農産物販売の現状 数量、金額等
- ・ 有機農産物の生産者～消費者までの流れについて
- ・ 山都町の有機野菜の販売の現状
- ・ 有機農産物のニーズについて どのようなニーズがあるのか
- ・ 業者として今後の有機農産物の流通や販売について
- ・ 消費者のニーズにどう対応していくか 今後の有機農産物の展望

消費者のニーズにどう対応していくか 今後の有機農産物の展望【販売業者】

No	消費者のニーズにどう対応していくか 今後の有機農産物の展望	要素分析
25	有機農産物の知名度を上げていくこと。自治体などと協力して生産者情報なども併せてPRしていくことが重要。	生産者情報と併せた農産物のPR
27	関東への出荷であれば重量野菜は難しいと思う（輸送代がかかり価格が上がるため）。流通コストを抑えて販売価格を下げる事が必要。玉レタスや白菜など結球する有機野菜の生産が難しいのでそこを生産できれば強いと思う。	流通コストを下げる 結球野菜の生産
28	みどりの食料戦略によって大型産地などが有機農産物を作るようになると有機農産物の価格が値崩れするのではないかと。山都町の有機農産物としてPRや生産、出荷体制作りをどうしていくのかが重要になってくる。そこを町を中心に考えていきたい。	PRや生産、出荷体制作りをどうしていくのか
29	山都町の有機野菜のファン作りが大事だと思う。生産者の人柄や想いをアピールしていくことが大事だと思う。山都町は面白い生産者が多いのでそこをアピールしていおけたらファンが獲得できると思う。	山都町の有機野菜のファン作り 生産者の人柄や想いをアピールする
30	山都町のくだもの(栗、ブルーベリーなど) や重量野菜(キャベツなど)も扱えるような生産者を増やしていきたい。企業参入などによって有機野菜の価格が下がってきている現状から価格を安定させる努力をしていきたい。	くだもの、重量野菜の生産 価格を安定させること

町内飲食店へのヒアリングの設問内容

- ・ 有機農産物の利用の現状について
- ・ 有機農産物への要望
- ・ 有機農産物を利用するための条件 金額・注文先等

有機農産物への要望・有機農産物を利用するための条件 金額・注文先等 【飲食店】

No	有機農産物への要望	有機農産物を利用するための条件 金額・注文先等	要素分析
31	学校給食の配達と一緒に配達してくれるといい。スマホなどで簡単に注文できるようになったらいい。	金額的には今のままでよい。それくらいの価値はある。SDGs未来都市にもなり、山都町民が有機野菜を利用するように長期的な計画を作ることが必要だと思う。山都町の子供たちが有機野菜を食べられるような環境作りが必要だと思う。そのためには関心の高い移住者や新規就農者へ支援し活躍してもらいたいと思う。	スマホで注文できる仕組み作り
			学校給食配達と併せた配達
			山都町民が有機野菜を利用する長期的な計画作り
			移住者や新規就農者への支援
32	うまかもん祭りのイベントで有機農業協議会とコラボさせていただいて、有機農産物を利用することについて有機農業協議会会長と話したことがあった。有機農産物が手に入るようにしてほしいことと、規格外の野菜でも使用したいということは伝えた。	発注(FAXやLINEなど) や取りに行く先を作るなどや配達の仕組みができれば利用したいと思う。規格外の野菜でもいいので、普通の野菜と同じくらいの金額であれば利用したいと思う。	有機野菜の発注ができる仕組み作り

消費者へのヒアリングの設問内容

- ・ 有機農産物のイメージ
- ・ 有機農産物の購入について どのくらい、どこで購入しているか
- ・ 有機農産物への要望

有機農産物への要望【消費者】

No	有機農産物への要望	要素分析
33	生産者の顔がわかってどうやって作ったか、どういう想いで作ったなどが伝わると思う。	生産者の顔がわかること
34	山都町のここに行けば有機野菜が手に入るという場所があればいい。現在有機野菜があるところもあるが、量や品数が少ない。	山都町で有機野菜が手に入る場所を作る
35	有機野菜は手に入らないイメージ。有機野菜がおいてあるのかよくわからないのでPOPなどでわかりやすく表示してほしい。具体的にどのようなメリットがあるのか、誰がどうやって作ったかなどの説明があればいい。	わかりやすい有機野菜の表示
		誰がどのように作ったかなどのPOP表示
36	スーパーに有機野菜があるかどうかわからない。POPなどに有機野菜の表示やどういう野菜か書いてあると興味が沸くと思う。	わかりやすい有機野菜の表示
		誰がどのように作ったかなどのPOP表示

アンケート・ヒアリングのまとめ

1. 水稻について全体経営面積からの有機取組み面積、有機JAS取組み面積の減少率が高い

水稻栽培において有機栽培のハードルが高いと思われる。アンケート、ヒアリングではアイガモ除草に手間や費用がかかる、などの意見が多い。アイガモ除草以外の除草方法への取組みやアイガモ除草への補助やサポートを必要とする回答がみられた。

また有機JAS認証への取組みについてはアンケート「II. 今後の有機農業取組み意向について 6. JAS認証 縮小、受けない理由」の設問の結果から後継者・労働力が不足(4人が回答)、認証の費用が高い(4人が回答)、生産行程等に手間がかかる(2人が回答)などの理由により有機認証JAS取得のハードルが高いと思われる。後継者・労働力不足については認証に係る労働力が不足していること、後継者がいないので認証まで手が回らないことが理由と考える。認証に係る費用が高いについては、有機JAS認証では面積規模が大きくなるにつれて取得費用が高くなるので、面積を多く必要とする水稻栽培は認証費用が高くなるためであると考え。生産行程管理に手間が認証に必要な事務処理や生産行程管理まで手が回らないことが理由である。

2. 野菜栽培経営体の売上金額が高く、経営が安定しているため規模拡大志向が高い

アンケートの「I. 有機農業経営の現状について 売上金額について」について、他作物より野菜の方が面積あたりの売上金額が高い。また、経営面積についても全体面積から有機取組み面積、有機JAS取組み面積の減少率が他作物よりも低い。アンケートの「II. 今後の有機農業取組み意向について 1. 取組面積規模について」の設問において、野菜が一番目の経営体は「増やしたい」「条件が合えば増やしたい」の回答が多かった。野菜栽培の経営体は経営が安定していることから規模拡大志向が高いことがわかった。「II. 今後の有機農業取組み意向について 2. 取組面積を増やすのに必要な条件」においては「労働力の確保」、「新たな農地の確保」を回答している割合が高い。

3. 有機農業への取組みに意欲のある経営体の割合が高い

アンケート「Ⅱ. 今後の有機農業取組み意向について 1. 取組面積規模について」の設問において、規模拡大の意向のある経営体が33%、面積維持の意向のある経営体が45%と78%を占める。後継者、労働力不足の問題のある中に規模維持、拡大の意向のある経営体が多くみられ、有機農業の取組みに意欲のある経営体の割合が高い。

またアンケート「Ⅱ. 今後の有機農業取組み意向について 5. 有機認証について」も継続して受ける(面積を拡大したい)38%、継続して受ける(面積を維持したい)46%と84%を占めている。このことから有機農業生産への取組みに意欲のある農家の割合が高い。

4. 有機JAS認証取得のハードルは認証に係る手間がかかるの割合が高い。

アンケート「Ⅱ. 今後の有機農業取組み意向について 8. JAS認証困難な理由 全体」の設問において生産行程等に手間がかかる25%、申請手続きに手間がかかる25%と半数が有機JAS認証が取得困難な理由として有機JAS認証に手間がかかることを挙げている。有機取組み面積から有機JAS取組み面積の減少率(43%)が高いことから栽培方法は有機だが、有機JAS認証まで至らない経営体が多くみられる。

5. 有機農業推進に必要な方策は多岐にわたって求められている

アンケート「Ⅱ. 今後の有機農業取組み意向について 9. 有機農業推進に必要な方策の設問」において有機農産物の販路拡大に向けた取り組み21%、誰もが有機農業に取り組める生産技術の普及15%、有機農業での就農希望者、新規就農者の確保14%、有機JAS認証取得・申請に関する支援13%、など多くの項目にわたっての回答が多い。ヒアリングについても対象者により様々な項目の意見が挙げられた。アンケート回答者、ヒアリング対象者の有機農業推進に必要なだと求められている項目は多岐にわたっている。